第 30 回日本緩和医療学会学術大会

目 次

大会長講演 (PL)	S1
30 周年特別企画シンポジウム (MSY)	S1
基調講演 (KL)	S1
特別講演 (SL)	S1
特別教育講演 (SEL)	S2
海外招聘講演 (IL)	S2
大会長企画シンポジウム (PSY)	S2
教育講演 (EL)	S3
合同シンポジウム (JSY)	S6
シンポジウム (SY)	S7
パネルディスカッション (PD)	S11
ワークショップ (WS)	S14
委員会企画 (CM)	S16
APHN/JSPM Joint Session	S20
TIPS (TIPS)	S20
ランチョンセミナー (LS)	S21
スイーツセミナー (SS)	S24
PAL 企画 (PAL)	S24
交流集会 (EM)	S25
市民公開講座	S27
最優秀演題	S27
優秀演題	S27
一般演題ポスター	S32
PAL ポスター	S67

大会長講演

PL1 緩和医療 - 生老病死を慈しむ

7月4日(金)8:40～9:10
第1会場

座長：余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：緩和医療 - 生老病死を慈しむ
田村 恵子（大阪歯科大学）

30周年特別企画シンポジウム

MSY1 緩和医療の30年：過去から学び、未来を創る

7月4日(金)10:30～12:00
第1会場

座長：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）
田村 恵子（大阪歯科大学）

演者：志真 泰夫（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）
細川 豊史（洛和会丸太町病院、洛和会ヘルスケアシステム、京都府立医科大学 名誉教授）

基調講演

KL1 人間の本質としての「弱さ」について

7月4日(金)9:15～10:15
第1会場

座長：田村 恵子（大阪歯科大学）

演者：人間の本質としての「弱さ」について
宮坂 道夫（新潟大学大学院保健学研究科）

特別講演

SL1 ケアの炎をまきちらせ

7月4日(金)13:25～14:25
第1会場

座長：白井 由紀（関西医科大学 看護学部・看護学研究科 治療看護分野 がん看護学領域）

演者：ケアの炎をまきちらせ
栗原 康（東北芸術工科大学芸術学部文芸学科）

SL2 ケアが成就する身体 ～自他が揺らぐことを肯定する

7月4日(金)14:40～15:40
第1会場

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科／支持・緩和療法チーム）

演者：ケアが成就する身体 ～自他が揺らぐことを肯定する
中村 佑子（(株)テレビマンユニオン、立教大学）

SL3 緩和ケアにおける研究と臨床は同じことである：黎明期の0から1を作る試行錯誤

7月4日(金)16:20～17:20
第1会場

座長：前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア内科）

演者：緩和ケアにおける研究と臨床は同じことである：黎明期の0から1を作る試行錯誤
森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

SL4
豊かな最晩年をつくる - 超高齢者の緩和ケア

7月5日(土)14:40～15:40
第1会場

座長：荒尾 晴恵（大阪大学大学院医学系研究科）

演者：豊かな最晩年をつくる - 超高齢者の緩和ケア
桑田 美代子（医療法人社団慶成会青梅慶友病院看護介護開発室）

特別教育講演

SEL
緩和ケアはどこまで標準化できるのか

7月5日(土)8:45～9:45
第1会場

座長：宮下 光令（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

演者：緩和ケアはどこまで標準化できるのか
田代 志門（東北大学大学院文学研究科社会学専攻分野）

海外招聘講演

IL1
Compassion 360: Living an Integrated Life

7月5日(土)8:45～9:45
第7会場

座長：栗原 幸江（上智大学グリーンケア研究所、認定NPO法人マギーズ東京、駒込病院 緩和ケア科）

AI 通訳

* 発表言語：英語

演者：Compassion 360: Living an Integrated Life
Koshin Paley Ellison（New York Zen Center - Co-Founder, President, & Guiding Teacher）

IL2
Compassionate Palliative Care - Aesthetics, Morality, & Awe of Life
命を慈しむ緩和ケアの美意識、道德観、畏怖の念

7月5日(土)10:30～11:30

第7会場

座長：梅田 恵（ファミリーホスピス株式会社 品質管理室）

AI 通訳

* 発表言語：日本語

演者：Compassionate Palliative Care - Aesthetics, Morality, & Awe of Life
命を慈しむ緩和ケアの美意識、道德観、畏怖の念

岡田 圭（Columbia University Seminar on Death, International Association for Spiritual Care, 臨床スピリチュアルケア協会（PASCH））

大会長企画シンポジウム

PSY1
老いに沿うコミュニケーション

7月4日(金)10:30～12:00
第3会場

座長：白井 由紀（関西医科大学 看護学部・看護学研究科 治療看護分野 がん看護学領域）
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

演者：私たちは老いをどのように捉え、向き合うのか
小川 朝生（国立がん研究センター東病院精神腫瘍科、国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野）

高齢者とのコミュニケーションで大事にしてきたこと
西山 みどり（有馬温泉病院）

ともに歩く
村瀬 孝生（宅老所よりあい）

PSY2
多職種で考えるスピリチュアルケア

7月5日(土)10:30～12:00
第1会場

座長：松原 貴子（三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター）
坂井 さゆり（新潟大学大学院保健学研究科）

演者：多職種で考えるスピリチュアルケア～薬剤師にとってのスピリチュアルケア～
岡本 禎晃（公立大学法人敦賀市立看護大学）

作業療法士としてのスピリチュアルケア
田尻 寿子（静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション室）

心理士の視座からスピリチュアルケアを考える
栗原 幸江（上智大学グリーンケア研究所、認定NPO 法人マギーズ東京、駒込病院緩和ケア科）

臨床宗教師の視点から考えるスピリチュアルケア
金田 諦晃（東北大学大学院文学研究科、東北大学病院緩和医療科）

教育講演

EL1
在宅医療で役立つ家族療法の視点・技法

7月4日(金)9:15～10:00
第2会場

座長：餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）

演者：在宅緩和ケアで使える家族療法の視点とスキル
山田 宇以（聖路加国際病院 心療内科）

EL2
がん病態下における脳内変容と疼痛

7月4日(金)9:15～10:15
第3会場

座長：天谷 文昌（京都府立医科大学）

演者：がん病態下における脳内変容とシンクロするがん性疼痛の理解：求められる次世代型緩和医療の視点
成田 年（星薬科大学薬理学研究室、国立がん研究センター研究所がん患者病態生理研究ユニット）

EL3
PMDAの医薬品副作用データベース（JADER）を用いた非がん患者を対象としたオピオイド鎮痛薬の使用状況、有害事象解析

7月4日(金)9:15～10:00
第4会場

座長：内田 まよこ（九州大学病院薬剤部）

演者：医薬品副作用データベース JADER を用いたオピオイド鎮痛薬関連呼吸抑制の解析結果から考える使用時の注意点
菅原 英輝（鹿児島大学病院 薬剤部）

EL4
緩和領域の便秘のマネジメント

7月4日(金)9:15～10:00
第12会場

座長：東端 孝博（筑波大学 医学医療系 緩和支援診療科）

演者：病態に応じた便秘に対する治療戦略
結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）

EL5
身寄りのない患者の”いざ”に備える～活用できるサービス、社会制度～

7月4日(金)9:15～10:00
第14会場

座長：風間 郁子（Wyl株式会社 ウィル訪問看護ステーション江戸川）

演者：「身寄りがなくても生きやすい社会」に向けて何ができるか？
岩田 直子（筑波大学附属病院医療連携患者相談センター）

EL6
ピア・SNS との付き合い方

7月4日(金)13:25～14:25
第2会場

座長：西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

演者：患者は SNS の海を泳いでいる…医療者は“沈黙”していいのか？～いま医療者にも求められる SNS との上手な付き合い方～
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター、医療法人社団博腎会 野中医院 在宅ケアセンター）

EL7
VUCAの時代、私たちはどうあればいいのか

7月4日(金)13:25～14:25
第3会場

座長：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）

演者：VUCAの時代をマネジメント視点で考える
柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

不確実な世界を生き抜く知恵
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

EL8
がん疼痛の体系的治療アルゴリズムについて

7月4日(金)13:25～14:10
第4会場

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

演者：“がん疼痛を和らげる、を日本の文化”にするために 広めてほしい！使ってほしい！治療アルゴリズム
田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬、東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野、
一般社団法人IPP（Integration of Primary care & Palliative care）研究会、よしき往診クリニック /
KISA2 隊 専門的緩和ケア部隊、徳之島 / 名瀬徳洲会病院 緩和ケアチーム）

EL9
難治性掻痒感のマネジメントのコツ

7月4日(金)13:25～14:10
第7会場

座長：西 智弘（川崎市立井田病院 腫瘍内科）

演者：難治性掻痒感のマネジメントのコツ ～抗ヒスタミン薬が効かないときの方略～
船橋 英樹（宮崎大学医学部附属病院精神科 / 緩和ケアチーム）

EL10
インサイド・ヘッド：心と心でつながる、言葉なき死にゆく患者との究極の感情コミュニケーション

7月4日(金)13:25～14:25
第10会場

座長：大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科）

演者：心と心でつながる、言葉なき死にゆく患者との感情コミュニケーション
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

EL11
がん関連倦怠感を評価・対処する

7月4日(金)13:25～14:10
第13会場

座長：東 光久（奈良県総合医療センター 総合診療科）

演者：がん関連倦怠感を評価・対処する
清水 陽一（国立看護大学校 看護学部 成人看護学）

EL12
がん患者に対する音楽療法の可能性

7月4日(金)13:25～14:25
第14会場

座長：明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

演者：がん患者に対する音楽療法の可能性
藤里 正視（千葉県がんセンター 緩和医療科）

EL13
非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドラインを紐解く

7月4日(金)16:25～17:10
第3会場

座長：井関 雅子（順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座）

演者：「非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン」を紐解く
上野 博司（京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部）

EL14
緩和ケアにおける泌尿器症状の管理

7月4日(金)16:25～17:10
第6会場

座長：三浦 剛史（セコメディック病院）

演者：緩和ケアにおける泌尿器症状の管理
河原 貴史（筑波大学医学医療系泌尿器科）

EL15
在宅緩和ケアと様々なデバイス・IT

7月4日(金)16:25～17:10
第7会場

座長：岡村 知直（豊田地域医療センター）

演者：在宅緩和ケアと様々なデバイス・IT
奥山 慎一郎（医療法人社団侑真 訪問診療クリニックやまがた）

EL16
論文の正しい読み方を学ぶ

7月5日(土)8:45～9:45
第14会場

座長：小杉 和博（筑波大学附属病院 緩和支援診療科）

演者：研究を始める前に知っておきたい 論文の読み方・活かし方
佐藤 一樹（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

EL17
コンパッション社会における緩和ケア

7月5日(土)11:00～12:00
第12会場

座長：森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援診療科）

演者：コンパッション都市と緩和ケア～安心して孤独でいられる社会のために
西 智弘（川崎市立井田病院腫瘍内科）

EL18
生老病死の「苦」とは何か：仏教哲学の視点から

7月5日(土)13:25～14:25
第1会場

座長：志真 泰夫（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）

演者：生老病死の「苦」とは何か：仏教哲学の視点から
佐々木 閑（花園大学文学部）

EL19
末期心不全のLOS 症状の緩和ケア

7月5日(土)13:25～14:25
第3会場

座長：坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 緩和ケア内科）

演者：末期心不全の低心拍出症候群（LOS）への緩和ケア
大石 醒悟（医療法人社団 まほし会 真星病院 循環器内科）

EL20
苦や死に向き合う患者に対するケア提供者の倫理的感受性を育むとは

7月5日(土)13:25～14:25
第4会場

座長：荒尾 晴恵（大阪大学大学院医学系研究科）

演者：苦や死に向き合う患者に対するケア提供者の倫理的感受性を育むとは
川村 三希子（札幌市立大学看護学部）

EL21
患者・家族にとって心地よい病棟になるためのチーム作り

7月5日(土)14:40～15:40
第2会場

座長：今井 堅吾（聖隷三方原病院 ホスピス科）

演者：患者・家族にとって心地よい病棟になるためのチーム作り
沼野 尚美（神戸中央病院 緩和ケア病棟）

EL22
生死しょうじのイメージ～心は内部世界の写像である～

7月5日(土)14:40～15:40
第3会場

座長：神谷 浩平（一般社団法人MY wells地域ケア工房）

演者：生死しょうじのイメージ～心は内部世界の写像である～
志真 泰夫（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）

EL23
日本のホスピス・緩和ケアがこれから目指す道

7月5日(土)15:55～16:55
第3会場

座長：川島 正裕（市立岸和田市民病院 緩和ケア内科）

演者：生と死のはざままで支えるホスピス緩和ケア ～新たな時代のケアのあり方を展望する～
安保 博文（六甲病院 緩和ケア内科）

EL24

誤嚥性肺炎に対する多職種介入

7月5日(土)15:55～16:55

第7会場

座長：大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

演者：少しの工夫で変わる 誤嚥性肺炎の多職種診療

吉松 由貴（ガイズ病院老年科、セントトーマス病院老年科、グリニッジ大学人間科学科）

合同シンポジウム

JSY1

緩和ケアにおけるがん患者に対する鍼灸治療の現状と今後の展望
【公益社団法人全日本鍼灸学会】

7月4日(金)10:30～12:00

第6会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）

山口 智（埼玉医科大学医学部東洋医学科）

演者：鍼灸治療の現状とエビデンスの概要

山下 仁（森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究所）

鍼灸治療の各論

武田 真輝（市立砺波総合病院 緩和ケア科）

緩和ケアと鍼灸治療

萩原 彰人（国立病院機構埼玉病院 緩和ケア内科）

タキサン系抗癌剤治療による末梢神経障害に対する鍼灸治療の有効性に関するランダム化比較試験（多施設共同研究）

大野 智（島根大学医学部附属病院臨床研究センター）

JSY2

心不全緩和ケアのこれまでとこれからを考える
【一般社団法人日本心不全学会】

7月4日(金)10:30～12:00

第12会場

座長：坂下 明大（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 緩和ケア内科）

演者：HEPTで学び、実践する循環器内科医の心不全緩和ケア

北川 知郎（広島大学大学院医系科学研究科 循環器内科学、広島大学病院心不全センター）

HEPTに参加した非循環器専門医が行う心不全地域連携と緩和ケア

高橋 佑輔（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

多職種チーム医療で向き合う心不全緩和ケア

若林 留美（東京女子医科大学病院 看護部）

心不全患者の緩和ケアにおける看護師の役割

中野 直美（慶應義塾大学病院 看護部）

JSY3

緩和IVRの実際と使いどころ
【一般社団法人日本インターベンショナルラジオロジー学会】

7月4日(金)14:40～16:10

第4会場

座長：山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

演者：緩和ケアとIVRのコラボレーションによる疼痛緩和

下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

緩和IVRの使いどころ～IVR医の立場から～

西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座、緩和ケアセンター）

悪性腫瘍に伴う消化管・脈管狭窄に対する緩和的IVR

新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR科）

症状制御のためのIVR：骨転移、腹水貯留、内臓痛

荒井 保典（国立がん研究センター 東病院 放射線診断科）

緩和IVRを患者さんに届けるために私たちができること

里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、順天堂大学大学院医学系研究科緩和医療学）

コメンテーター

新槇 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR科）

JSY4

在宅緩和ケアでがん患者が食べられないときどう関わるか
【一般社団法人日本在宅医療連合学会】

7月5日(土)8:45～10:15
第13会場

座長：廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター）

演者：在宅緩和ケアでがん患者が食べられないときどう関わるか？～在宅チームの目標と役割の変化に注目して
鶴岡 優子（つるかめ診療所）

在宅緩和ケアにおける「食べられない」がん患者との関わり方
國末 充央（医療法人社団彩明会 グリーン在宅クリニック）

「食べられなくてもできること」を支える看護
専坊 ゆかり（安芸地区医師会訪問看護ステーション）

「食べられなくても家に帰れる」～退院支援の立場から
植田 彩（三井記念病院地域医療部地域福祉相談室）

JSY5

AYA 世代がん患者のより良いサバイバーシップを実現する晩期合併症対策
【一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会】

7月5日(土)10:30～12:00
第6会場

座長：多田 雄真（大阪国際がんセンター 血液内科／AYA 世代サポートチーム）
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

手話通訳

演者：AYA 世代がんサバイバーの晩期合併症と長期フォローアップ
- 地域ごとの学際的連携による包括的支援体制構築の必要性 -
多田 雄真（大阪国際がんセンター 血液内科／AYA 世代サポートチーム）

AYA 世代がん患者が直面する晩期合併症と社会生活への影響～相談支援のあり方を考える～
坂本 はと恵（国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 サポートケアセンター／がん相談支援センター）

AYA 世代がんサバイバーの長期的な心理的課題の解決のためのヒント
白石 恵子（独立行政法人国立病院機構九州がんセンターサイコオンコロジー科）

がんサバイバーの長期健康管理における拠点病院と地域医療機関の連携
菅家 智史（福島県立医科大学医学部総合内科・総合診療学講座）

シンポジウム

SY1

患者の意向と医療者が良いと思う選択肢が異なるとき

7月4日(金)10:30～12:00
第2会場

座長：向井 未年子（愛知県がんセンター 看護部）

手話通訳

演者：医療者が適切と考える方針と患者の意向が異なるときー shared decision making の継続と time-limited trial の活用
中島 信久（琉球大学病院 地域・国際医療部 緩和ケアセンター）

がん患者の意思決定支援ー看護師の立場から
伊藤 由美子（兵庫県立がんセンター）

患者の「したい」とリハビリテーションで「できること」のギャップにどう向き合うかー緩和ケア病棟における理学療法士の葛藤と模索ー
添田 遼（鶴巻温泉病院 リハビリテーション部、慶應義塾大学大学院 医学研究科 医学研究系専攻 博士課程）

SY2

臨床研究 up to date

7月4日(金)10:30～12:00
第4会場

座長：角甲 純（三重大学大学院）
小杉 俊介（飯塚記念病院 内科）

演者：緩和ケアの臨床研究、医師からの up to date
平塚 裕介（竹田総合病院緩和医療科）

緩和ケアの臨床研究 薬剤師からの up to date
笠原 庸子（医療法人秋本クリニック地域医療連携室）

緩和ケアの臨床研究、リハビリテーション療法士からの up to date
立松 典篤（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）

緩和ケアの臨床研究、公認心理師・臨床心理士からの up to date
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

緩和ケアの臨床研究、看護師からの up to date
角甲 純（三重大学大学院）

SY3
難治性がん疼痛の専門的治療～適応を知って繋げよう～

7月4日(金)10:30～12:00
第10会場

座長：中山 隆弘（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）
里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：難治性がん疼痛に対して IVR ができること
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座、緩和ケアセンター）

神経ブロックに繋げるべき患者の選択とアクセス改善の取り組みについて
山田 博英（総合病院聖隷浜松病院 緩和医療科）

意外と使いやすい！緩和的放射線治療
三輪 弥沙子（一般財団法人厚生会仙台厚生病院 放射線科）

SY4
がんの不眠についてもっと知ろう！

7月4日(金)10:30～12:00
第11会場

座長：上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）
井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）

演者：不眠とは？ その定義から疫学、評価方法について～がんがもたらす影響～
佐伯 吉規（がん研有明病院 腫瘍精神科）

「がんの不眠についてもっと知ろう！」～看護の視点から～
宇津木 智子（公益財団がん研究会有明病院 緩和ケアセンター）

不眠症の認知行動療法：がん・緩和医療における活用
藤澤 大介（国立がん研究センターがん対策研究所がん医療支援部、慶應義塾大学医学部精神神経科）

新規睡眠薬の使い分け～半減期に依存しない薬剤選択の重要性～
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

SY5
緩和ケアにおけるステロイドの使いかた

7月4日(金)10:30～12:00
第14会場

座長：嶽小原 恵（淀川キリスト教病院 薬剤部）
安保 博文（若葉会六甲病院 緩和ケア内科）

演者：副作用への対応とケアの工夫～看護師の視点と実践～
久山 幸恵（静岡県立静岡がんセンター）

薬剤師が考える緩和ケアにおけるステロイド使用のさじ加減
飯田 真之（神戸大学医学部附属病院薬剤部）

ステロイドの倦怠感治療における有効性の二重盲検ランダム化臨床試験
宮崎 貴久子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野）

SY6
精神疾患患者のがん医療

7月4日(金)13:25～14:25
第5会場

座長：佐伯 吉規（がん研有明病院 腫瘍精神科）

演者：精神疾患を抱える患者のがん診療、終末期ケアの課題
秋月 伸哉（がん・感染症センター都立駒込病院精神腫瘍科・メンタルクリニック）

摂食症（摂食障害）患者における緩和をめぐる問題
吉内 一浩（東京大学医学部附属病院心療内科）

手話通訳

SY7
「基本的緩和ケア」とは何かを考える～地域包括ケアシステムと緩和ケアの統合に向けて

7月4日(金)14:40～16:10
第13会場

座長：山本 亮（佐久総合病院佐久医療センター緩和ケア内科）

演者：保健医療活動の取り組み
足立 誠司（鳥取市立病院総合診療科）

日本ホスピス緩和ケア協会における「地域緩和ケアの推進」に向けた取り組み
木村 祐輔（岩手医科大学緩和医療学科）

地域における「緩和ケア」に対するニーズと課題
佐々木 淳（医療法人社団悠翔会）

私たちが考える「地域包括ケア」
大石 春美（医療法人心の郷 穂波の郷クリニック 緩和ケア支援センターはるか）

SY8 悪性腹水研究の現在地

7月5日(土)8:45～10:15
第3会場

座長：横道 直佑（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

演者：悪性腹水に対する腹腔穿刺の現在地
角埜 徹（大阪医科大学化学療法センター）

在宅医療における腹水ドレナージについて
池上 貴子（大阪医科大学化学療法センター）

Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy (CART)：腹水濾過濃縮再静注法の現在地
伊藤 哲也（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科）

SY9 皮膚症状の管理とケア

7月5日(土)8:45～10:15
第15会場

座長：濱崎 慎平（松口循環器内科）
市川 智里（国立がん研究センター東病院）

演者：諦めない！がん性皮膚潰瘍への薬物療法
佐藤 淳也（湘南医療大学 薬学部 薬物治療学研究室）

がん性皮膚潰瘍へのアプローチ
祖父江 正代（JA 愛知厚生連 江南厚生病院 医療の質管理部）

がん治療に伴う皮膚障害のマネジメント
平川 聡史（聖隷浜松病院 支持医療科）

SY10 コミュニティ（地域）で実践するグリーフケア

7月5日(土)10:30～12:00
第3会場

座長：青山 真帆（山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科）
近藤 めぐみ（大阪歯科大学大学院 看護学研究科（仮称）開設準備室）

演者：グリーフを支えるコミュニティ
福島 沙紀（一般社団法人プラスケア）

宮城県におけるグリーフサポート活動の可視化と市民活動
佐藤 悠子（医療社団法人爽秋会 岡部医院仙台）

医療者と市民による地域でのグリーフケア
森 一郎（つながりの森クリニック、一般社団法人 I FOR YOU Japan）

SY11 行動経済学から考える・緩和ケアにおけるパターンリズムの在り方

7月5日(土)10:30～12:00
第10会場

座長：多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケア内科／緩和ケアセンター）

演者：リバタリアン・パターンリズムとパターンリスティック・リバタリアン
平井 啓（大阪大学大学院人間科学研究科）

がん医療におけるパターンリズムの在り方
堀 謙輔（関西労災病院緩和ケアセンター）

循環器医療におけるパターンリズムの在り方
水野 篤（聖路加国際病院 循環器内科）

インフォームド・コンセントをナッジする
多田羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケア内科／緩和ケアセンター）

SY12**「誰一人取り残さない」緩和ケアとは何か？～社会経済的格差と疎外感を考える～**

7月5日(土)10:30～12:00

第11会場

座長：采野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）
久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学）

演者：取り残される人びとの声を聴くーがん相談支援とソーシャルワークの現場からー
品田 雄市（東京医科大学八王子医療センター 総合相談・支援センター）

独居・身寄りのない患者の課題

塚田 尚子（信州大学医学部保健学科看護学専攻成人・老年看護学領域（老年看護学））

「わたし」を大切にできる場所へー LGBTQ+ の方々とともに歩む、誰一人取り残さない緩和ケア

大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科）

SY13**さまざまな療養の場でホスピス・緩和ケアは、実現するのか…**

7月5日(土)13:25～14:55

第11会場

座長：梅田 恵（ファミリーホスピス株式会社 品質管理室）
清水 政克（医療法人社団 清水メディカルクリニック）

演者：高齢者施設・在宅でのホスピス・緩和ケアの成立要件
高橋 紘士（全国ホームホスピス協会）

ホームホスピスにおける入居者の暮らしをチームで支え実現できたこと

松本 京子（認定 NPO 法人神戸なごみの家）

高齢者向け施設・地域密着型（複合型）サービスにおける緩和ケアの取り組みと課題

飛田 篤子（ファミリー・ホスピス株式会社）

地域包括ケア病棟で求められる緩和ケア

石橋 あかね（長田病院 看護部 地域包括ケア病棟）

SY14**予後の告知をめぐるエトセトラ**

7月5日(土)15:10～16:40

第10会場

座長：森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

演者：予後の対話の起承転結
森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

**「何をどう伝えるのか」から「患者や家族の考えをどう聴き、話し合うか」へ
＝「現状確認ツール IMADOKO」の活用と研修から見えてきたこと＝**

大井 裕子（おおい在宅緩和ケアクリニック）

セッティングや疾患による予後の伝え方

濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

SY15**せん妄マネジメントのアップデート**

7月5日(土)15:10～16:40

第11会場

座長：岡本 禎晃（公立大学法人敦賀市立看護大学）
谷向 仁（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

演者：当院のせん妄研究：最新の知見と未来への挑戦
松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

せん妄薬物療法のアップデートーガイドラインに載っていること・載っていないことー

井上 真一郎（新見公立大学 健康科学部 看護学科）

せん妄非薬物療法のアップデートーガイドラインと臨床現場をつなぐ実践ー

菅野 雄介（東京科学大学大学院 保健衛生学研究科 在宅・緩和ケア看護学分野）

SY16**仕事とお金の支援 できる支援・できない支援を考え専門家につなぐ**

7月5日(土)15:10～16:40

第13会場

座長：小林 成光（東邦大学 看護学部 がん看護学研究室）
賢見 卓也（NPO 法人がんと暮らしを考える会）

演者：緩和ケア医が社会支援としてできること
石川 彩夏（医療法人社団 淳友会 わたクリニック）

社会保険労務士が、治療と仕事の両立支援としてできること
江口 奈美（社会保険労務士法人ジェントル）

看護師としてがん治療生活を社会的側面から支える～仕事とお金の支援
西村 裕美子（兵庫医科大学病院 看護部 / がんセンター）

ソーシャルワーカー（MSW）による社会的支援
山田 麻記子（東京科学大学病院 がん先端治療部がん相談支援センター）

パネルディスカッション

PD1 骨転移の緩和ケア

7月4日(金)10:30～12:00
第7会場

座長：武井 大輔（地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター薬剤部）
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

演者：がん骨転移に対する包括的診療
高木 辰哉（順天堂大学 緩和医療学研究室・整形外科・リハビリテーション科）

骨転移の放射線治療 いつ、どこに？
角田 貴代美（大阪市立総合医療センター 緩和ケア内科・放射線治療科）

有痛性骨転移に対する緩和的 IVR
新楨 剛（静岡県立静岡がんセンター IVR 科）

骨転移に対するリハビリテーション医療の役割 ―緩和ケアとの統合的アプローチ―
阿瀬 寛幸（順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科）

PD2 デスカンファレンスの真髄 ～死と対話する場とは何か？～

7月4日(金)14:40～16:10
第3会場

座長：広瀬 寛子（TMG 本部人事部ウェルビーイング推進課）
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科）

演者：緩和ケア病棟におけるデスカンファレンスの実際～デスカンファレンスで何を学んでいるのか～
高野 純子（一般財団法人同友会 藤沢湘南台病院）

「医療者の心の負担を軽くするデスカンファレンスのコツ」～看護師の立場から
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

デスカンファレンスで語り、聴き、大切な問いを抱えていく～心理職の立場から～
榎場 美穂（静岡県立静岡がんセンター緩和医療科）

ケアの場としてのデスカンファレンスを問う
坂口 幸弘（関西学院大学人間福祉学部人間科学科）

PD3 症状緩和に用いられる院内製剤のあり方と今後

7月4日(金)14:40～16:10
第5会場

座長：荒井 幸子（横浜市立大学附属病院 薬剤部）
萬谷 摩美子（医療法人愛和会 愛和病院 薬局）

演者：緩和ケア領域で用いられる院内製剤と適正に使用するための管理体制
板井 進悟（金沢大学附属病院 医療安全管理部 / 薬剤部）

院内製剤の品質と安全性向上を目指して
宮崎 雅之（名古屋大学医学部附属病院薬剤部）

患者の生活の質向上のために欠かせない院内製剤 ～医師の立場から
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

PD4
非がん進行性疾患の呼吸器症状に対する緩和ケア

7月4日(金)14:40～16:10
第10会場

座長：山口 崇（甲南医療センター 緩和ケア内科）
笠原 庸子（医療法人秋本クリニック地域医療連携室）

演者：非がん性呼吸器疾患患者の呼吸器症状に対するオピオイド
松田 能宣（NHO 近畿中央呼吸器センター心療内科）

非がん性呼吸器疾患患者の意思決定支援
竹川 幸恵（地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター）

神経難病の呼吸困難に対する緩和ケア—ALS・MSAを中心に—
清水 俊夫（東京都立神経病院 脳神経内科、東京都立府中療育センター）

緩和ケア医対象「非がん性呼吸器疾患緩和ケアに関する調査」結果からの考察と提案
木村 尚子（済生会横浜市南部病院 緩和医療科）

PD5
オピオイド関連のインシデント・アクシデントを減らす工夫

7月4日(金)14:40～16:10
第14会場

座長：清水 正樹（京都桂病院 緩和ケア科）
伊勢 雄也（日本医科大学付属病院 薬剤部）

演者：在宅緩和ケアにおけるオピオイド関連インシデント・アクシデントを減らす工夫 ～在宅訪問薬剤師の立場から～
坂本 岳志（あけぼの薬局 メディカル店）

オピオイド鎮痛薬に関連するインシデントが起こりにくい環境づくり～組織横断的に活動する看護師の立場から～
近藤 麗子（国立がん研究センター中央病院 看護部 緩和ケアチーム）

オピオイド関連のインシデント分析から見えてくるもの
永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科／医療安全管理部）

PD6
医学英語の学び方

7月5日(土)8:45～10:15
第4会場

座長：結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）

演者：非帰国子女による、英語「で」学び続ける戦略
松本 衣里（医療法人孔和会 松本内科眼科）

AI時代に英語力向上のなぜ？どうやって？
青山 真帆（山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科）

「伝えたい！」があれば大丈夫—パッションで切り拓く国際交流
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）

PD7
緩和ケアにおけるチームオンコロジー ABC と『患者力』の引き出し方

7月5日(土)8:45～10:15
第5会場

座長：佐藤 直（総合南東北病院）
立松 典篤（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻）

演者：チームオンコロジー ABC と患者力が、最高のがん医療の両輪となる
東 光久（奈良県総合医療センター総合診療科）

緩和ケアを受ける患者の患者力を引き出すための医師の役割
守田 亮（JA 秋田厚生連 秋田厚生医療センター 呼吸器内科）

緩和ケアを受ける患者の患者力を引き出すための看護師の役割
長谷川 友美（奈良県総合医療センター看護部管理室（緩和ケア支援室））

緩和ケアを受ける患者の患者力を引き出すためのリハビリテーション療法士の役割
立松 典篤（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻）

PD8
緩和ケアの文脈におけるレジリエンス、PTG を考える

7月5日(土)8:45～10:15
第10会場

座長：關本 翌子（国立がん研究センター中央病院 看護部）
清水 研（がん研有明病院 腫瘍精神科）

演者：心的外傷後成長とレジリエンス～スピリチュアルペインのケアを行う上で理解しておきたい概念
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

子どもが見せるきらめきと レジリエンス そして PTG
小澤 美和（聖路加国際病院）

がん患者のレジリエンス、PTG を考える。看護師の立場から
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

トラウマケアから考えるがん患者のレジリエンスと PTG
中西 健二（鈴鹿医療科学大学保健衛生学部医療福祉学科、鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院）

PD9
「はやく終わりにしたい」 苦しみの中にある患者を理解し、ともに居る

7月5日(土)8:45～10:15
第11会場

座長：池永 昌之（淀川キリスト教病院 緩和医療内科）
前滝 栄子（関西医科大学 看護学部 看護学研究科）

演者：「はやく終わりにしたい」 苦しみのなかにある患者とともにあること ー看護師の視点からー
前滝 栄子（関西医科大学 看護学部 看護学研究科）

「早く終わりにしたい」 苦しみの中にある患者を理解し、ともに居る - 緩和ケア病棟医の立場から -
池永 昌之（淀川キリスト教病院緩和医療内科）

「はやく終わりにしたい」 苦しみの中にあるひとと共にいること ～緩和ケアチーム医師の一視点から～
松原 貴子（三重大学医学部附属病院緩和ケアセンター）

終末期医療におけるサイコオンコロジーの経験 - 自戒を込めて
明智 龍男（名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学分野）

PD10
**在宅医療でどこまでできる？実践にひとやまある手技や処置
～くも膜下鎮痛、胸水や腹水の穿刺、輸血、出血や滲出液、臭気でかなり困る自壊創（Mohs）**

7月5日(土)10:30～12:00

第2会場

座長：奥山 慎一郎（医療法人社団侑真訪問診療クリニックやまがた）

演者：在宅療養患者に対するくも膜下鎮痛の管理と課題
池垣 淳一（医療法人社団 池垣クリニック）

在宅医療では腹腔穿刺・胸腔穿刺ドレナージがなぜやりにくいのか？どうすればできるのか？
大屋 清文（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック京都、京都大学 医学研究科 社会健康医学系専攻）

在宅輸血の実際～現状と今後の展望～
大橋 晃太（トータス往診クリニック、NPO 法人 血液在宅ねっと、聖マリアンナ医科大学 血液・腫瘍内科）

シート化した Mohs ペーストの在宅医療における実践例
餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）

PD11
がん治療の進歩を専門的緩和ケアはどのように受け止めるか

7月5日(土)10:30～12:00
第4会場

座長：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

演者：がんゲノム検査と緩和ケア外来
梶浦 新也（富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科）

これからの緩和医療専門医の役割
久永 貴之（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科／緩和ケアセンター）

看護師の視点から考えるがん治療と緩和ケアの統合
北川 善子（独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 看護部）

PD12
終末期の希望と医療の狭間で：自由診療をどう捉えるか？

7月5日(土)10:30～12:00
第14会場

座長：井上 彰（東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野）

演者：Unapproved and unproven cancer treatments in patients admitted to palliative care units
赤木 秀子（日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科）

自由診療を希望する患者、家族とどう向き合うか
佐久間 由美（社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院）

患者から補完代替療法の利用を相談されたら、どのように対応すればよいのか
大野 智（島根大学医学部附属病院臨床研究センター）

PD13
ヘルスケア？治療？～プログラム機器を使った研究を悩ませる「承認」にまつわる苦労や課題～

7月5日(土)10:30～12:00
第15会場

座長：仁木 一順（大阪大学大学院 薬学研究科）

演者：本セッションの紹介～デジタル治療を取り巻く現状～
仁木 一順（大阪大学大学院薬学研究科）

隣の芝生は青い？アプリ開発における越境体験のススメ
嶋田 和貴（京都大学医学部附属病院 緩和医療科・緩和ケアセンター）

アプリ（ePRO）による症状モニタリングと早期からの緩和ケアのすゝめ
堀江 良樹（聖マリアンナ医科大学）

がん緩和領域におけるプログラム医療機器開発の課題
高木 雄亮（帝京大学臨床研究センター、株式会社 CureApp）

PD14
口腔の問題…ちゃんと対応できていますか？

7月5日(土)13:25～14:25
第2会場

座長：山田 博英（総合病院聖隷浜松病院 緩和医療科）
江藤 美和子（ベルランド総合病院 看護部）

演者：医療者が嫌にならない口腔内疼痛との向き合い方
阪本 亮（堺市立総合医療センター 心療内科、堺市立総合医療センター 緩和ケア科）

医科歯科連携で支えるがん治療期の口腔管理
石橋 美樹（大阪国際がんセンターがんオーラルケア・歯科口腔外科）

終末期がん患者の口腔の問題と多職種連携の重要性
下郷 麻衣子（国立病院機構 京都医療センター、グラナジア歯科医院）

ワークショップ

WS1
私が考える死にゆく患者の尊厳とは

7月4日(金)10:30～12:00
第15会場

座長：森 一郎（協立記念病院）

演者：私が考える死にゆく患者の尊厳とは ～「さようなら」が別れの言葉である国で～
神谷 浩平（一般社団法人MY wells地域ケア工房）

私が考える死にゆく患者の尊厳とはーリハビリテーション専門職の立場から見えてきたこと・感じていることー
西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

「死ぬ時ぐらい好きにさせてよ」を支援する
宇野 さつき（ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス）

WS2
遠隔医療における緩和ケアは成り立つのか？

7月4日(金)14:40～16:10
第7会場

座長：川島 有沙（名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻）
田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬、東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野）

演者：えっ、こんなことで!? オンライン診療の“あるある”失敗30連発
大武 陽一（たけお内科クリニック からだと心の診療所）

遠隔医療を活用した在宅緩和ケア
大森 崇史（福岡ハートネット病院）

“住み慣れた島で最期まで生きる”を支えている！

徳之島×緩和ケアアウトリーチ×実地診療×ICTの実装モデルに関する現場の声とは？

田上 恵太（悠翔会くらしケアクリニック練馬、東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野、

徳之島徳洲会病院 緩和ケアチーム、一般社団法人 IPP(Integration of Primary care & Palliative care) 研究会）

がん疼痛に対する遠隔看護実践上の気づき

吉田 詩織（東北大学大学院医学系研究科がん看護学分野）

遠隔でつながる緩和ケアの未来

古川 大記（名古屋大学医学部附属病院メディカルITセンター）

WS3

がん疼痛患者のセルフマネジメントを高める支援

7月4日(金)14:40～16:10

第15会場

座長：山中 政子（天理大学医療学部 看護学科）

原田 紘子（市立札幌病院 緩和ケア内科）

演者：がん疼痛患者のセルフマネジメントを高める支援～薬剤師の立場から～

金子 健（慶應義塾大学病院 薬剤部・緩和ケアセンター）

がん疼痛患者のセルフマネジメントを高める支援～看護師の立場から～

山中 政子（天理大学医療学部看護学科）

がん疼痛患者のセルフマネジメントを高める関わり ～心理師の立場から～

吉田 幸平（洛和会音羽病院）

がん疼痛患者のセルフマネジメントを高める支援～理学療法士の立場から～

井上 順一朗（神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター リハビリテーション部門）

WS4

痛みをうまく伝えられない患者の評価と治療

7月5日(土)8:45～10:15

第2会場

座長：高橋 紀子（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

矢吹 律子（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

演者：痛みをうまく伝えられないがん患者の評価とケア

市原 香織（淀川キリスト教病院 緩和ケアセンター）

認知症や精神疾患のある方の痛みの評価や対応の工夫

谷向 仁（名古屋市立大学大学院看護学研究科）

在宅医療の臨床現場における痛みの評価と治療の難しさ

橋本 孝太郎（ふくしま在宅緩和ケアクリニック）

こどもの痛みに寄り添うために——その捉え方と対応について

余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

WS5

小児在宅医療を担う人材を育てるには

7月5日(土)10:30～12:00

第5会場

座長：前田 浩利（医療法人財団はるたか会）

演者：小児がん在宅医療のすそ野を広げる —「無理かも」を「やってみよう」に変えるには

大隅 朋生（医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所、国立成育医療研究センター 小児がんセンター）

小児がん在宅移行支援の実践と課題：病院と在宅医療のシームレスな連携を目指して

荒川 ゆうき（埼玉県立小児医療センター血液・腫瘍科）

小児在宅緩和医療の普及のためには

杉山 正伸（東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科、医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック）

小児在宅医療チーム立ち上げの経験から今後の小児在宅医療人材育成について考える

小畑 正孝（医療法人社団ときわ）

WS6
院内や地域の勉強会を効果的にデザインするには：理論と実践を学ぶ

7月5日(土)13:25～14:55
第5会場

座長：伊藤 哲也（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科）
大屋 清文（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック京都）

演者：FDの取り組みとその中でのカリキュラムデザイン・IDの位置付け
采野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

IDの解説と Kemp modelの概説
小杉 俊介（飯塚記念病院 内科）

ケースプレゼンテーション
高瀬 直人（宝塚市立病院 腫瘍内科）

演者代表コメント
宮地 由佳（岐阜大学医学教育開発研究センター）

WS7
オピオイド鎮痛薬の不適切使用への対応

7月5日(土)13:25～14:55
第12会場

座長：山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）
龍 恵美（長崎大学病院 薬剤部）

演者：がん患者の自己スティグマとケミカルコーピング
白川 賢宗（獨協医科大学 医学部麻酔科学講座）

「オピオイド鎮痛薬の不適切使用への対応」薬剤師の立場から
岡本 禎晃（公立大学法人敦賀市立看護大学）

オピオイド鎮痛薬の不適切使用への対応～薬物依存症治療の観点から～
成瀬 暢也（埼玉県立精神医療センター）

「オピオイド鎮痛薬の不適切使用への対応」～看護師の立場から～
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

委員会企画

CM1
PCR編集委員とのなんでも交流会
【Palliative Care Research編集委員会】

7月4日(金)9:15～10:15
第7会場

座長：佐藤 一樹（名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻）

演者：佐藤 一樹（名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻）
前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア内科）
角甲 純（三重大学大学院）

CM2
症例報告書の書き方
【専門医認定委員会】

7月4日(金)9:15～10:15
第15会場

座長：久永 貴之（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科／緩和ケアセンター）

演者：専門医、認定医になぜ症例報告書の記載が必要か、指導医の役割について
小田切 拓也（西濃厚生病院緩和ケアセンター）

症例報告書記載の注意点
大西 佳子（京都市立病院 緩和ケア科）

CM3
緩和医療領域における働き方改革～医療者のウェルビーイング～
【総務・財務委員会】

7月4日(金)10:30～12:00
第5会場

共催：日本医師会

座長：所 昭宏（国立病院機構近畿中央呼吸器センター 心療内科／支持・緩和療法チーム）

演者：多様性をもってウェルビーイングを模索する
松本 衣里（医療法人孔和会 松本内科眼科）

緩和医療領域における看護師のウェルビーイング
關本 翌子（国立がん研究センター中央病院）

しなやかに中年期を超えるための極意
清水 研（がん研有明病院腫瘍精神科）

ウェルビーイングを高める鍵
大坂 巖（医療法人社団真養会きせがわ病院）

CM4
ワクチンから学ぶ、正しい知識を活用したがん治療のアプローチ
【安全・感染委員会】

7月4日(金)10:30～12:00
第13会場

座長：森岡 慎一郎（国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター 国際感染症対策室）
栗原 美穂（国立がん研究センター東病院 看護部）

緩和医療専門医更新単位

演者：医療・行政の面からワクチンを紐解く
近藤 匡慶（日本医科大学多摩永山病院 薬剤部）

あのととき緩和医療の現場では何がおきていたか！
平松 玉江（国際医療福祉大学成田病院感染制御部）

インフォデミック時代の医療スタンスについて
勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科）

CM5
救急・集中治療領域の緩和ケアの手引きの活用
【救急・集中治療領域の緩和ケア WPG】

7月4日(金)13:25～14:25
第11会場

座長：大森 崇史（福岡ハートネット病院）
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

演者：救急・集中治療領域での緩和ケア～現状と今後の課題～
伊藤 香（帝京大学医学部外科学講座 Acute Care Surgery 部門）

救急・集中治療領域の緩和ケアの手引きの活用～救急・集中治療領域の看護師の立場から～
宇都宮 明美（関西医科大学看護学部・看護学研究科治療看護分野クリティカルケア看護学領域）

ICUにおける緩和ケア実践の試み 一手引きを現場で活かすために～
三好 祐輔（神戸市立医療センター中央市民病院 緩和ケア内科）

CM6
成功する臨床研究の秘訣
【学術委員会】

7月4日(金)13:25～14:25
第12会場

座長：松岡 弘道（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）

演者：「セルフコンパッションに焦点を当てたオンライングループ心理療法の実施可能性試験」における成功の秘訣
采野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

多施設共同介入研究を完遂するための秘訣
濱野 淳（筑波大学 医学医療系）

CM7
何が患者にとっての益なのか：患者にとっての最善の医療とケアを考える
【倫理委員会】

7月4日(金)14:40～16:10
第11会場

座長：門岡 康弘（熊本大学大学院生命科学研究部 生命倫理学講座）

演者：「患者の利益」について、私たちは何を考える必要があるのか？—医学的無益性をめぐる葛藤から—
林 令奈（大阪大学大学院 医学系研究科 医の倫理と公共政策学）

最善の医療とは何か
荻野 美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

患者にとって無益な医療とは何か？
桜井 なおみ（一般社団法人 CSR プロジェクト、キャンサーソリューションズ株式会社）

CM8
日本緩和医療学会における Faculty Development プログラムの開発
【専門医育成・教育委員会】

7月4日(金)14:40～16:10
第12会場

座長：柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

演者：FD WPG でやっていること、目的、現状と今後
采野 優（京都大学医学部附属病院 緩和医療科）

FD プログラム開発の一般論、医学教育学会からのメッセージ
宮地 由佳（岐阜大学医学教育開発研究センター）

FD プログラム開発に関わっての感想や現場でどのように活用したいか、してもらいたいかなどの現場目線の話
小杉 俊介（飯塚記念病院 内科）

指定論者：伊藤 哲也（東京大学医科学研究所附属病院 先端緩和医療科）
大屋 清文（医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック京都）
高瀬 直人（宝塚市立病院 腫瘍内科）

CM9
緩和ケアを語り聴き癒しあおう 2025 ～緩和ケアに携わる看護師のための悩み・相談ブース～
【教育・研修委員会】

7月5日(土)8:45～10:15
第12会場

座長：松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）
酒井 禎子（新潟薬科大学）
小林 孝一郎（白井聖仁会病院 緩和ケアセンター）

演者：緩和ケアの魅力語り合おう
田村 恵子（大阪歯科大学）

緩和ケアの悩みを相談しよう
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）

人生の主役はあなたです！ キャリアパスと人生のバランスを共に語り合う場
林 あり子（横浜市立大学 大学院 看護学専攻）

緩和ケアの学びの場をどう創るか
西山 みどり（有馬温泉病院）

CM10
患者家族がもつ緩和ケアに関する疑問、問題点を明らかにし、解決する方策を考える
【委託事業委員会】

7月5日(土)10:30～12:00
第13会場

演者：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）
尾阪 咲弥花（聖路加国際病院 緩和ケア科）
岡本 明大（三重大学医学部附属病院 薬剤部）
大津 裕佳（三菱京都病院）
高橋 みどり（一般社団法人 CSR プロジェクト）
野田 真由美（NPO 法人支えあう会「α」）
加藤 那津（元 AYA 世代がん患者会代表（乳がん患者））

CM11
日韓台国際セッション：東アジアの緩和ケアの質を高める新時代のリーダー育成とその戦略
【国際交流委員会】

7月5日(土)13:25～14:55
第7会場

座長：竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）
森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

同時通訳 AI 通訳
*発表言語：英語

演者：Bridging Policy and Practice: Building the Next Generation of Palliative Care Leaders in East Asia
Ying-Wei Wang (Hualien Tzuchi Hospital / Tzuchi University)

Challenges in Palliative Care in a Super-Aging Society and the Leadership Required for the Next Generation
Hideyuki Kashiwagi (Iizuka Hospital)

Development of an Educational Program to Enhance Advance Care Planning
Su-Jin Koh (Department of Hematology-Oncology, Ulsan University Hospital, University of Ulsan College of Medicine, Ulsan, Republic of Korea)

CM12
専門的緩和ケアの質の評価と質の維持・向上に向けて
【専門的・横断的緩和ケア推進委員会】

7月5日(土)13:25～14:55
第10会場

座長：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）
安保 博文（六甲病院 緩和ケア内科）

演者：専門的緩和ケアの質評価 なぜ必要なのか？
木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）

専門的緩和ケアの質の評価と質の維持・向上に向けて——専門的横断的緩和ケア推進委員会の取り組み
余谷 暢之（国立成育医療研究センター総合診療部緩和ケア科）

専門的緩和ケアの質の評価と質の維持・向上に向けて - 緩和ケア病棟・日本ホスピス緩和ケア協会の立場から -
池永 昌之（淀川キリスト教病院緩和医療内科）

患者報告型アウトカムを用いた専門的緩和ケアの質評価 - 厚労省研究班の中間報告と今後の展開について -
宮下 光令（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

CM13
その医学用語、正しく使えていますか？
【用語委員会】

7月5日(土)13:25～14:55
第14会場

座長：余宮 きのみ（広島市立広島市民病院緩和ケア科）
中澤 葉宇子（国立がん研究センター がん対策研究所）

演者：用語委員会の活動 これまでとこれから
間宮 敬子（信州大学医学部附属病院）

薬学領域の用語について
伊勢 雄也（日本医科大学付属病院薬剤部）

痛み領域の用語
栗山 俊之（和歌山県立医科大学麻酔科学教室・腫瘍センター）

精神科領域の用語改訂～「障害」から「症」へ～
佐伯 吉規（がん研有明病院 腫瘍精神科）

CM14
オピオイド注射を通じた医療連携の課題
【健康保険・介護保険委員会】

7月5日(土)13:25～14:55
第15会場

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院緩和医療科）

演者：在宅医療におけるオピオイド注射に係る診療報酬改定について
加古 敦也（厚生労働省保険局医療課）

病院および病院から在宅移行時の麻薬注射投与の実態と課題
梶浦 新也（富山大学附属病院腫瘍内科・緩和ケア内科）

病院での麻薬注射投与の実態と課題（看護師の立場）
池長 奈美（国立がん研究センター中央病院 看護部）

在宅緩和ケアでオピオイド注射を開始する障壁を考察し、その解決策を考える
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター、医療法人社団博腎会 野中医院 在宅ケアセンター）

在宅での麻薬注射投与の実態と課題（看護師の立場として）
富澤 あゆみ（ひとつぶ診療所）

CM15
市民向けホームページに必要な役割を考える
【広報委員会】

7月5日(土)15:10～16:40
第5会場

座長：永山 淳（国家公務員共済組合連合会浜の町病院緩和医療内科）

演者：情報こそ力！市民が必要とする緩和ケアの情報を届けたい
廣橋 猛（永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター、日本緩和医療学会 広報委員会）

市民の視点から見た緩和ケア情報へのアクセスと課題 ～日本緩和医療学会の役割を考える～
相木 佐代（独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 緩和ケア内科）

意思決定支援における“情報の差”から考える市民向け情報支援
杉井 健祐（医療法人橘会 東住吉森本病院）

生きる日々を支える情報が届くことを願って
轟 浩美（認定NPO法人 希望の会）

APHN/JSPM Joint Session 7月5日(土)15:05～15:45 第7会場
Connecting Asia:Advancing Palliative Care Through Collaboration and Learning
アジアをつなぐ：協働と学びを通じた緩和ケアの発展

AI 通訳

*発表言語：日本語・英語

座長：Giam Cheong Leong（APHN Executive Director）
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）

演者：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）
柏木 秀行（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）
竹之内 沙弥香（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）
Giam Cheong Leong（APHN Executive Director）

TIPS

TIPS1 7月5日(土)8:45～9:00
鎮痛薬の使い方 第8会場

演者：鎮痛薬の使い方
中川 貴之（和歌山県立医科大学薬学部病院薬学研究室 / 附属病院薬剤部）

TIPS2 7月5日(土)9:05～9:20
痛みの評価 第8会場

演者：がん疼痛における痛みの病態の評価方法
東端 孝博（筑波大学 医学医療系 緩和支援診療科）

TIPS3 7月5日(土)9:25～9:40
死前喘鳴 第8会場

演者：死前喘鳴のTIPS
原納 遥（国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科）

TIPS4 7月5日(土)9:45～10:00
吃逆 第8会場

演者：吃逆（しゃっくり）の臨床
寺田 立人（国立がん研究センター 中央病院 精神腫瘍科）

TIPS5 7月5日(土)10:05～10:20
怒りへの対応 第8会場

演者：怒れる患者、揺れる医療者——“人として”どう向き合うか？
蓮尾 英明（関西医科大学心療内科学講座）

TIPS6 7月5日(土)10:25～10:40
（未成年の）子どもを持つ親ががんを患ったときのサポート 第8会場

演者：がんであり親であることを支える
木原 歩美（京都民医連あすかい病院、NPO法人ともいき京都、NPO法人 Hope Tree）

TIPS7 7月5日(土)10:45～11:00
看取り 第8会場

演者：望ましい看取り方～事実（患者・家族の生の声）を知ることから始める～
野里 洵子（東京科学大学病院 緩和ケア科）

TIPS8
地域を繋ぐメサドン

7月5日(土)11:05～11:20
第8会場

演者：地域を繋ぐメサドン
松田 良信（市立芦屋病院 緩和ケア内科）

TIPS9
鎮静（入門編）

7月5日(土)11:25～11:40
第8会場

演者：苦痛緩和のための鎮静 いろはのい
内藤 明美（宮崎市医師会病院 緩和ケア科）

TIPS10
在宅での持続皮下注射

7月5日(土)13:25～13:40
第8会場

演者：在宅での持続皮下注射
矢吹 律子（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）

TIPS11
質的研究

7月5日(土)13:45～14:00
第8会場

演者：質的研究の進め方
小林 成光（東邦大学 看護学部 がん看護学研究室）

TIPS12
PRO

7月5日(土)14:05～14:20
第8会場

演者：患者報告アウトカム（PRO）
山口 拓洋（東北大学大学院医学系研究科 医学統計学分野）

ランチョンセミナー

LS1-1
高齢多死社会の住まいのあり方～ホスピス・緩和ケアをめぐる～

7月4日(金)12:20～13:10
第1会場

共催：ファミリー・ホスピス株式会社

座長：酒井 幸子（ファミリー・ホスピス株式会社 品質管理部）

演者：高齢多死社会の住まいのあり方～ホスピス・緩和ケアをめぐる～
高橋 紘士（一般社団法人全国ホームホスピス協会理事）

LS1-2
ガイドラインとステートメントから考えるがんサバイバーの慢性疼痛

7月4日(金)12:20～13:10
第2会場

共催：塩野義製薬株式会社

座長：木澤 義之（筑波大学附属病院 緩和支援治療科）

演者：ガイドラインとステートメントから考えるがんサバイバーの慢性疼痛
間宮 敬子（信州大学医学部附属病院信州がんセンター 緩和部門）

LS1-3
緩和的放射線療法の普及のために ～地域連携・院内連携の成功事例から学ぶ～

7月4日(金)12:20～13:10
第3会場

共催：一般社団法人がん医療の今を共有する会

座長：塩山 善之（九州国際重粒子線がん治療センター）

モデレーター：岸田 徹（NPO法人がんノート）

演者：がん診療連携拠点病院等における緩和的放射線療法の位置づけ
岸田 勇人（厚生労働省 健康・生活衛生局 がん・疾病対策課）

緩和的放射線療法の普及に向けて～今すぐ使える緩和照射～
高橋 健夫（埼玉医科大学総合医療センター放射線腫瘍科）

緩和的放射線治療を適切に提供するための連携を考える
松本 禎久（がん研究会有明病院 緩和治療科）

LS1-4
WHO がん性疼痛治療ガイドラインにおけるステップ 1 治療薬 NSAIDs の意義と実践

7月4日(金)12:20～13:10
第4会場

共催：久光製薬株式会社

座長：山浦 健（九州大学大学院医学研究院 麻酔・蘇生学分野）

演者：WHO がん性疼痛治療ガイドラインにおけるステップ 1 治療薬 NSAIDs の意義と実践
住谷 昌彦（東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部、東京大学大学院医学系研究科疼痛・緩和病態医科学講座）

LS1-5
がん治療を支える口腔ケア ～大阪関西万博で注目される除菌消臭成分 MA-T[®] とは～ / MA-T[®] 製品を用いた口腔ケア

7月4日(金)12:20～13:10
第5会場

共催：アース製薬株式会社

座長：田村 恵子（大阪歯科大学）

演者：がん治療を支える口腔ケア ～大阪・関西万博で注目される除菌消臭成分 MA-T[®] とは～
阪井 丘芳（大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学講座）

MA-T[®] 製品を用いた口腔ケア
高嶺 あゆみ（医療法人自灯明会 ZEN DENTAL CLINIC）

LS1-6
緩和 IVR とエビデンス構築に向けた取り組み

7月4日(金)12:20～13:10
第6会場

共催：株式会社メディコン

座長：石木 寛人（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：JIVROSG の取り組みとデンバーシャント
曾根 美雪（国立がん研究センター中央病院 放射線診断科）

骨転移に対する新たな治療選択肢となるか～緩和的動脈塞栓術と臨床試験
荒井 保典（国立がん研究センター東病院 放射線診断科）

LS1-7
直腸エコー観察に基づいた慢性便秘治療アルゴリズムと実践

7月4日(金)12:20～13:10
第7会場

共催：富士フィルムメディカル株式会社

座長：結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科）

演者：直腸エコー観察に基づいた慢性便秘症の治療アルゴリズムと実践
結束 貴臣（国際医療福祉大学成田病院）

生活と病態に応じた慢性便秘症のケア戦略～便秘エコーの活用～
内田 三恵（楽らくサポートセンター レスピケアナース）

LS1-8
がん患者さんの不眠への対応のコツ～オレキシン受容体拮抗薬の使い分けの新事実～

7月4日(金)12:20～13:10
第14会場

共催：第一三共株式会社

座長：内村 直尚（久留米大学）

演者：がん患者さんの不眠への対応のコツ ～オレキシン受容体拮抗薬の使い分けの新事実～
上村 恵一（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 精神科）

LS1-9
疼痛を科学する 例えば NSAIDs / アセトアミノフェン

7月4日(金)12:20～13:10
第15会場

共催：あゆみ製薬株式会社

座長：森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援治療科）

演者：疼痛を科学する 例えば NSAIDs / アセトアミノフェン
全田 貞幹（国立がん研究センター東病院 放射線治療科）

LS2-1
高齢者のがん疼痛治療

7月5日(土)12:20～13:10
第1会場

共催：第一三株式会社

座長：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

演者：**高齢者のがん疼痛治療**
余宮 きのみ（広島市立広島市民病院 緩和ケア科）

LS2-2
がんゲノム医療とアドバンス・ケア・プランニング

7月5日(土)12:20～13:10
第2会場

共催：中外製薬株式会社

座長：木澤 義之（筑波大学医学医療系緩和医療学）

演者：**がんゲノム医療と緩和ケアの接点**
佐々木 治一郎（北里大学医学部 新世紀医療開発センター 横断的医療領域開発部門 臨床腫瘍学）

ACP 推進チームの取り組み
児玉 美由紀（北里大学病院 看護部）

LS2-3
痛みは誰のもの？いのちは誰のもの？—患者の価値観や大切にしたいことを踏まえたフェンタニル製剤の使いかた— 第3会場

共催：久光製薬株式会社／協和キリン株式会社

座長：橋口 さおり（聖マリアンナ医科大学 緩和医療学講座）

演者：**痛みは誰のもの？いのちは誰のもの？—患者の価値観や大切にしたいことを踏まえたフェンタニル製剤の使いかた—**
池永 昌之（淀川キリスト教病院 緩和医療内科）

LS2-4
緩和医療における IVR の有用性

7月5日(土)12:20～13:10
第4会場

共催：キヤノンメディカルシステムズ株式会社

座長：山代 亜紀子（洛和会音羽病院 緩和ケア内科）

演者：**緩和医療における緩和 IVR のエビデンスと安全に実施するための最新技術**
西尾福 英之（奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座、緩和ケアセンター）

緩和 IVR の実際～多職種との連携をふまえて～
佐藤 洋造（愛知県がんセンター 放射線診断部・IVR 部）

LS2-5
緩和医療と周術期口腔機能管理～口腔カンジダの新しい治療について

7月5日(土)12:20～13:10
第5会場

共催：久光製薬株式会社

座長：山田 信一（国立大学法人佐賀大学医学部附属病院 ペインクリニック・緩和ケア科）

演者：**緩和医療と周術期口腔機能管理～口腔カンジダの新しい治療について**
中松 耕治（飯塚病院歯科口腔外科）

LS2-6
がん疼痛治療におけるメサペインと神経ブロック

7月5日(土)12:20～13:10
第6会場

共催：帝國製薬株式会社／テルモ株式会社

座長：間宮 敬子（信州大学医学部附属病院 信州がんセンター緩和部門）

演者：**がん疼痛治療におけるメサペインと神経ブロック**
服部 政治（医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 疼痛治療科）

LS2-7
多職種連携で考える がん治療における带状疱疹予防

7月5日(土)12:20～13:10
第7会場

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

座長：下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部 兼 緩和ケアセンター）

演者：**がん薬剤師外来での支持療法への取り組み**
都甲 海（聖隷浜松病院 薬剤部）

がん治療における带状疱疹：発症および神経痛のリスク
平川 聡史（聖隷浜松病院 支持医療科）

LS2-8
がん疼痛緩和における漢方薬

7月5日(土)12:20～13:10
第8会場

共催：株式会社ツムラ

座長：住谷 昌彦（東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部、麻酔科・痛みセンター）

演者：がん疼痛緩和における漢方薬
川原 玲子（市立東大阪医療センター 緩和ケア内科）

LS2-9
便通異常症診療ガイドラインに基づいた慢性便秘症診療の最前線：消化管機能における腸内細菌の役割 第14会場

7月5日(土)12:20～13:10

共催：ミヤリサン製薬株式会社

座長：廣野 靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）

演者：便通異常症診療ガイドラインに基づいた慢性便秘症診療の最前線：消化管機能における腸内細菌の役割
伊原 栄吉（九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学）

スイーツセミナー

SS
緩和ケア臨床のもやもやを考える：緩和ケア×倫理×社会学の視点から

7月4日(金)14:40～15:40
第2会場

共催：株式会社医学書院

座長：新城 拓也（しんじょう医院）

緩和ケア臨床のもやもやを考える：緩和ケア×倫理×社会学の視点から

演者：森田 達也（聖隷三方原病院 緩和支援診療科）
田代 志門（東北大学大学院 文学研究科・文学部 総合人間学専攻 社会人間学講座）

PAL 企画

PAL1
生活に密着した患者支援について考える～「ともいき京都」の活動から～

7月4日(金)12:20～13:10
第9会場

座長：松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）

演者：がんとともに生きる知恵を育む場づくり
市原 香織（特定非営利活動法人 ともいき京都）

PAL2
生活に密着した患者支援について考える～「ともいき京都」の活動から～

7月4日(金)13:30～14:30
第9会場

座長：松本 陽子（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）
下山 理史（愛知県がんセンター 緩和ケア部）

ファシリテーター：市原 香織（特定非営利活動法人 ともいき京都）
木村 尚子（済生会横浜市南部病院 緩和医療科）
添田 遼（鶴巻温泉病院 リハビリテーション部、慶應義塾大学大学院 博士課程）
藤澤 陽子（千葉大学医学部附属病院 看護部）
畑 琴音（国立病院機構さいがた医療センター 心理室）
齋藤 円（市立ひらかた病院精神科）

PAL3
臨床試験と患者市民参画から考える終末期の苦痛緩和 ～共に、未来を創る

7月5日(土)12:20～13:10
第9会場

座長：轟 浩美（認定NPO 法人希望の会）

演者：終末期の息苦しさを和らげるための研究～患者市民参画から学んだこと
森 雅紀（聖隷三方原病院 緩和支援診療科）

PAL4
臨床試験と患者市民参画から考える終末期の苦痛緩和 ～共に、未来を創る

7月5日(土)13:30～14:30
第9会場

座長：轟 浩美（認定NPO法人希望の会）
尾阪 咲弥花（聖路加国際病院 緩和ケア科）

演者：松田 能宣（NHO 近畿中央呼吸器センター 心療内科）
高橋 みどり（一般社団法人CSRプロジェクト）
野田 真由美（NPO法人支えあう会「α」）

交流集会

EM1
メサドンのひろば

7月4日(金)16:25～17:25
第10会場

企画代表者：里見 絵理子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

EM2
傾聴と共感が創る未来～患者力支援と協働意思決定の実践～

7月4日(金)16:25～17:25
第11会場

企画代表者：東 光久（奈良県総合医療センター 総合診療科）

EM3
終末期の家族支援 ～親を亡くす子どもに対して私たちは何ができるのだろう～ Part 4

7月4日(金)16:25～17:25
第12会場

企画代表者：井上 実穂（四国がんセンター／NPO法人Hope Tree）

EM4
いつでも、どこでも、ACP ～患者の思いを繋ごう！悩める仲間たちよ、語り合おう！！～

7月4日(金)16:25～17:25
第13会場

企画代表者：塗木 京子（久留米大学病院 がん看護専門看護師）

EM5
IPOS・Polで実現する！緩和ケアの質向上への一歩

7月5日(土)7:30～8:30
第2会場

企画代表者：大日方 裕紀（北海道大学大学院保健科学研究 基盤看護学分野）

EM6
緩和ケアにおけるアロマセラピーの活用について話し合いませんか？～Part2～

7月5日(土)7:30～8:30
第3会場

企画代表者：伊藤 里美（東北大学医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）

EM7
がん相談 「緩和ケア」あるあるを語ろう

7月5日(土)7:30～8:30
第4会場

企画代表者：岸田 さな江（獨協医科大学病院）

EM8
がん医療に携わる少数派だけど、大切な職種の未来を考える

7月5日(土)7:30～8:30
第5会場

企画代表者：白石 恵子（九州がんセンター サイコオンコロジー科）

EM9
中国地方で一緒に緩和ケア、やりませんか？～キャリア形成の新たな一歩を踏み出そう～

7月5日(土)7:30～8:30
第6会場

企画代表者：河野 友絵（総合病院山口赤十字病院）

EM10
緩和ケアの鍼灸の力、鍼灸で緩和ケアしよう！第2弾

7月5日(土)7:30～8:30
第7会場

企画代表者：朝田 ちあき（北海道消化器科病院 医療連携相談室、緩和ケア内科）

EM11
子どもを亡くした家族とともに歩む ～グリーフサポートの実践と展望～

7月5日(土)7:30～8:30
第8会場

企画代表者：藤田 紋佳（NPO法人福岡子どもホスピスプロジェクト、名古屋大学）

EM12 共に創ろう緩和ケア領域のエビデンス～ J-SUPPORT と JORTC の共同の取り組み～ 7月5日(土)7:30～8:30 第9会場

企画代表者：岩瀬 哲（埼玉医科大学病院 緩和医療科）

EM13 進行がん患者の全身倦怠感に対するコルチコステロイドの投与方法の確立を目指して 7月5日(土)7:30～8:30 第10会場

企画代表者：池永 昌之（淀川キリスト教病院 緩和医療内科）

EM14 多職種協働が変える骨転移患者の人生 ～子育て世代骨転移がん患者の治療と子育ての両立支援を考えよう～ 7月5日(土)7:30～8:30 第11会場

企画代表者：大場 洋子（KKR 札幌医療センター 緩和ケア科）

EM15 臨床宗教師と医療者との協働と可能性の発展を探る 7月5日(土)7:30～8:30 第12会場

企画代表者：原 信太郎（医療法人伴帥会愛野記念病院 緩和ケア内科、九州臨床宗教師会）

EM16 ACP 推進に向けた試み：自分の大切にしていることについて対話を促進するカードゲームの開発と実装 7月5日(土)7:30～8:30
※会場は、「マリメッセA館1F 控室B」になります。

企画代表者：長江 弘子（亀田医療大学）

EM17 使いながら考える AI の倫理と Occupational justice 7月5日(土)7:30～8:30 第14会場

企画代表者：華井 明子（千葉大学大学院 情報学研究院）

EM18 緩和ケア専門家の不足による均てん化の停滞 ～地方部の窮状をどうするか、北海道を例に知恵を絞ろう～ 7月5日(土)7:30～8:30 第15会場

企画代表者：小田 浩之（北海道における緩和ケアの均てん化を考える会（仮称））

EM19 ACP を病院や地域で広めるためのコツってありますか？（PART IV） 7月5日(土)15:40～16:40 第12会場
～ ACP が進まない、を何とかしたい！～

企画代表者：佐藤 直（総合南東北病院 外科・緩和ケアチーム）

EM20 非がん患者の終末期呼吸困難感の対応に対する主治医の葛藤とケアする看護師・家族の苦しみについて 7月5日(土)15:40～16:40 第14会場

企画代表者：濱田 昇（岡山市立市民病院 緩和ケアチーム）

EM21 身寄りがいない人のお金に関する問題について、病院内外の多職種で話し合おう！ 7月5日(土)15:40～16:40 第15会場

企画代表者：鳥崎 哲平（大腸肛門病センター高野病院 緩和ケア科）

EM22 緩和医療に関する多職種カンファレンスのアプローチ - リフレクションマッププログラム（RMP）の活用 - 7月5日(土)15:55～16:55 第2会場

企画代表者：飯岡 由紀子（埼玉県立大学）

EM23 患者と医療者が慈しみ、支え合うためにマインドフルネスとコンパッションをどう役立てていますか？ 7月5日(土)15:55～16:55 第4会場

企画代表者：笹良 剛史（社会医療法人友愛会 豊見城中央病院 全人的痛みセンター）

EM24 集中治療における緩和ケアの新時代！～欧州集中治療医学会ガイドラインを徹底解剖～ 7月5日(土)15:55～16:55 第6会場

企画代表者：吉澤 和夫（川崎市立井田病院 緩和ケア内科）

EM25

「地域に開かれた小児緩和ケア」について話し合おう！

7月5日(土)15:55～16:55

第8会場

企画代表者：津村 明美（認定 NPO 法人 横浜こどもホスピスプロジェクト）

市民公開講座

市民公開講座

しょうろうびょうし

生老病死をともに歩む ～地域とつながる緩和医療の力～

7月6日(日)10:30～12:30

One Fukuoka Conference Hall Terrace Hall AB

共催：塩野義製薬株式会社

座長：田村 恵子（第30回日本緩和医療学会学術大会 大会長、大阪歯科大学 教授）

原口 勝（公立八女総合病院企業団 みどりの杜病院 院長、ふくおか在宅ホスピスをすすめる会 世話人、福岡ホスピスの会・がん哲学外来めぐみカフェ 顧問）

演者：どこでも受けることのできるこれからの緩和医療について

山本 亮（JA 長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター 副院長、特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 理事、地域包括ケアと緩和ケアの統合委員会 委員長）

緩和ケアの力を借りて、私らしくおうちで過ごそう

西出 芙美（株式会社リビングスケイプ 訪問看護ステーションひおり 管理者、緩和ケア認定看護師）

おうちで受け取る緩和ケアに使う医薬品の注意点について

濱 寛（公益財団法人 福岡県薬剤師会 常務理事、有限会社スマイル薬局 代表取締役 / 薬剤師）

「過ごしたい場所で過ごす」を支える緩和ケア

内藤 明美（公益財団法人 宮崎市医師会宮崎市医師会病院 緩和ケア科 部長）

最優秀演題

最優秀演題 1

7月5日(土)15:55～16:55

第1会場

座長：前田 一石（医療法人協和会 千里中央病院 緩和ケア内科）

笹原 朋代（茨城県立医療大学）

最優秀演題 1-1 腕時計型デバイスから得られる生体信号を用いた中等度以上のがん疼痛自動検出モデルの開発

平山 英幸（東北大学大学院 医学系研究科 緩和ケア看護学分野）

最優秀演題 1-2 消化器癌患者におけるアナモレリンの臨床効果と予後予測

倉橋 知英（大阪労災病院消化器内科）

最優秀演題 1-3 中高年独居がん患者の社会的問題と孤独感：混合研究法を用いた非独居者との比較調査

久村 和穂（金沢医科大学医学部公衆衛生学、石川県がん安心生活サポートハウス）

最優秀演題 1-4 入院療養と在宅療養における非がん患者の緩和ケアの包括的評価～IPOSの評価から～

石井 容子（国際医療福祉大学 保健医療学部 看護学科）

最優秀演題 1-5 緩和ケアにおける専門的リハビリテーションが終末期がん患者のQOLに及ぼす効果

—緩和ケア病棟における多施設ランダム化比較試験の二次解析

中島 信久（琉球大学病院 地域・国際医療部 緩和ケアセンター）

最優秀演題 1-6 非装着型機器による活動量は終末期の苦痛症状の客観的指標となるか：COSMOS-PAL study

畑崎 華織（東京科学大学大学院 保健衛生学研究科）

優秀演題

優秀演題 1

分野 6「教育・普及啓発・研究方法・その他」

7月4日(金)13:25～14:25

第6会場

座長：平塚 裕介（竹田総合病院 緩和医療科）

小杉 俊介（飯塚記念病院 内科）

優秀演題 1-1 IP/PBX・クラウドPBXシステム導入の実績

梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院麻酔科学教室）

- 優秀演題 1-2 中小規模病院での終末期がん患者の Advance Care Planning における看護師の困難感尺度の開発と信頼性・妥当性の検証
松田 香織 (在宅療養支援ステーション 楓の風)
- 優秀演題 1-3 進行がん患者の Nutrition Impact Symptom に対する Minimal Important Difference の検討
岡村 知美 (大阪大学医学部附属病院 未来医療開発部 データセンター)
- 優秀演題 1-4 患者の意向を尋ねる質問紙の導入と終末期療養環境への影響に関する検討
川崎 成章 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、順天堂大学大学院医学研究科 緩和医療学)
- 優秀演題 1-5 妊娠期乳がん患者への支援—チーム医療の中のがん看護専門看護師の役割—
上田 佳奈 (国立病院機構 岩国医療センター)
- 優秀演題 1-6 嚥下がん患者における特別な支援
堀木 優志 (市立伊丹病院、緩和ケアセンター)

優秀演題 2 分野 2 「痛み以外の身体症状」

7月4日(金)13:25 ~ 14:25
第15会場

座長：小杉 和博 (筑波大学附属病院 緩和支援治療科)
嶽小原 恵 (淀川キリスト教病院 薬剤部)

- 優秀演題 2-1 終末期がん患者における死前喘鳴発生の予測因子
山口 崇 (神戸大学医学部附属病院、甲南医療センター)
- 優秀演題 2-2 オピオイドを開始するがん患者の便秘増悪における Patient Assessment of Constipation-Symptoms (PAC-SYM) の Minimal Important Change (MIC)
東端 孝博 (筑波大学 医学医療系 緩和医療学)
- 優秀演題 2-3 緩和ケア病棟に入院した呼吸困難を有するがん患者における、悪性胸水に対する処置についての後方視的検討
岡久 将暢 (がん研究会有明病院 緩和治療科)
- 優秀演題 2-4 がん終末期の脳腫瘍関連てんかん発作に対するミダゾラム持続注の使用経験
川村 泰一 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)
- 優秀演題 2-5 進行がん患者の悪液質に対する多職種ケアについてのニードの評価尺度の検討：自記式調査票を用いた多施設共同研究
荒川 さやか (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科)
- 優秀演題 2-6 骨転移に対して 5・10 回で 30Gy/10fr よりも高線量投与を行った放射線治療報告
高田 優 (札幌禎心会病院 放射線治療科)

優秀演題 3 分野 3 「精神心理的ケア・社会的ケア・スピリチュアルケア」

7月4日(金)14:40 ~ 15:30
第6会場

座長：岡本 禎晃 (公立大学法人敦賀市立看護大学)
青山 真帆 (山形県立保健医療大学大学院保健医療研究科)

- 優秀演題 3-1 成人した子をがんで亡くした遺族の悲嘆と抑うつ：全国死亡個票データに基づく分析
杉村 鮎美 (名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻)
- 優秀演題 3-2 終末期せん妄によるつらさの遺族における関連要因
内田 恵 (名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター、名古屋市立大学大学院医学研究科 精神・認知・行動医学)
- 優秀演題 3-3 家族介護者の慢性背部痛に影響を与えるがん介護の要因
蓮尾 英明 (関西医科大学心療内科学講座)
- 優秀演題 3-4 未成年の子どもを持つがん患者におけるオンラインピアサポートグループ参加による心理社会的効果を探索する前向き観察研究
小杉 和博 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科、筑波大学附属病院 緩和支援治療科)
- 優秀演題 3-5 癒しの空間が生み出す力：緩和ケアにおける環境デザインの可能性を探る文献レビュー
大谷 弘行 (聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和ケアセンター)

優秀演題 4
分野 2「痛み以外の身体症状」

7月4日(金)16:25～17:25
第2会場

座長：青木 美和（大阪大学大学院 医学系研究科 保健学専攻）
伊勢 雄也（日本医科大学付属病院 薬剤部）

- 優秀演題 4-1 **日本人前立腺癌患者における癌治療関連骨減少症とビタミンD充足度の関係およびゾレドロン酸治療効果最適化のための25(OH)D濃度の検討**
渡邊 大祐（順天堂大学医学部緩和医療学研究室、江東病院泌尿器科、順天堂大学大学院分子細胞治療研究講座）
- 優秀演題 4-2 **進行がん患者の「食に関する苦悩」への全人的アプローチ：管理栄養士の役割とその効果**
藤村 千紗（松原徳洲会病院 緩和ケアチーム）
- 優秀演題 4-3 **がん患者の片側胸水に伴う呼吸困難に対する体位交換の有効性に関する多機関ランダム化クロスオーバー比較試験-パイロット研究**
角甲 純（三重大学大学院）
- 優秀演題 4-4 **進行肺がん患者の呼吸困難に対する「背部のタッチケアと呼吸法」の有用性**
近藤 美希（社会福祉法人あそか会 あそか病院 緩和ケア病棟）
- 優秀演題 4-5 **緩和ケア病棟における栄養学的検討 - 在院死亡と生存退院例の相違、アルブミン・CRPと予後**
平井 一郎（三友堂病院 緩和ケア科）
- 優秀演題 4-6 **がん患者における咳嗽に対するガバペンチンの有効性：探索的研究**
池田 昌弘（がん研究会有明病院緩和治療科）

優秀演題 5
分野 4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」

7月4日(金)16:25～17:25
第4会場

座長：清水 政克（医療法人社団 清水メディカルクリニック）
梅田 恵（ファミリーホスピス株式会社 品質管理室）

- 優秀演題 5-1 **当院における間質性肺炎終末期診療の現状 ～10年前との比較～**
中島 治典（大垣市民病院呼吸器内科）
- 優秀演題 5-2 **AYA世代がん患者の在宅緩和医療における持続鎮静の実態と関連因子の検討**
渡邊 拓史（医療法人社団 淳友会 わたクリニック）
- 優秀演題 5-3 **病状や予後に関する説明に対する心不全患者家族の受け止めと医療者に期待する説明内容と態度：遺族対象インタビュー調査**
堀川 由加里（地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター）
- 優秀演題 5-4 **患者・家族の医療処置の管理能力に基づく在宅医療の実現可能性における医師の認識**
久保 絵美（国立がん研究センター東病院緩和医療科）
- 優秀演題 5-5 **東京都立小児総合医療センターにおける小児がん死亡例の後方視的解析**
杉山 正伸（東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科）
- 優秀演題 5-6 **緩和ケア病棟入院患者を対象とした、在宅医療移行時の潜在的な不適切処方の実態調査**
小田 亜貴子（国立がん研究センター東病院 薬剤部）

優秀演題 6
分野 5「終末期ケア・専門的緩和ケア（緩和ケア病棟・緩和ケアチーム等）」

7月4日(金)16:25～17:25
第5会場

座長：山本 瀬奈（大阪大学大学院 医学系研究科保健学専攻）
神谷 浩平（一般社団法人MY wells地域ケア工房）

- 優秀演題 6-1 **早期緩和ケア実装に向けた進行肺がんを有する患者とその家族に対するスクリーニングと介入のパイロットランダム化比較試験**
佐藤 崇（北里大学医学部呼吸器内科学）
- 優秀演題 6-2 **電子カルテの非構造化テキストから終末期がん患者家族の精神的苦痛を評価する機械学習モデルの開発**
丹野 桃伽（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）
- 優秀演題 6-3 **笑顔が紡ぐ癒しの瞬間：ユーモアが描く緩和ケアの可能性を探る文献レビュー**
大谷 弘行（聖マリア病院 緩和ケア内科、九州がんセンター 緩和ケアセンター）
- 優秀演題 6-4 **がん治療医と緩和ケア医の予後予測に関する検討**
小池 和彦（社会医療法人 札幌清田病院 緩和支援医療センター 緩和ケア内科）

優秀演題 6-5 緩和ケアチーム介入症例における短期的予後予測指標として CRP/Alb 比の有用性の検討
竹口 有美 (三重大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、三重大学医学部附属病院 緩和ケアチーム)

優秀演題 6-6 専門的緩和ケア介入における患者報告型アウトカムを用いた症状改善率のモニタリング: 多施設パイロット調査
田村 菜津子 (東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野)

優秀演題 7
分野 6 「教育・普及啓発・研究方法・その他」

7月4日(金)16:25～17:25
第14会場

座長: 仁木 一順 (大阪大学大学院 薬学研究科)
加場 美穂 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)

優秀演題 7-1 がんの診断時から意思決定支援ができるシステム構築に関する取り組みについて
大橋 理紗 (関西医科大学総合医療センター)

優秀演題 7-2 緩和ケア病棟での体温測定における非接触型体温計の有用性の検討
吉村 真一朗 (JCHO 九州病院 緩和ケア科)

優秀演題 7-3 意思決定のための準備尺度日本語版 (Japanese version Preparation for Decision Making scale) の内容
妥当性の検証
森川 みはる (京都大学大学院)

優秀演題 7-4 電子カルテシステムを利用したリソースナースによる意思決定支援の取り組み
金生 睦子 (香川労災病院 看護部)

優秀演題 7-5 電子カルテの診療記録を用いた終末期がん患者家族のスピリチュアルペイン自動評価モデルの開発
鈴木 隆将 (東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野)

優秀演題 7-6 Phase of Illness の信頼性・妥当性の検討
大日方 裕紀 (北海道大学大学院保健科学研究基盤看護学講座)

優秀演題 8
分野 1 「痛み」

7月4日(金)16:25～17:05
第15会場

座長: 間宮 敬子 (信州大学医学部附属病院信州がんセンター 緩和部門)
矢吹 律子 (筑波メディカルセンター病院 緩和医療科)

優秀演題 8-1 レセプトデータを活用したがん患者のオピオイド処方における病院機能・地域差に関する研究
高橋 理智 (国立がん研究センターがん対策研究所 がん政策評価研究部、
国立がん研究センターがん対策研究所 がん医療支援部)

優秀演題 8-2 がん患者におけるオピオイド誘発性眠気に影響を与える GABA トランスマナーゼ遺伝子多型
小暮 孝道 (東京大学医学部附属病院緩和ケア診療部)

優秀演題 8-3 がんによる中枢神経障害および末梢神経障害が原因の痛みに対するコルチコステロイドの日常生活活動量への影
響、および併用したオピオイドが鎮痛効果に与えた影響の探索
田上 恵太 (医療法人社団 悠翔会 くらしケアクリニック練馬 在宅緩和ケア、東北大学大学院 医学系研究科 緩和医療学分野)

優秀演題 8-4 緩和ケア病棟で死亡した 90 歳以上の超高齢がん患者のオピオイド使用状況: 単施設後ろ向き観察研究
柳泉 亮太 (聖隷横浜病院麻酔科、横浜市立大学附属病院緩和医療科)

優秀演題 9
分野 3 「精神心理的ケア・社会的ケア・スピリチュアルケア」

7月5日(土)8:45～9:25
第6会場

座長: 藤森 麻衣子 (国立研究開発法人国立がん研究センター がん対策研究所 サバイバーシップ研究部)
西山 菜々子 (大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科)

優秀演題 9-1 わが国のホスピス・緩和ケア病棟における遺族ケアの現状と課題
— 2002 年調査、2012 年調査、2022 年調査の比較 —
坂口 幸弘 (関西学院大学人間福祉学部、関西学院大学悲嘆と死別の研究センター)

優秀演題 9-2 オンラインの CLIMB® ががんと診断された親とその子どもの心理面に与える影響
柴田 麻美 (福井県済生会病院)

優秀演題 9-3 がん患者を親にもつ思春期の子どもを支える Teen CLIMB プログラム日本版の開発:
当事者と支援者へのフォーカスグループインタビュー
赤川 祐子 (秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座、NPO 法人 Hope Tree)

優秀演題 9-4 進行がん・終末期がんを抱える対象者の就労希望と作業療法士の役割
— 全国がん診療連携拠点病院を対象としたアンケート調査 —
阿瀬 寛幸 (順天堂東京江東高齢者医療センター リハビリテーション科、
順天堂大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学)

優秀演題 10
分野 1「痛み」

7月5日(土)13:25～14:15
第6会場

座長：清水 正樹（京都桂病院 緩和ケア科）
高橋 紀子（独立行政法人国立病院機構仙台医療センター）

- 優秀演題 10-1 臥床患者でも使用できるモニター型 VR システムの有用性に関するクロスオーバー比較試験
橋本 百世（市立芦屋病院 サポートケアチーム、市立芦屋病院 薬剤科）
- 優秀演題 10-2 がん疼痛治療の Personalized Pain Goal と患者が疼痛治療不要と感じるまでの日数の検討
石川 彩夏（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）
- 優秀演題 10-3 オピオイド投与経路による疼痛緩和達成日数の検討
松原 奈穂（国立がん研究センター中央病院緩和医療科、順天堂大学大学院呼吸器内科学講座）
- 優秀演題 10-4 日常生活に支障をきたす疼痛に関連する臨床的因子
北澤 宏展（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院緩和ケア科）
- 優秀演題 10-5 予後月単位と週単位の終末期がん患者の疼痛に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
森川 みはる（京都大学大学院）

優秀演題 11
分野 4「地域・在宅ケア・特定集団に対する緩和ケア」

7月5日(土)14:30～15:40
第6会場

座長：餅原 弘樹（医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック）
多田 羅 竜平（大阪市立総合医療センター緩和ケア内科／緩和ケアセンター）

- 優秀演題 11-1 非がん性呼吸器疾患緩和ケア年間介入件数による比較検討からみえた普及についての課題
—日本緩和医療学会緩和医療専門医対象全国調査より—
木村 尚子（済生会横浜市南部病院）
- 優秀演題 11-2 非小細胞肺がんの終末期ケアの質に抗がん治療の進歩が与える影響の検討
街道 達哉（JA 愛知厚生連江南厚生病院緩和ケア内科）
- 優秀演題 11-3 緩和ケア病棟における ICT 利用在宅緩和ケア症例緊急入院初期加算の現状
村上 望（厚生連高岡病院、緩和ケアセンター）
- 優秀演題 11-4 終末期にある在宅療養者とその家族への食支援に関する質的記述的研究
—管理栄養士と訪問看護師へのインタビュー調査から—
照屋 典子（琉球大学医学部保健学科）
- 優秀演題 11-5 在宅輸血治療に対する遺族満足度調査
山田 真弓（トータス往診クリニック、NPO 血液在宅ねっと）
- 優秀演題 11-6 遺族調査による AYA 世代がん患者の受けた緩和ケアの質および遺族の抑うつ・悲嘆
董 磊（東北大学医学系研究科緩和ケア看護学分野）
- 優秀演題 11-7 P（Palliative）カードを活用した終末期在宅療養患者のスムーズな救急搬送～救急隊へのアンケート調査～
山本 直美（若草第一病院 看護部）

優秀演題 12
分野 6「教育・普及啓発・研究方法・その他」

7月5日(土)14:40～15:30
第4会場

座長：立松 典篤（名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻）
笠原 庸子（医療法人秋本クリニック地域医療連携室）

- 優秀演題 12-1 緩和医療の専門医・認定医が不在の施設に所属する認定・専門看護師の緩和ケア提供上の困難および相談ニーズの実態
青木 美和（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）
- 優秀演題 12-2 リハビリテーション介入における FIM の項目別変化の検討
安原 寛和（前橋赤十字病院 リハビリテーション科部、前橋赤十字病院 緩和ケアチーム）
- 優秀演題 12-3 緩和ケア病床入院高齢男性患者の「終活」の実態
珠蘭 其其格（東北労災病院緩和ケア内科、東北労災病院緩和チーム）
- 優秀演題 12-4 「重篤な疾患を持つ子どもの医療をめぐる話し合いのガイドライン」改訂版を用い、生命維持治療の差し控えを検討した早産児の一例
上田 一仁（名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター）
- 優秀演題 12-5 ACP の侵襲性をどうやって抑えるか—患者の視点からスタートする ACP—
関 晶（独立行政法人国立病院機構北海道医療センター）

座長：原 伸輔（大阪大学医学部附属病院 薬剤部）
 内藤 明美（宮崎市医師会病院 緩和ケア科）

優秀演題 13-1 終末期がん患者の日常生活活動の各項目に対する専門的リハビリテーションの効果についての検討：
 緩和ケア病棟における多施設ランダム化比較試験の二次解析
 西山 菜々子（大阪公立大学 大学院リハビリテーション学研究科）

優秀演題 13-2 良い死の実現について医療スタッフと遺族の評価は一致するか？
 山本 亮（佐久総合病院佐久医療センター 緩和ケア内科）

優秀演題 13-3 がん、非がん患者の苦痛緩和のための持続鎮静に関する実態調査
 熊澤 瑛人（神戸学院大学薬学部）

優秀演題 13-4 FT3 低値と乏尿は終末期の造血器悪性腫瘍における予後不良因子である
 酒寄 葉（東京慈恵会医科大学附属病院 緩和ケア診療部、東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科）

優秀演題 13-5 根治不能な大腸癌症例における腹水症と予後との関連
 西堀 理香（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター緩和ケアセンター）

一般演題ポスター

痛みの評価・診断 (P1-1～P1-8)

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P1-1 知的障がい・自閉症のある終末期がん患者への関わりを通して
 ～疼痛評価に日本語版アビー痛みスケール (APS-J) が有用だった 1 症例～
 熟山 美（医療法人社団医仁会 ふくやま病院 緩和ケア病棟）
- P1-2 薬物動態を考慮した薬剤選択を行い、オピオイドによって除痛ができた腓尾部がんの 1 例
 吉野 和穂（小田原市立病院）
- P1-3 がん患者のがん疼痛と併存疾患による疼痛の鑑別に難渋した 1 例
 後藤 麻佑（東邦大学医療センター大森病院 緩和ケアセンター、東邦大学医療センター大森病院 消化器外科）
- P1-4 強い下肢痛のみを呈し診断に難渋した癌性髄膜炎の一例
 伊木 れい佳（奈良県総合医療センター）
- P1-5 NRS と FS 併用による終末期患者の疼痛管理
 榎本 史子（新百合ヶ丘総合病院 緩和ケアチーム、新百合ヶ丘総合病院 看護部）
- P1-6 レスキュー薬評価テンプレート導入の取り組み
 井上 昇（高山赤十字病院 薬剤部、高山赤十字病院 緩和ケアチーム）
- P1-7 外来における医療用麻薬使用患者に対する疼痛評価への取り組み
 伊瀬 志穂（公立西知多総合病院 看護部）
- P1-8 部位の重なるがん性・非がん性疼痛の重複により、症状軽減に苦慮した症例経験
 鐘野 弘洋（千葉大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、千葉大学医学部附属病院 麻酔・疼痛・緩和医療科）

オピオイド (P1-9～P1-45)

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P1-9 オピオイドの減量により QOL の改善が得られた 3 症例
 金井 友宏（大阪鉄道病院 緩和ケア内科、大阪鉄道病院 サポートケアチーム）
- P1-10 難治性がん疼痛に対して在宅で先行オピオイドにメサドンを上乗せし、安全に導入できた一例
 浅野 涼（医療法人社団月明会 あかり在宅クリニック）
- P1-11 当院におけるオピオイド注射開始時の栄養状態と生存期間に関する調査
 堀江 達夫（大田市立病院薬剤科）
- P1-12 ヒドロモルフォン塩酸塩徐放錠の吸収不良が疑われメサドン塩酸塩へオピオイドスイッチングを行った、回腸切除
 および回腸ストーマ造設術後の一例
 松尾 奈々子（大阪医科薬科大学病院 化学療法センター、大阪医科薬科大学病院 緩和ケアチーム、
 大阪医科薬科大学 第二内科）

- P1-13 **ヒドロモルフォン製剤による薬疹が疑われた 1 例**
 峠 弘治 (新潟大学歯学総合病院 腫瘍センター 緩和ケアチーム、新潟大学歯学総合病院 消化器一般外科)
- P1-14 **メサドン 5mg 1日 1回投与による薬物誘発性 QT 延長症候群の 1 例**
 加藤 栄助 (小牧市民病院 緩和ケア科、昭和大学 医学部内科学講座呼吸器アレルギー内科部門 藤が丘病院 呼吸器内科)
- P1-15 **心臓原発未分化多形肉腫の多発性筋転移による難治性疼痛に対しメサドンが有効であった一例**
 久保田 るり子 (JA 北海道厚生連 札幌厚生病院 緩和ケアセンター)
- P1-16 **オピオイド使用に伴う血管浮腫を生じた一例**
 大棟 有紀 (京都桂病院 緩和ケア科)
- P1-17 **オピオイド持続皮下投与における 1 回レスキュー量の妥当性の検証**
 平尾 遥 (神戸学院大学薬学部)
- P1-18 **がん疼痛に対して高用量オキシコドン注射液を使用して疼痛コントロールを行った悪性褐色細胞腫の一例**
 小林 祐子 (聖マリアンナ医科大学病院薬剤部)
- P1-19 **他のオピオイドから add-on 法でメサドン塩酸塩錠を導入し、良好な疼痛コントロールを得た一例**
 佐久間 美岐 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)
- P1-20 **高用量フェンタニルテープからヒドロモルフォン持続皮下注射へのスイッチングプロトコルを用いた 3 症例**
 荒木 優子 (医療法人社団医仁会 ふくやま病院 薬剤科)
- P1-21 **難治性がん疼痛に対し、ケタミンおよびメサドン使用例の効果と予後に関する後方視的検討**
 池上 貴子 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科、大阪医科大学大学院 化学療法センター)
- P1-22 **肺癌の腕神経叢浸潤による左上肢痛に長期間多量のオピオイドを必要とし、慢性疼痛に移行した後も減量に苦慮している一症例**
 佐藤 恵子 (横浜市大附属市民総合医療センター 麻酔科、医療法人平和会 平和病院)
- P1-23 **高用量のオピオイドをヒドロモルフォンへスイッチングした結果、過少投与が示唆された事例の報告と考察**
 鈴木 尚樹 (山形県立中央病院 緩和医療科)
- P1-24 **オピオイドの換算比に関する全国調査**
 西村 瑠美 (国立がん研究センター中央病院緩和医療科)
- P1-25 **直腸がん再発でオピオイド投与中の緊急人工肛門造設術に際して多角的な周術期疼痛管理が有用であった一症例**
 木村 太 (弘前大学大学院医学研究科 地域侵襲制御医学講座 (麻酔科))
- P1-26 **高度の疼痛にオピオイドスイッチとトラマドールの併用が有効であった直腸癌の 1 例**
 飯田 邦夫 (協立総合病院緩和ケア診療部)
- P1-27 **メサドンを add-on 法で導入し良好な疼痛コントロールを得た難治性がん疼痛の 2 例**
 乾 友浩 (徳島大学病院 がん診療連携センター)
- P1-28 **難治性疼痛を訴える患者に対してオキシコドン徐放錠、ヒドロモルフォン塩酸塩、メサドン塩酸塩を使用し疼痛コントロールを行なった一例**
 藤井 仁志 (岩手県立久慈病院 外科)
- P1-29 **難治性疼痛に対して全身状態に合わせてヒドロモルフォン持続注、ケタミン持続注、メサドン錠、調節型鎮静併用を経て自宅退院が可能となった 1 症例**
 秋山 幸子 (医療法人社団 三喜会 鶴巻温泉病院 薬剤科)
- P1-30 **メサドン内服困難時の対応策～ 145 症例における後方視的検討～**
 佐藤 哲観 (静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科、静岡県立静岡がんセンター 緩和ケアチーム)
- P1-31 **高用量の強オピオイドから離脱し得た乳がんサバイバーの一例**
 別府 曜子 (市立池田病院)
- P1-32 **高用量オピオイドが処方されている患者に対する除痛目的手術後に呼吸抑制を生じた 1 症例**
 杖下 隆哉 (日本医科大学多摩永山病院麻酔科)
- P1-33 **子宮頸がん術後の疼痛に対して開始されたヒドロモルフォンを不適切に使用していた患者が、ブプレノルフィン貼付剤へ置換することで中止できた 1 例**
 小野寺 美子 (旭川医科大学病院緩和ケア診療部)
- P1-34 **当院通院中の患者のうち、10 年以上強オピオイドを使用している事例についての検討**
 添田 侑希 (がん・感染症センター都立駒込病院薬剤科、がん・感染症センター都立駒込病院緩和ケアチーム)
- P1-35 **呼吸困難に対するモルヒネの有効性～がん・非がんとの比較～**
 山本 果奈 (東京女子医科大学 消化器内科、がんセンター)

- P1-36 拡張型心筋症末期状態における重度浮腫に合併した重症下肢蜂窩織炎の苦痛緩和に用いたモルヒネの持続皮下注が著しい利尿効果をもたらした一例
宮原 誠二（公立神崎総合病院）
- P1-37 メキシレチンとの併用にてメサドン投与で疼痛コントロール可能であった不整脈患者の1例
石丸 紗也佳（市立戸屋病院 緩和ケア内科）
- P1-38 デスカンファレンスを通して見えた課題と認定看護師としての対応
～医療用麻薬に頼った不安の強い患者への介入を振り返る～
横芝 真紀（橋本市民病院 緩和ケアチーム）
- P1-39 がん疼痛に対する医療用麻薬の使用状況の検討
～オピオイド持続注射使用に影響する因子～（単一施設における後方視的研究）
青石 裕香（愛晋会 中江病院 緩和ケア／在宅診療）
- P1-40 高用量メサドンの内服困難時に塩酸モルヒネ持続注の増量で疼痛コントロールを行い、在宅看取りまで対応できた一例
原田 紳介（ゆう在宅クリニック旭）
- P1-41 80歳以上の高齢者のがん疼痛に対するオピオイドの使用状況について
寺本 晃治（滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍内科、滋賀医科大学医学部附属病院 腫瘍センター）
- P1-42 緩和ケア病棟における死亡退院症例における死因とオピオイド投与についての検討
浦川 雅己（深谷赤十字病院 緩和ケア外科）
- P1-43 オキシコドン徐放錠からヒドロモルフォン徐放錠への変更により退薬症状の軽減が可能となった1症例
土井 千春（恩賜財団済生会横浜市南部病院 緩和医療科）
- P1-44 オピオイド使用障害に関する看護師への意識調査
乾 貴絵（兵庫医科大学病院 緩和ケアセンター）
- P1-45 医療用麻薬の適正使用に向けた取り組みについて
柴田 志保（福岡大学病院麻酔科）

**オピオイド以外の薬物療法
(P1-46～P1-61)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P1-46 メサドン内服が困難になった骨肉腫仙骨転移を原因とした難治性神経障害性疼痛の患者に対してケタミンが著効した1例
加藤 豪（宝塚市立病院 緩和ケア内科）
- P1-47 オピオイド単独でのコントロールが困難ながん性疼痛に対しケタミン持続注射併用の有用性についての調査
～神経障害性疼痛以外の疼痛症例を含めた検討～
近藤 真由美（JCHO 東京新宿メディカルセンター 緩和ケア内科）
- P1-48 骨転移痛に対しメサドンを導入したが副作用のため増量できず、少量のヒドロモルフォンとケタミンを併用し良好な疼痛緩和が得られた事例
越村 裕美（市立秋田総合病院緩和ケア内科）
- P1-49 治療直前にリドカイン点滴静注を併用することで緩和的放射線治療が可能となったがん疼痛の3症例
滝本 佳予（市立豊中病院 ライフ・サポートケアチーム）
- P1-50 切開排膿ならびに排膿散及湯投与が疼痛軽減につながった直腸癌による陰部膿瘍の1例
高久 秀哉（水戸済生会総合病院緩和ケア内科、筑波技術大学保健科学部附属東西医学統合医療センター）
- P1-51 筋転移による難治性がん疼痛にオピオイドへのケタミン併用が有効であった胃がん患者の1例
長尾 茂輝（横浜南共済病院緩和支援療法科）
- P1-52 頭蓋底浸潤の難治性頭痛に対してケタミン塩酸塩が有効であった口腔底がんの一例
小原 弘之（徳山中央病院 緩和ケア内科）
- P1-53 癌性疼痛に対してジクトルテープを用いた9症例の検討
飯田 由子（日本大学病院）
- P1-54 血液腫瘍患者の帯状疱疹後神経痛に対するミロガバリンの使用経験
梶谷 美砂（川崎市立川崎病院麻酔科、緩和ケア内科）
- P1-55 強い神経障害性疼痛を有する透析患者の退院を見据えた疼痛管理
藤田 靖明（豊橋市民病院）

- P1-56 副作用（肝機能障害）の発現によりアセトアミノフェン投与量を減量するも、オピオイドの調節により鎮痛効果を維持できた1症例
加藤 あゆみ（日本医科大学付属病院、薬剤部）
- P1-57 緩和ケアにおけるリドカイン血中濃度の非侵襲的予測法：
リドカイン持続静注は何mg/日まで安全に投与できるか？
松田 陽一（大阪大学大学院医学系研究科麻酔・集中治療医学教室、大阪大学医学部附属病院緩和医療センター）
- P1-58 S状結腸癌脊髄内転移に伴う疼痛の緩和にステロイドが著効した一例
山中 裕貴（小牧市民病院 緩和ケア科）
- P1-59 血液がん患者の口腔粘膜炎に対する半夏瀉心湯の効果
櫻井 宏樹（虎の門病院緩和医療科）
- P1-60 常用量で短期間投与したプレガバリン中止後に離脱症状を疑った一例
井上 直也（関西電力病院 緩和医療科）
- P1-61 がん終末期においてオピオイド抵抗性の難治性疼痛を有する患者ヘクタミンを使用することの有用性について
秋山 博実（大曲厚生医療センター緩和ケア科）

**ペインクリニック・神経ブロック
(P1-62～P1-80)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P1-62 緩和ケアにおける耳介低反応レベルレーザー照射の効果
浅野 真（社会医療法人平成醫塾苫小牧東病院緩和ケア内科・ペインクリニック内科・麻酔科）
- P1-63 地方都市におけるくも膜下フェノールブロックのニーズと実践
～会陰・肛門部痛を有する切除不能直腸がん症例の疼痛緩和を通して
宮本 奈穂子（釧路市立総合病院 緩和ケア内科）
- P1-64 がん疼痛と非がん疼痛が混在する難治性疼痛に脊髄くも膜下鎮痛が有用であった一例
高橋 佑一朗（北里大学医学部麻酔科学教室）
- P1-65 がん性疼痛における神経ブロック治療の検討
村田 雄哉（筑波大学附属病院麻酔科）
- P1-66 在宅緩和ケアにおいて、神経ブロックが著効した3症例
梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院麻酔科学教室）
- P1-67 難治性の癌性疼痛に対して 架橋的硬膜外鎮痛法と腹腔神経叢ブロックが有効であった1例
亀井 大二郎（松原徳洲会病院 緩和ケアチーム）
- P1-68 発症早期に腹腔神経叢ブロックを施行したことにより、その後の抗がん薬物療法を施行し得た膀胱がんの1症例
濱口 明彦（東京慈恵会医科大学附属柏病院 腎臓・高血圧内科、緩和ケアチーム）
- P1-69 内臓神経ブロック後に血栓塞栓症によると思われる内臓虚血をきたし疼痛管理に難渋した食道胃接合部癌の1例
杉山 陽子（中部国際医療センター 麻酔・疼痛・侵襲制御センター）
- P1-70 がん患者腰痛に神経ブロックによる診断的治療を行った3例
川原 玲子（和泉市立総合医療センター緩和医療科）
- P1-71 子宮肉腫の難治性多発骨転移痛にくも膜下鎮痛法を駆使して管理した症例
上野 博司（京都府立医科大学 麻酔科学教室）
- P1-72 巨大仙骨部脊索腫による難治性がん疼痛に対し、くも膜下鎮痛法とメサドンの併用により疼痛緩和が得られた症例
松尾 佳那子（京都府立医科大学附属病院 麻酔科学教室 疼痛緩和医療部）
- P1-73 放射線肺臓炎を呈した肺がん患者に胸部くも膜下フェノールブロックを施行し、良好な鎮痛が得られた1例
小島 康裕（JA 愛知厚生連豊田厚生病院ペインクリニック外科）
- P1-74 状態の悪い患者様に当院で行っている神経ブロックの工夫
増田 亨（もりえい病院 緩和ケア外科）
- P1-75 脊髄鎮痛法を用いて転移性脊髄圧迫症が疑われる担癌患者のMRI検査と放射線治療を完遂した2例
酒井 博生（JA 愛知厚生連 豊田厚生病院 麻酔科・ペインクリニック外科）
- P1-76 膀胱部癌患者の圧迫骨折に伴う難治性非がん疼痛に神経根ブロックパルス高周波法が著効し、精神的苦痛が緩和され患者と緩和ケア病棟スタッフとの関係性が大きく改善した1例
木下 浩（彩都友誼会病院 緩和ケア科）

- P1-77 皮下埋め込みくも膜下ポートを造設して疼痛管理を行った患者の在宅医療移行に関する臨床的考察
河野 優 (医療法人徳洲会 中部徳洲会病院 疼痛治療科)
- P1-78 皮下埋設型硬膜外アクセスポート留置により、良好な鎮痛を得られ在宅診療につなげられたが、創部離開後も感染を回避し、在宅療養を継続できた一例
黒木 洋子 (聖隷横浜病院麻酔科)
- P1-79 腓骨部癌腰椎椎体骨転移の椎間孔及び両腸腰筋浸潤に伴う神経根障害及び両腸腰筋症候群に対しても膜下鎮痛法が有効であった 1 例
原賀 勇壮 (北九州市立医療センター麻酔科)
- P1-80 腰痛から肺がん骨盤転移が判明した妊娠 18 週の妊婦に対し、持続硬膜外ブロックを用いることで痛みが軽減し意思決定が可能となった一例
大石 まゆ (新潟市民病院 緩和ケア内科)

**非薬物療法(患者教育など)
(P1-81 ~ P1-84)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P1-81 成人がん患者を対象とした補完代替医療の現状と有効性に関する文献検討
藤井 寧音 (三重大学医学部看護学科)
- P1-82 進行がん患者の痛みに対する交番磁界治療器の至適な治療時間の条件に関する多施設共同研究
安次富 裕哉 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)
- P1-83 麻薬使用に関連したインシデント報告事例の分析調査～再発防止にむけたリスクマネジメントの取り組み～
三浦 美和子 (東京都済生会中央病院 看護部、東京都済生会中央病院 がん医療相談室、
国際医療福祉大学大学院 医学研究科)
- P1-84 がん患者の痛みに対するニューロフィードバック療法に関するナラティブレビュー
三浦 智史 (国立がん研究センター東病院緩和医療科)

**トータルペイン
(P1-85 ~ P1-87)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P1-85 高容量にオピオイドを使用しケミカルコーピングが疑われた一例
安川 夏江 (下関市立大学 看護学部)
- P1-86 在宅末期がん療養者の心理的安定をもたらしたリハビリテーション看護の実際
—元柔整整復師へのポジティブヘルスアプローチ—
大林 将人 (株式会社 CareCreation ケアクリ看護センター)
- P1-87 スピリチュアルケアとオピオイド貼付薬による慢性疼痛管理で社会復帰を支援した両上肢切断の一例
原 信太郎 (医療法人伴帥会愛野記念病院、日本臨床宗教師会)

**インターベンショナルラジオロジー(痛み)
(P1-88 ~ P1-91)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P1-88 緩和的動脈塞栓術により早期に疼痛緩和できた肝内胆管癌左腸骨転移の 1 例
平田 裕久 (松原徳洲会病院 緩和ケアチーム)
- P1-89 大腿部軟部腫瘍の疼痛に対し、高用量のオピオイド投与中だったが、緩和放射線治療が効果があり、オピオイドを漸減し、退薬症状の出現無く、オピオイドフリーとなった 1 例
宮脇 弘樹 (神戸大山病院)
- P1-90 悪性黒色腫有痛性骨転移仙骨神経叢浸潤に対する IVR 先行放射線治療の 1 例
木原 綾乃 (奈良県立医科大学 放射線診断・IVR 学講座)
- P1-91 薬物療法、放射線照射、手術療法後もコントロール不良な臀部・下肢痛に対し転移性脊椎腫瘍への IVR が有効であった一例
福田 陽子 (慶應義塾大学病院 緩和ケアセンター)

**その他の痛みに関するもの
(P1-92 ~ P1-96)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P1-92 がん疼痛と慢性疼痛での服薬指導の違いに困惑した長期がんサバイバーの一例
小松 智子 (市立札幌病院 看護部看護課)

- P1-93 卵巣がん術後化学療法後の巨大肝転移・腹膜播種による治療に難渋する疼痛と消化器症状に対して、放射線治療が有効であった一例
廣嶋 悠一（茨城県立中央病院 緩和ケアセンター、茨城県立中央病院 放射線治療科）
- P1-94 絵を書くことで疼痛コントロールと周囲とのコミュニケーションが円滑化した 10 歳代後半の自閉スペクトラム障害を合併したユーイング肉腫患者の一例
佐藤 薫（福島県立医科大学麻酔科学講座）
- P1-95 急激な心窩部痛で緩和ケア科に救急搬送、門脈ガス血症が発見されたが、三次救急病院との連携により迅速に診断治療のアセスメントを得られた下顎骨中心性局所再発癌の一例
木下 紗緒梨（医療法人社団 清康院 かがみとつかクリニック、医療法人 平和会 平和病院）
- P1-96 骨盤内臓全摘術後に生じた幻膀胱痛（Phantom Urinary Bladder pain）に対し集学的アプローチを行った一例
蔵本 浩一（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科）

**呼吸器症状(呼吸困難、咳など)
(P2-1 ~ P2-10)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-1 緩和ケア病棟においてリザーバー付き鼻カニューラを使用した3例
八城 弘憲（三菱京都病院 腫瘍内科・緩和ケア内科）
- P2-2 慢性閉塞性肺疾患の呼吸困難に対してモルヒネ塩酸塩注射液持続投与使用後にトラマドール塩酸塩錠内服にスイッチし自宅退院が可能になった一例
山崎 誠司（徳島県立三好病院 緩和ケア内科）
- P2-3 ミダゾラム注射、フェノバルビタール坐剤により効果を得ず、フェノバルビタール注射により良好な鎮静を得た壮年期がん患者の2例
萩原 信悟（友愛記念病院 緩和ケア科）
- P2-4 悪性リンパ腫による癌性胸水に対してステロイドが奏功した症例
工藤 洋平（取手北相馬保健医療センター医師会病院）
- P2-5 がん患者の呼吸困難感に対する各種オピオイドの有効性の比較
高山 敬子（東京女子医科大学消化器内科、東京女子医科大学病院がんセンター）
- P2-6 血液透析中の肺がん患者の呼吸苦症状に対してヒドロモルフォン錠により良好なコントロールが得られた一例
大内 竜介（東北医科薬科大学薬学部病院薬剤学教室、東北医科薬科大学病院薬剤部）
- P2-7 コルチコステロイドが著効し呼吸困難に対するオピオイド投与を終了し得た、気管浸潤により主要気道閉塞を来した甲状腺がんの1例
小坂 太祐（山形県立河北病院緩和ケア科）
- P2-8 呼吸困難、精神運動興奮対応に難渋した慢性血栓性肺高血圧症の1例
日野 裕太郎（やまぶき訪問クリニック）
- P2-9 在宅医療において、肺癌患者にリザーバ式酸素供給カニューレを使用した2症例
前田 薫（日本橋かきがら町クリニック）
- P2-10 上気道狭窄による苦痛緩和目的に開始した持続的深い鎮静を中止することができた一症例
馬場 美華（吹田徳洲会病院 緩和医療科）

**消化器症状(悪心・嘔吐、腹水など)
(P2-11 ~ P2-31)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-11 膵体部癌十二指腸浸潤による通過障害でステント内挿術施行後の再狭窄、再々狭窄にステント内ステント留置することで長期経口摂取を維持できた1例
吉永 敬士（社会医療法人シマダ 嶋田病院）
- P2-12 難治性腹水を伴う肝硬変患者における腹水濾過濃縮再静注法の長期成績
出口 章広（香川労災病院消化器内科）
- P2-13 悪性腹水患者に対する腹腔穿刺の腹水排水量ごとの安全性と有効性
辻本 優梨（大阪医科薬科大学病院第二内科）
- P2-14 テネスマス症状で頻回のトイレ通いを要した collagenous colitis と考えられた1例
鈴木 晶子（医療法人聖仁会 森病院 緩和ケア科）
- P2-15 オピオイド使用中患者に対するナルデメジン処方の実態調査
大塚 千奈（公立置賜総合病院）

- P2-16 回腸ストマによる多量水様便にブチルスコポラミン臭化物が有効であった1例
長尾 茂輝（横浜南共済病院緩和和支持療法科）
- P2-17 終末期卵巣癌患者の癌性腹膜炎による症候の後方視的検討
新保 暁子（豊田厚生病院 産婦人科）
- P2-18 膵癌における Gastric outlet obstruction に対する外科的介入の位置づけ
平野 勝久（富山大学学術研究部医学系消化器・腫瘍・総合外科）
- P2-19 当院における緩和的大腸ステント留置術の検討
桑原 蓮（長野中央病院消化器内科）
- P2-20 デンバーシャントを行う際のインフォームドコンセント用紙の作成とその運用について
橋本 芳正（医療法人社団 いちえ会 洲本伊月病院）
- P2-21 腹水貯留を伴う卵巣癌末期の血液透析患者に定期血液透析と腹水除去の併用が奏功した一例
服部 優宏（札幌北榆病院外科、札幌北榆病院緩和ケア科）
- P2-22 食道胃接合部がんの食道閉塞にステロイド大量療法が奏功した一例
三田 礼子（JCHO 神戸中央病院内科（緩和ケア））
- P2-23 放射線治療後の難治性下痢に対してコレステラミン投与が有効であった1例
高世 秀仁（東久留米なごみ内科診療所）
- P2-24 消化管穿孔による緊張性気腹症に対して腹腔ドレナージが症状緩和に有効であった終末期がん患者の一例
臺藏 綾霞（がん研究会有明病院 緩和治療科）
- P2-25 抗癌化学療法後に不完全腸閉塞が疑われた4型胃癌の一例
山端 裕貴（飯塚病院連携医療・緩和ケア科）
- P2-26 せん妄・悪心に対して院内製剤を使用し経直腸的にレボメプロマジンを投与した3例
鈴木 さゆり（筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）
- P2-27 高度悪性腹水による難治性嘔気、排尿障害に対し腹水の少量除去により効果的に改善した1例
福田 員茂（医療法人社団双寿 ちぐさ会クリニック）
- P2-28 腹腔内カテーテルによる腹水ドレナージをしたまま自宅退院となった2事例
仲野 絢子（伊那中央病院）
- P2-29 臍ヘルニアが出現し QOL を損ねることになった非代償性肝硬変、大量腹水貯留の1例
高橋 有我（二之沢病院）
- P2-30 がん終末期における消化管狭窄に対し、オクトレオチド酢酸塩を投与して食行動を支援した2症例
黒坂 夏美（上尾中央総合病院腫瘍内科）
- P2-31 がん看護リンクナースが主体となって取り組んだ排便管理についての活動報告—排便管理の定着化にむけて—
中辻 香邦子（公益財団法人 筑波メディカルセンター病院）

**食欲不振・輸液・栄養・悪液質症候群
(P2-32 ~ P2-35)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-32 がん悪液質により血管内皮グリコカリックス脱落が生じるか？ ~がん悪液質マウスモデルにおける検証~
熊倉 康友（山梨大学医学部附属病院医療チームセンター、山梨大学大学院 医学工学総合研究部 麻酔科学講座）
- P2-33 膵尾部がん患者に認めたナイアシン欠乏症：ペラグラの1例
村松 雅人（JA 愛知厚生連豊田厚生病院 緩和ケア内科）
- P2-34 アミノ酸サプリメントの摂取により血清アルブミン値が改善した婦人科終末期癌患者の2症例
五十嵐 冬華（王子総合病院 産婦人科）
- P2-35 がん患者の食の悩みに応えるための当院の活動
久保 佳子（長野市民病院 緩和ケア内科）

**倦怠感
(P2-36 ~ P2-37)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-36 がん関連倦怠感に対するアクティビティペーシング法の効果と行動変容技術分類：
システムチェックレビュー
清水 陽一（国立看護大学校 成人看護学）

P2-37 **がん患者の倦怠感に対するニューロフィードバック療法に関するナラティブレビュー**
三浦 智史 (国立がん研究センター東病院緩和医療科)

**しびれ感
(P2-38 ~ P2-40)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

P2-38 **がん患者の神経障害性疼痛の緩和にトラマドールが有用であった症例**
井野 佑佳 (日本医科大学付属病院 麻酔科)

P2-39 **化学療法誘発性末梢神経障害に牛車腎気丸が有用であった2症例**
佐藤 史弥 (兵庫医科大学 麻酔科学講座)

P2-40 **化学療法誘発性末梢神経障害 (Chemotherapy-Induced Peripheral Neuropathy: CIPN) に対する鍼灸治療の長期介入の効果**
内田 智子 (国立がん研究センター中央病院 緩和医療科)

**泌尿器症状
(P2-41 ~ P2-44)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

P2-41 **原発臓器の有無による尿路上皮癌終末期症状への影響**
山崎 浩司 (宮崎医療センター病院 緩和ケア内科)

P2-42 **ステンレスメッシュ入り尿管ステント (Tumor ステント[®]) 留置により腎後性腎不全を改善し得た腫瘍性尿管閉塞 (MUO) の2例**
山下 大輔 (横浜南共済病院 泌尿器科)

P2-43 **前立腺密封小線源療法後の尿道狭窄症を併発した放射線性膀胱炎に対し高気圧酸素治療を行った症例**
一日本語短縮版マギル痛み質問紙 (SF-MPQ) による評価—
宮 しまり (順天堂大学医学部緩和医療学研究室)

P2-44 **終末期がん患者の頻尿と不眠に対して猪苓湯が有効であった1症例**
山本 兼二 (独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 緩和ケア内科)

**リンパ浮腫・浮腫・皮膚症状
(P2-45 ~ P2-52)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

P2-45 **緩和ケア病棟の褥瘡保有低亜鉛血症患者への亜鉛製剤投与による血清亜鉛値の推移は血清アルブミン値、血清CRP値に相関する**
辻井 一貴 (愛和病院)

P2-46 **腎障害を伴う肝内胆管癌の難治性そう痒にガバペンチンが有効であった1例**
清水 啓二 (大阪鉄道病院 緩和ケア内科、大阪鉄道病院 サポートケアチーム)

P2-47 **乳がん皮下播種に伴う疼痛に対し、院内製剤10%リドカインゲル塗布が有効であった1症例**
熊倉 康友 (山梨大学医学部附属病院 医療チームセンター、山梨大学大学院 医学工学総合研究部 麻酔科学講座)

P2-48 **緩和ケア病棟入院中のがん患者の浮腫ケアの現状**
卯野木 理紗子 (横浜市立市民病院 看護部 外来)

P2-49 **塩酸モルヒネ注射剤変更で重度な掻痒感を生じ、フェンタニル注射剤へのスイッチング後に掻痒感が消失した1症例**
鶴田 和裕 (松戸市立総合医療センター 薬局)

P2-50 **免疫チェックポイント阻害薬治療中に発症した Stevens-Johnson 症候群の2例**
齋藤 平佐 (青森厚生病院緩和ケアチーム)

P2-51 **生体電気インピーダンス分析法からみた胸腹水濾過濃縮再静注法の治療効果**
臼井 正信 (藤田医科大学医学部 外科・緩和医療学講座)

P2-52 **下肢の浮腫みケア早期から対応していくためには**
上條 佳子 (社会医療法人財団慈泉会相澤病院)

**口腔の問題
(P2-53 ~ P2-54)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

P2-53 **デノスマブ投与により顎骨壊死を生じた乳癌骨転移の2例**
中村 久美子 (山口県立総合医療センター麻酔科)

P2-54 露出した下顎骨再建プレートに対する終末期ケアを経験した薬剤関連顎骨壊死の一例
加藤 由香 (特定医療法人雄博会千住病院看護部)

**脊髄圧迫・脳転移・痙攣
(P2-55 ~ P2-59)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-55 ナルデメジン投与開始後に多発脳転移が発覚したがオピオイド鎮痛効果減弱やナルデメジン中止によるオピオイド過量症状を認めなかった乳癌多発脳転移の一例
大久保 直紀 (横浜市立大学附属病院 臨床腫瘍科)
- P2-56 髄注化学療法および髄液ドレナージで病勢制御および症状緩和が得られた胃癌癌性髄膜炎の一例
大村 洋文 (九州大学大学院医学研究院 社会環境医学講座連携腫瘍学分野)
- P2-57 硬膜外転移による脊髄空洞症を合併し、放射線治療が奏効した進行胃癌の1例
山中 駿 (埼玉県立がんセンター 緩和ケア科)
- P2-58 食道癌の全身転移に対して症状緩和のため集学的加療を施行した1例
北田 隆起 (日本生命病院 消化器内科)
- P2-59 左肺癌術後膿胸に対する治療で気管切開・人工呼吸器管理にて当院転院後、転移性脳転移が判明し病院にて最期をむかえた1例
石川 慶大 (北海道社会事業協会小樽病院 (小樽協会病院) 緩和ケアチーム、
北海道社会事業協会小樽病院 (小樽協会病院) 外科・呼吸器外科)

**感染症
(P2-60 ~ P2-62)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-60 セフメタゾールナトリウム静注用の皮下投与により注射部位反応が生じた3例の報告
高橋 慧 (医療法人社団 杏順会 越川病院 薬剤部)
- P2-61 緩和ケア病棟における抗菌薬投与に関する検討
磯部 博隆 (高岡市民病院 緩和ケア科)
- P2-62 緩和ケア病棟において血液培養検査が感染症診療に与える影響の検討
早川 史広 (岡崎市民病院緩和ケア内科)

**貧血・出血・血栓症・血液学的問題
(P2-63 ~ P2-66)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-63 緩和医療における静脈血栓塞栓症治療の実際
山本 栄司 (京都市立病院緩和ケア科、京都市立病院 VTE 対策チーム)
- P2-64 頻回な輸血を必要とした難治性貧血にたいして、抗てんかん薬を中止した後に貧血の改善を認めた末期肺がんの1例
岩崎 誠 (国際親善総合病院 緩和ケア内科)
- P2-65 保存的治療の難しい出血に対して、低侵襲である放射線照射やIVR治療を行った8名の患者の検討
平井 慎理 (札幌南徳洲会病院緩和ケア内科)
- P2-66 腎細胞癌肺転移巣からの腫瘍出血に対して放射線緩和照射が有効と考えられた一例
越田 晶子 (京都府立医科大学附属病院 疼痛・緩和ケア科)

**オンコロジーエマージェンシー
(P2-67 ~ P2-68)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-67 陰嚢腫大で発症し急な経過をとった終末期盲腸癌の消化管穿孔の1例
森山 悠 (千葉県がんセンター 緩和医療科)
- P2-68 びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の腫瘍崩壊症候群にステロイドが著効した一例
竹内 瑞枝 (国立がん研究センター東病院 緩和医療科)

**薬物相互作用
(P2-69)**

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-69 メサドンの中止がアカシジアの出現に影響したことが示唆された一事例
藤原 美佐紀 (公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 緩和ケア科)

**がん治療における支持療法
(P2-70 ~ P2-77)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-70 頭皮冷却法導入4年後の評価：患者体験と医療者支援の実態に関する調査
中尾 寿衣（日本大学病院）
- P2-71 外来化学療法室におけるがん患者への栄養介入の充実をめざして
今野 麻衣子（秋田大学医学部附属病院がん看護担当）
- P2-72 放射線性粘膜炎に対して少量短期間のステロイド全身投与が有効であった2症例
白石 朝子（産業医科大学病院緩和ケアセンター）
- P2-73 難治性の放射線性直腸炎に対して、高気圧酸素治療や内視鏡治療、薬物治療など集学的治療で軽快した症例
石堂 瑛美（福島県立医科大学麻酔科学講座）
- P2-74 抗がん剤治療の地域連携：在宅緩和ケア医が行う、がん治療病院の抗がん剤治療サポート
渡辺 啓太郎（栄光病院 在宅医療センター）
- P2-75 二重特異性抗体エブコリタマブで治療を行った再発難治性悪性リンパ腫の患者に対して緩和医療の重要性を感じることができた1例
大野 晃希（柏厚生総合病院 リハビリテーション科）
- P2-76 積極的治療と在宅医療の早期からの二人三脚でがん治療を完遂できた難治性乳癌漏症例
今氏 晶梨（ホスピティウム聖十字会中島医院）
- P2-77 がん支持療法としての鍼灸治療の普及を目指したセミナー開催の報告
堀口 葉子（国立がん研究センター中央病院 緩和医療科）

**抗がん治療：化学内分泌療法
(P2-78 ~ P2-82)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-78 外来でアザシチジン療法を受けている急性骨髄性白血病高齢患者の困難およびケアニーズ
山本 桂子（大阪医科薬科大学 大学院看護学研究科 博士後期課程）
- P2-79 受診遅延に至った外来がん化学療法を受ける患者の心理的要因に関する調査
竹田 美和子（公立置賜総合病院看護部）
- P2-80 進行・再発膀胱癌における積極的治療終了後の緩和ケア介入と課題
中谷 直喜（熊谷総合病院 臨床腫瘍科）
- P2-81 BSC から一転、がんゲノムプロファイリング検査により薬物療法導入した原発不明癌骨転移の1例
岡脇 誠（川崎医科大学附属病院臨床腫瘍科）
- P2-82 多職種が介入して施行する訪問診療クリニックにおける訪問化学療法の実態調査報告
八木 一満（鶴田クリニック）

**抗がん治療：放射線治療
(P2-83 ~ P2-94)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-83 骨盤腫瘍における速やかかつ安全な症状緩和達成を目指す超短期緩和照射 QUAD shot の有効性の検討
植原 拓也（近畿大学医学部 放射線腫瘍学部門）
- P2-84 口腔内腫瘍に対して、啞え型スパーサーを自作し定位照射を行った1症例
川上 浩幸（聖隷佐倉市民病院 放射線治療科）
- P2-85 大腿への放射線治療後、遅発性に大腿動脈閉塞と坐骨神経障害を来した1例
西江 宏行（川崎医科大学附属病院 臨床腫瘍科）
- P2-86 明細胞肉腫に対する緩和的体幹部定位放射線治療
水松 真一郎（成田記念病院放射線治療科）
- P2-87 National Database (NDB) を用いた COVID-19 パンデミック時期の単回緩和放射線治療の傾向と変化
小出 雄太郎（愛知県がんセンター放射線治療部）
- P2-88 婦人科腫瘍に対する小線源治療時の鎮痛・鎮静についての解析
水上 達治（富山大学医学部放射線診断・治療学、放射線腫瘍学部門）
- P2-89 当院呼吸器内科での緩和目的放射線療法の実状
志津 匡人（岐阜県立多治見病院呼吸器内科）

- P2-90 頭頸部がん患者が多職種による支援を受け外来放射線治療を完遂した事例
越本 世津（紀南病院 緩和ケアチーム、放射線治療室）
- P2-91 腫瘍性腸腰筋機能不全をきたした2例
石川 陽二郎（東北医科薬科大学放射線医学）
- P2-92 メルケル細胞癌に対して、根治照射から緩和照射まで行った一例
下田 絵美子（市立東大阪医療センター 放射線科・緩和ケア内科）
- P2-93 緩和面談時における緩和的放射線治療の潜在的適応患者の検討
和田 健太郎（多根総合病院 緩和医療科）
- P2-94 無症候性骨転移患者を対象とした早期緩和的放射線治療のQoL改善効果：前向き観察研究
小出 雄太郎（愛知県がんセンター放射線治療部）

**外科治療
(P2-95 ~ P2-98)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-95 進行大腸癌に対する緩和的ストーマ造設症例の治療経過と意義の検討
大澤 日出樹（八尾市立病院消化器外科、八尾市立病院緩和ケアセンター）
- P2-96 腹膜播種病変による腸閉塞に対する緩和手術
豊見山 健（沖縄赤十字病院外科、緩和ケア科）
- P2-97 症状緩和手術としての腸瘻造設手術症例の臨床検討
西岡 歩美（奈良県総合医療センター 緩和ケア内科、奈良県総合医療センター 消化器・肝胆膵外科）
- P2-98 超高齢大腸癌患者における重篤な術後合併症のリスクおよび Failure to rescue についての検討
中村 友哉（JCHO 大和郡山病院 外科）

**その他の痛み以外の身体症状・治療
(P2-99 ~ P2-115)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P2-99 当院緩和ケア病棟においてオピオイド誘発性便秘薬：ナルデメジントシル酸塩を使用した検討
鈴木 晶子（医療法人聖仁会 森病院 緩和ケア科）
- P2-100 多職種カンファレンスで経鼻胃管の妥当性を評価した1症例
山口 法隆（新横浜リハビリテーション病院）
- P2-101 更年期症状のホットフラッシュ、発汗に漢方薬が有効であった一例
大岸 美和子（慶應義塾大学医学部緩和ケアセンター）
- P2-102 緩和ケア科入院のきっかけとなる体調不良の原因が、遅発性免疫有害事象（遅発性 irAE）であったと考えられる一事例
小貫 沙央里（公益社団法人 北海道勤労者医療協会 勤医協中央病院 初期研修医）
- P2-103 放射線治療の約40年後に腕神経叢麻痺を発症した乳癌患者の一例
千葉 恵子（亀田医療大学看護学部看護学科成人看護学領域、亀田メディカルセンター リンパ浮腫センター）
- P2-104 多発する頭頸部皮膚転移の自壊創に対し、Mohs 軟膏処置を繰り返すことにより QOL の改善が得られた1例 - Mohs 軟膏塗布方法の工夫
竹本 好成（社会医療法人松本快生会 西奈良中央病院 緩和ケア科）
- P2-105 腫瘍随伴低血糖症を伴った終末期腹膜がん患者の一例
鶴賀 哲史（都立駒込病院 緩和ケア科）
- P2-106 アルゴリズムを用いた終末期がん患者における血糖コントロールについて ~患者負担とリスクの軽減を目的とした当院緩和ケア病棟における工夫~
金石 圭祐（JCHO 東京新宿メディカルセンター 緩和ケア内科）
- P2-107 舌癌終末期における左頸部皮膚瘻孔からの浸出液管理としてパウチングが有効であった一例
岩田 江里（一宮市立市民病院 緩和ケア科）
- P2-108 抗がん治療中の諸症状に漢方薬が有用であった2症例
伊藤 磨矢（弘前大学医学部附属病院 麻酔科集中治療科）
- P2-109 がん患者の異食行動にバルプロ酸が有効であった1例
橋田 真由美（千葉大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、千葉大学医学部附属病院 麻酔・疼痛・緩和医療科）
- P2-110 放射線治療抵抗性の多発脳転移に Bevacizumab を使用し在宅療養へ移行し得た再発大腸癌の1例
森本 雅美（公立学校共済組合四国中央病院）

- P2-111 **食道気管瘻を起こした肺がんの2事例**
川畑 恵（勤医協中央病院緩和ケア科、勤医協中央病院緩和ケアチーム）
- P2-112 **緩和ケア病棟での理学療法士の役割と有用性**
天野 毅（みなみ野病院 リハビリテーション科）
- P2-113 **終末期患者における死亡直前の筋肉量と臨床背景の検討**
鈴木 健介（医療法人 愛和会 愛和病院）
- P2-114 **腹膜播種による腹部膨満感に対して集学的な介入を行ったがん性腹膜炎の2症例**
倉吉 和夫（鳥取大学医学部附属病院がんセンター 緩和ケア科、鳥取大学医学部附属病院がんセンター 緩和ケアチーム）
- P2-115 **当院における低血糖発作に関する検討**
渡部 秀樹（鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院、鈴鹿医療科学大学看護学部看護学科）

**抑うつ・不安
(P3-1 ~ P3-3)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-1 **子どもを持つがん患者における、さらなる支援ニーズと気がかり、不安・抑うつに関連**
渡邊 郁香（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）
- P3-2 **短期間のマインドフルネス瞑想により抑うつ症状の改善を認めた高齢の急性リンパ性白血病患者1症例**
庄山 創（日本赤十字社長崎原爆病院）
- P3-3 **緩和ケア病棟入院中に自殺企図を認めた一例**
大北 淳也（小牧市民病院緩和ケア科）

**せん妄・不眠
(P3-4 ~ P3-16)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-4 **緩和医療科入院患者における入院時のせん妄の有無と関連因子—横断研究**
木ノ内 万里子（昭和大学横浜市北部病院緩和ケアセンター、けいゆう病院麻酔科）
- P3-5 **術前栄養評価とがん術後せん妄発症リスク**
渡部 乙女（国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部（育児休業中））
- P3-6 **ブロンセリンテープ中止により覚醒レベルが改善し QOL 改善された1症例**
久保田 敬乃（川崎市立井田病院緩和ケア内科）
- P3-7 **せん妄に失語を伴ったため脳転移を疑い頭部 CT で診断に至った一例**
三木 和美（横浜市立大学附属病院緩和医療科、横浜市立大学精神医学教室）
- P3-8 **認知症の進行と疑われた徘徊症状がビタミン B1 欠乏症によるものと判明した進行胃癌患者の一例**
伊東 洋（医療法人 広至会 伊東内科小児科医院、埼玉医科大学精神腫瘍科、池友会福岡和白病院）
- P3-9 **ベンゾジアゼピン系薬剤とアルコールの乱用を認めたがん周術期の患者に対し、抑肝散とレンボレキサントの併用にて、離脱せん妄と術後せん妄を予防できた一症例**
山口 順嗣（国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科）
- P3-10 **せん妄患者の主観的世界の理解が不安緩和に繋がった一例—心理介入の一場面から**
林 みなみ（パナソニック健康保険組合 松下記念病院 診療技術部）
- P3-11 **がん告知後の抑うつ状態・食思不振・アルコール使用障害を背景に、せん妄の鑑別に苦慮した一例**
松原 奈穂（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科、国立がん研究センター中央病院緩和医療科、順天堂大学大学院呼吸器内科学講座）
- P3-12 **TDDS を用いて終末期せん妄症状の評価を実施した1例
～終末期せん妄を発症し、家族の希望に基づいた抗精神病薬の投与量コントロールを行った事例～**
中澤 慧州（千葉県立佐原病院）
- P3-13 **せん妄加療中に著しい抗精神病薬過敏性を認めレビー小体型認知症と診断した一例**
西川 英里（国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科）
- P3-14 **ハロペリドール注射剤と比較した、進行がん患者の終末期のせん妄に対するブロンセリン貼付剤の使用量：
単施設後ろ向き観察研究**
小田切 拓也（西濃厚生病院緩和ケアセンター）
- P3-15 **せん妄患者に対するヒドロキシジン投与の効果について**
田嶋 友歌（社会福祉法人 仁生社 江戸川病院 看護部）

P3-16 **がん専門病院におけるせん妄予防のための非薬物療法に関する看護師の知識・認識、実施状況についての実態調査**
佐々木 千幸 (国立がん研究センター中央病院 看護部)

**精神・心理的ケア
(P3-17 ~ P3-28)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-17 **院内で自殺企図があった後に心理士につながったがん患者 3 事例を振り返って**
芥川 亘 (独立行政法人 国立病院機構 岩国医療センター)
- P3-18 **前頭葉の脳腫瘍に伴う人格変化に対し公認心理師の介入が有効であった 2 例**
赤松 直子 (市立函館病院 臨床心理科、市立函館病院 精神神経科、市立函館病院 緩和ケアチーム)
- P3-19 **患者が自分らしさや大切な価値を見出し、自分らしい生へと繋がった心理支援
~患者のナラティブから展開する心理士の関わり~**
城間 優 (沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 リエゾンセンター)
- P3-20 **乳がん患者の感情表出に対して外来看護師が出来ること**
中川 吉恵 (社会医療法人 高井会 高井病院)
- P3-21 **AYA 世代の卵巣がん患者に対する触れるケアと多職種協働での寄り添いから得られたもの**
利田 みゆき (地方独立行政法人 公立甲賀病院)
- P3-22 **ライフレビュー AI アプリによる進行がん患者への精神的心理的支援の可能性**
安藤 満代 (西九州大学子ども学部心理カウンセリング学科)
- P3-23 **死を意識したがん患者の精神的ケアを考える~森田療法による本人らしい生き方の回復~**
出利葉 健太 (砂川市立病院 精神科、砂川市立病院 緩和ケアチーム)
- P3-24 **終末期若年成人がん患者のスピリチュアルペインに対する看護**
松本 幸絵 (地方独立行政法人 栃木県立がんセンター)
- P3-25 **がん患者に対する当院の自殺予防対策への取り組み**
景山 里香 (一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院)
- P3-26 **“Bad News” 後に不安を表出するがん患者への支援 ~聴くこと、ケアリング、寄り添う人~**
大和 英子 (徳島市民病院 看護部)
- P3-27 **精神科受診を拒否する在宅療養中のがん患者への専門看護師の関わり**
杉野 早也佳 (松阪市民病院訪問看護ステーション)
- P3-28 **心筋転移により致死性不整脈を繰り返し、終末期の定義や蘇生中止の時期に関して患者・家族・医療者間で葛藤が生じ、治療関係が破綻しかけた一例~危機的状況の心理支援~**
松元 和子 (国立がん研究センター中央病院 精神腫瘍科)

**ボディイメージ・セクシュアリティ
(P3-29 ~ P3-30)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-29 **全盲がん患者の陰茎切除によるアイデンティティ喪失と回復**
山崎 恵 (公立豊岡病院組合立豊岡病院 看護部)
- P3-30 **がん相談支援センターにおけるアピアランスケア充実への取り組み**
友部 久美子 (株式会社日立製作所ひたちなか総合病院 患者総合支援センタ)

**スピリチュアルケア・宗教的ケア
(P3-31 ~ P3-34)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-31 **緩和ケア病棟での GOOD DEATH とスピリチュアルケア**
高田 香絵 (第二協立病院 看護部)
- P3-32 **臨床宗教師が医療現場にいることの効果の研究：米沢市立病院での事例報告**
田中 善啓 (地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター)
- P3-33 **末期肺がん患者のスピリチュアルペインに起因する自殺企図の一例：緩和ケアスクリーニング運用の課題と改善策**
濱本 将太郎 (東京慈恵会医科大学 医学部医学科)
- P3-34 **過去・未来・事実・思いの 4 分割による対話の進め方によるスピリチュアルケアの可能性**
小澤 竹俊 (エンドオブライフ・ケア協会)

家族のケア・子どものケア
(P3-35 ~ P3-51)

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P3-35 乳がん患者の夫の体験：子どもへの病状説明に焦点をあてたナラティブ分析
林 麻衣（京都大学医学部附属病院 看護部）
- P3-36 がんになった親の子どもに対するサポートプログラム CLIMB® の開催報告 ～「北海道 CLIMB」発足を通して～
山崎 美恵（医療法人徳洲会 緩和ケア訪問看護ステーション札幌）
- P3-37 CLIMB® 親プログラム開催報告～北海道 CLIMB としての取り組み
今野 なぎさ（JA 北海道厚生連 旭川厚生病院 緩和ケアセンター）
- P3-38 脳腫瘍の患児を拒絶していた姉に対し、きょうだい支援にて関係修復に成功した症例
金澤 剛二（日本大学医学部附属板橋病院 小児科）
- P3-39 脳卒中を契機に発見された意識レベルの低下した肺癌患者とその家族へのケア
庄野 孝仁（京都市立病院緩和ケア科）
- P3-40 当院の「看取りのパンフレットの説明」における実態調査とスキルアップを目指した取り組みについて
長谷部 真琴（社会医療法人シマダ 嶋田病院 緩和ケア病棟）
- P3-41 限りある命の中で、母子関係を築きたいと願うがん患者のスピリチュアルペインと看護の振り返り
～母子を取り巻く家族へのアプローチの振り返り～
棚原 陽子（琉球大学病院 緩和ケアセンター、琉球大学病院 看護部）
- P3-42 パーソナリティ障害の末期がん患者である母親との死別を迎える幼児を多職種で支えた一例
鈴木 史子（京都民医連中央病院 緩和ケア内科）
- P3-43 生命を脅かされた子どもとその家族を支える -NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクトの挑戦 -
藤田 紋佳（NPO 法人福岡子どもホスピスプロジェクト、名古屋大学大学院 医学系研究科 総合保健学専攻）
- P3-44 当院におけるグリーフカードによる遺族ケアの現状と課題
瀬戸 真由里（東京都立小児総合医療センター 看護部（緩和ケア認定看護師））
- P3-45 子育て中のがん患者の懸念と関連要因：後方視的観察研究
赤川 祐子（秋田大学大学院医学系研究科 看護学講座）
- P3-46 がん患者の親をもつ子どもへのサポートチーム（SKiP KEIO）10年間の活動
～一大学病院での継続的な支援活動の振り返り～
久住 真有美（慶應義塾大学病院 医療連携推進部）
- P3-47 がん患者である妻と死別した夫が抱くがんの診断から看取りまでの心情
木村 恵美子（札幌医科大学保健医療学部看護学科）
- P3-48 終末期骨髄異形成症候群患者を在宅で看取った家族への看護
富澤 和子（合同会社 being 訪問看護ステーション クローバー）
- P3-49 衰弱する母親としての姿を見せたくない思いから一転、未就学児のデス・エデュケーションを自らの言葉で行い、
旅立たれた 30 代終末期がん患者への在宅緩和ケア協働支援の一例
田實 武弥（特定医療法人 新生病院 診療部、医療法人 心の郷 穂波の郷クリニック）
- P3-50 フレイル下で透析中止を希望する高齢がん患者と相反する家族の意思決定支援に対する看護師のアドボカシー
山田 悦子（川崎医科大学附属病院看護部）
- P3-51 ホスピタル・ファシリティドッグによる小児歯科診療サポート ～長期入院加療中の患者を対象とした活動報告～
権守 礼美（国立成育医療研究センター、認定 NPO 法人シャイン・オン・キッズ）

遺族のケア
(P3-52 ~ P3-60)

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P3-52 コミュニティでグリーフケアを実施することの意義：
がんの影響を受けている人のための居場所「マギーズ東京」における遺族の利用状況
小園 香奈子（認定 NPO 法人マギーズ東京）
- P3-53 がん患者の家族に対する支援体制の構築 ～家族外来開設に向けた取り組み～
島内 美紀（独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター 看護部）
- P3-54 こどもを亡くした遺族に対しグリーフ & ビリーブメントケアの介入が可能であった 4 例
郷古 康愛（日本大学医学部附属板橋病院 小児科）

- P3-55 グリーフケアを行う支援者同士のネットワーク構築を目指すグリーフを学ぶ会の活動報告
～参加者アンケート分析から見た参加者の学習ニーズと支援者の支援～
横山 聖美（天使大学看護栄養学部看護学科）
- P3-56 グリーフケア外来にできること ～遺族と生老病死を慈しむ～
川出 英行（JA 愛知厚生連海南病院精神科臨床心理係）
- P3-57 緩和ケア病棟から自宅退院した患者の最終的な看取り場所と看取り方針の一致
佐藤 桃香（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻緩和ケア看護学分野）
- P3-58 神奈川県立こども医療センターにおける遺族会の取り組み
山口 かおり（地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター）
- P3-59 遺族アンケート結果から見た当院緩和ケア病棟で提供されている家族ケアへの評価と今後の課題
佐々木 悠紀子（地方独立行政法人 市立秋田総合病院）
- P3-60 COVID - 19 感染後 4 年ぶりに開催した遺族会「みもどの会」の活動報告
中川 みどり（公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院）

**相談支援・がんカウンセリング
(P3-61 ～ P3-64)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-61 初発悪性リンパ腫患者が症状を自覚後受療過程でとらえる病気の認知・認識体験
牧野 佐知子（国立病院機構豊橋医療センター看護部）
- P3-62 地域における緩和ケアの普及 ～がん相談支援 tomoni なごやの活動～
森 あゆみ（NPO 法人 tomoni なごや）
- P3-63 障害のある患者さんの来院時の対応 ～障害のある患者の来院時に医療者が感じる戸惑い・困りごとと、研修の効果～
八巻 知香子（国立がん研究センター がん対策研究所 がん情報提供部）
- P3-64 「がんサポート外来」の意義と有用性の検討
小林 律子（さいたま市民医療センター看護部）

**ピアサポート・患者会・家族会
(P3-65 ～ P3-66)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-65 がんピア・サポーター養成講座の宮崎での取り組みと今後の展望
土日 ルリ子（社会医療法人同心会 古賀総合病院）
- P3-66 がん相談支援における院内ピアサポートの活用に関する論点：現状調査からの質的分析
大野 裕美（四国大学看護学部看護学科）

**社会的・経済的問題・就労の問題
(P3-67 ～ P3-70)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-67 罹患時期が「社会に出る前」であることによる小児・A 世代がん患者・経験者の就労の課題とその支援
服部 文（一般社団法人 仕事と治療の両立支援ネット-ブリッジ）
- P3-68 異なる医療環境を背景に持つ患者への緩和ケアの課題：在留外国人の症例を通して
櫻井 秀嵩（獨協医科大学 医学部 麻酔科学講座）
- P3-69 治療期における成人期がん患者が抱える社会的苦痛の現状と必要な支援
倉本 麻美（国立病院機構小倉医療センター 看護部）
- P3-70 解決困難なソーシャルペインによるハラスメントをスピリチュアルケアによって緩和した事例から在宅ハラスメント対策を考察
中島 マリア美知子（医療法人社団ホスピティウム聖十字会中島医院）

**その他の精神・心理・社会的ケア・スピリチュアルケア
(P3-71 ～ P3-83)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P3-71 薬物使用を強く拒否した患者における患者中心の緩和ケアの実施
藤井 誠（京都府立医科大学附属病院 疼痛・緩和ケア科）
- P3-72 がん治療を断念した終末期がん患者の死を見据えた Transition を支援する看護内容の検討 第2報
藤原 由佳（医療法人社団清水メディカルクリニック）

- P3-73 **がん薬物療法を継続している再発がん患者がその人らしく生きることを支えるスペシャリストナースの実践**
常名 絵里菜 (医療社団法人杏順会 越川病院 看護部)
- P3-74 **AYA 世代患者の ” 自分らしさ ” を支える～成人式への出席にむけた支援を通じて～**
伊藤 結貴 (秋田大学医学部附属病院 看護部)
- P3-75 **溶骨性難治性がん疼痛に行った脊髄くも膜下フェノールブロック
～「看護師」のプライドを持ち続け、生き抜くことを支えたケア～**
佐藤 美紀 (下北医療センター むつ総合病院 緩和ケアチーム)
- P3-76 **COVID-19 禍中のがん患者の孤独感とレジリエンス：メンタルヘルスの変化に基づく検討**
川村 舞 (札幌医科大学イン・ニトリ緩和医療学・支持療法学講座)
- P3-77 **緩和ケアにおける薬剤依存の予防を目指した関わり方**
齋藤 淳一 (東邦大学医学部精神神経医学講座、東邦大学医療センター大森病院緩和ケアセンター)
- P3-78 **がん患者・家族の家族内葛藤を捉えるがん看護専門看護師の視点：質的研究**
丸山 晃己 (京都大学 医学部 人間健康科学科、京都大学医学部附属病院 看護部)
- P3-79 **大好きなテーマパークへの外出を通してスピリチュアルケアを行った一例**
杉浦 美恵子 (タムス浦安病院 緩和ケア内科)
- P3-80 **自殺を企図した癌患者の緩和ケア病棟における身体的・精神的ケアについて**
永田 真知子 (医療法人社団 医仁会 ふくやま病院 緩和ケア外科)
- P3-81 **一般病棟で人工呼吸器装着中に危険行動を繰り返す患者の意思を尊重した看護により危険行動が減少した一例
—患者の行動背景にある思いをくみ取ったケアの実践—**
伊禮 寿記 (国立がん研究センター東病院 看護部)
- P3-82 **緩和ケアにおける尊厳の役割。患者の尊厳と尊厳ケアに関する医療専門家の視点**
Anagnostou Despoina (Kyoto University, Graduate School of Medicine,
Department of Human Health Science)
- P3-83 **がん緩和ケア支援 AI アプリ『PalliEase (パリース)』を用いた精神症状の病態に関する検討**
嶋田 和貴 (京都大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻)

**在宅緩和ケア
(P4-1 ～ P4-46)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-1 **看取り期の訪問看護師のかかわりを考える 看取りの場が「施設」から「自宅」に変わった事例の振り返り**
大波 由香子 (医療法人社団悠翠会ゆうすい会訪問看護ステーション)
- P4-2 **終末期にある在宅療養者とその家族への食支援に関する質的記述的研究
—訪問看護師と管理栄養士の協働による食支援を受けた3事例遺族へのインタビュー調査から—**
照屋 典子 (琉球大学医学部保健学科)
- P4-3 **QOLの改善、在宅療養への方向性のもと皮下埋込式アクセスポートをがん性胸水貯留内に挿入した1事例**
生田 肇 (市立加西病院)
- P4-4 **在宅緩和ケアにおける末梢静脈確保困難症例に対する末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC) 留置の有用性の検討**
中山 智英 (八軒内科ファミリークリニック)
- P4-5 **本「人のさいご」を用いて死にゆく過程を伝える**
林 瞳 (桜新町アーバンクリニック)
- P4-6 **専門的緩和ケアと基本的緩和ケアを実践する民間の多職種協働による地域緩和ケアのひとつの形**
渡辺 邦彦 (在宅ほすびす)
- P4-7 **在宅緩和での CADD ポンプ使用によるオピオイド持続投与の実際と今後の課題**
工藤 尚子 (祐ホームクリニック豊島)
- P4-8 **在宅における終末期がん患者へのリハビリテーションの効果
～独居頭頸部がん患者の全人的苦痛の緩和が図ることができた一症例を振り返って～**
荷見 菜々 (さつき訪問リハビリステーション)
- P4-9 **在宅緩和ケアを受ける患者へ IPOS を使用した効果に対する考察**
和賀 初美 (医療法人葵会 もりおか往診ホームケアクリニック)
- P4-10 **地域医療の限界を超えて最期まで支えたがん患者の在宅療養**
加藤 彩織 (社会医療法人石川記念会 HITO 病院)

- P4-11 終末期癌患者に対する「看護小規模多機能型居宅介護」の有用性
岩田 勝利（看護小規模多機能型居宅介護らぶーら）
- P4-12 オピオイド持続皮下注、フェンタニル貼付剤を拒否する嚥下困難患者に対して、オキシコドン徐放カプセルの脱カプセルが癌性疼痛に有効だった 1 例
新井 成牧（株式会社ツル薬局）
- P4-13 在宅医療におけるメサドン開始事例の検討
鄭 陽（ききょう会 巣鴨ホームクリニック）
- P4-14 在宅医療を継続しながら緩和照射を行い良好な疼痛コントロールを得た腎癌多発骨転移の 1 例
高橋 秀行（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）
- P4-15 在宅療養中の疼痛をもつ進行がん患者・家族および介入した訪問看護師による遠隔看護介入効果
吉田 詩織（東北大学大学院 医学系研究科 がん看護学分野）
- P4-16 緩和ケア医と血液内科医の協働による終末期血液疾患患者の在宅看取り：輸血中止の意思決定支援を通して
栗林 泰子（社会医療法人河北医療財団あいクリニック）
- P4-17 在宅療養中に植込型除細動器（ICD）停止をおこなった終末期肝門部胆管癌患者の 1 例
高橋 駿太（東京ほくと医療生活協同組合 王子生協病院 緩和ケア科）
- P4-18 終末期患者における在宅でのアセナピンの使用経験
鈴木 優太郎（悠翔会在宅クリニック稲毛、悠翔会在宅クリニックみもみ）
- P4-19 小児脳幹部神経腫の在宅看取り—姉弟同時期発症の稀な事例を通して—
芳賀 紀裕（あい太田クリニック）
- P4-20 在宅がん患者の Quality of Death and Dying に関連する因子：死亡個票データと全国遺族調査を用いた解析から
濱野 淳（筑波大学 医学医療系 緩和医療学）
- P4-21 緩和ケア病棟と在宅緩和ケアの間の円滑な移行のために
原口 勝（公立八女総合病院企業団 みどりの杜病院 在宅医療推進室）
- P4-22 多職種連携による支援を行えず在宅緩和医療体制の構築に難渋した終末期がん患者の 1 例
矢野 靖江（医療法人あい友会 あい駒形クリニック）
- P4-23 終末期の療養を念頭に置いたがん治療期からの「訪看ファースト」の取り組みについて
畑中 恵子（医療法人協和会 在宅支援センター協和訪問看護ステーション）
- P4-24 在宅緩和ケアにおけるクーデックエイミー PCA の有用性に関する検討
岡元 俊雄（有限会社岡元薬局）
- P4-25 子供と過ごすために自宅にいることを希望した母親を多職種で支援し最期まで自宅療養を叶えられた一例
外池 祐子（新潟厚生連長岡中央総合病院 腫瘍内科）
- P4-26 小児神経芽腫患者に対する在宅緩和ケアにおいて、初めて小児を担当する在宅側と大学病院とで機能的なチームアプローチを行った一例—大学病院チームからの振り返り—
空中 登美（岡山大学病院）
- P4-27 小児難治性神経芽腫患者に対する在宅緩和ケアにおいて、初めて小児を担当する在宅側と大学病院とで機能的なチームアプローチを行った一例—在宅チームからの振り返り—
光田 栄子（かとう内科並木通り診療所）
- P4-28 在宅緩和ケアや終末期看護における POCUS の有用性 ～訪問看護師による 3 症例の実践報告～
吉田 翔（緩和ケア訪問看護ステーションむらお）
- P4-29 高齢心不全患者の在宅緩和ケアにおける社会資源活用と課題
田口 寛子（福岡ハートネット病院）
- P4-30 保存的腎臓療法（CKM）を行った在宅腎不全患者の一例
晴山 到（ふくしま在宅緩和ケアクリニック）
- P4-31 在宅セッティングでの腎不全末期および透析中止後における看取りの検討
奥山 慎一郎（医療法人社団 訪問診療クリニックやまがた）
- P4-32 緩和ケア病棟における ICT 情報共有ツール利用による在宅緩和ケア症例の遺族アンケート
若林 佳永（厚生連高岡病院 緩和ケアセンター）
- P4-33 ホスピスを希望される在宅診療中の終末期がん患者の最終的な看取り場所の検討
米山 哲司（愛知国際病院緩和ケア科）

- P4-34 **在宅医療における緩和ケアチーム（PCT）活動について**
田中 千恵（医療法人平和会平和会クリニック診療部）
- P4-35 **AI を活用した医師業務効率化の効果について**
梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院麻酔科学教室）
- P4-36 **看護の力で拓く、在宅緩和ケアの未来～医療連携室発足による新たな支援のかたち～**
片山 玲香（村尾在宅クリニック）
- P4-37 **緊急往診車の活動報告 - 在宅緩和ケアの充足を目指して -**
前角 衣美（よだか診療所）
- P4-38 **気持ちが揺れ続けた患者の「生きる意味」を支援に繋げることができた一例**
石田 由紀子（株式会社 FiveTrees 陽だまり訪問看護ステーション）
- P4-39 **管理栄養士とともにがん終末期患者の在宅療養を支えた 2 症例の報告**
遠藤 光史（メディケアクリニック石神井公園、東京医科大学病院緩和医療部）
- P4-40 **終末期の間質性肺炎患者に対する訪問リハビリテーションにより行動変容に繋がった症例**
手塚 千尋（青森厚生病院リハビリテーション科）
- P4-41 **利用者と家族に寄り添う終末期リハビリテーション～ QOL 向上に着目した一事例～**
橋口 弘幸（ヘルスケアリンク株式会社 香住ヶ丘リハビリ訪問看護ステーション）
- P4-42 **在宅医療・看護・福祉で連携し実践する丁寧なケアへの取り組み**
小山 裕（訪問看護ステーション ポラーノの椅子）
- P4-43 **独居のがん患者が ADL 低下しながらも看多機を利用し在宅生活を継続出来た一例**
岡部 実樹（ヘルスケアリンク株式会社 香住ヶ丘リハビリ訪問看護ステーション）
- P4-44 **左室補助人工心臓を装着した肺がん患者の在宅看取りのために在宅医療と大学病院が連携して緩和ケアを行った一例**
鬼澤 信之（医療法人あんず会 杏クリニック）
- P4-45 **在宅医療で薬剤師主導デスカンファレンスを実施した肺がん患者の一例**
渡部 孝太郎（いかるぎ薬局）
- P4-46 **がん患者への患者報告型アウトカム導入による適切な症状評価を目指して
－在宅領域における IPOS の活用を考える－**
伊丹 知子（特定医療法人 自由会 こうなんクリニック）

**退院支援・退院調整
(P4-47～P4-60)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-47 **退院支援カンファレンスシートを活用した緩和ケア患者退院支援の一事例**
栗林 晴美（安佐医師会病院 緩和ケア病棟）
- P4-48 **在宅緩和ケアに移行する患者への支援～スタッフが感じている困難感の実態調査と課題の検討～**
石岡 真（社会医療法人 貞仁会 新札幌ひばりが丘病院）
- P4-49 **ストレングスモデルを意識した退院支援の一例**
遠藤 洋輔（公立高島病院 医療連携相談室）
- P4-50 **コロナ禍におけるがん患者の療養場所の変化～コロナ禍の病院移転を経験してみえてきた課題と今後の取り組み～**
山北 伊知子（広島市立北部医療センター安佐市民病院 がんゲノム診療科兼腫瘍内科・通院治療センター次長）
- P4-51 **切除不能膵癌患者の終末期療養場所の推移**
寺島 健志（金沢大学附属病院消化器内科）
- P4-52 **強心剤持続投与にて在宅退院を実現した慢性心不全患者の退院調整**
竹内 忠熙（福井大学医学部附属病院 循環器センター）
- P4-53 **多職種連携にて診療した統合失調症併存乳がん患者の 2 例**
泉 愛（兵庫県立尼崎総合医療センター）
- P4-54 **終末期がん患者に対する一般病棟看護師の退院支援の実態に関する文献検討**
川島 久奈生（安曇野赤十字病院 看護部）
- P4-55 **一般病棟におけるレスキュー薬自己管理指導の一例 ー多職種連携による在宅療養の実現ー**
小林 浩太（白岡中央総合病院 薬剤部）

- P4-56 **緩和ケア病棟における長期入院患者のリスク要因分析：単施設後方視的研究**
上林 孝豊（京都民医連あすかい病院 往診センター、京都院医連あすかい病院 緩和ケア科）
- P4-57 **患者が住み慣れた地域で自分らしく過ごせるための医療体制を目指して
～訪問看護師と連携ができる看護師の育成～**
奥田 裕紀子（社会医療法人 岡本病院（財団）伏見岡本病院 看護部）
- P4-58 **難治性がん疼痛に対する皮下埋め込み硬膜外ポート造設した患者の在宅看取りに向けた退院支援からみえてきた
今後の課題**
渡辺 綾乃（社会医療法人 敬愛会 中頭病院 消化器センター）
- P4-59 **コロナ禍において終末期患者が在宅療養を選択した要因**
保井 理恵（地方独立行政法人公立甲賀病院緩和ケア病棟）
- P4-60 **病棟の枠組みを超えた連携を図り、在宅復帰支援に携わった症例**
後藤 忠幸（三友堂病院 リハビリテーション部）

**緩和ケアにおける地域連携
(P4-61～P4-88)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-61 **A 大学病院と連携し、新規 B 病院で緩和医療を実施できた 2 症例**
保利 陽子（日本医科大学付属病院 麻酔科）
- P4-62 **地域包括ケアを担う看護師の人材育成**
田中 香織（一般財団法人潤和リハビリテーション振興財団潤和会記念病院）
- P4-63 **「家族と自宅で過ごしたい」と望んだ終末期がん患者への退院支援と地域連携**
梅津 智美（独立行政法人 国立病院機構 敦賀医療センター）
- P4-64 **当院緩和ケア病棟からの施設退院症例から見た地域連携の課題**
小竹 理奈（筑波メディカルセンター病院緩和医療科）
- P4-65 **当院における地域連携と看取りの状況について**
野口 哲（北坂戸ファミリークリニック）
- P4-66 **訪問診療所と大学病院の連携により難治性疼痛の緩和が得られたがん終末期の一例**
山方 俊弘（東北医科薬科大学病院がん治療支援（緩和）科、医療法人桜蘭会 M & T 総合クリニック福室、東北医科薬科大学医学部老年・地域医療学教室）
- P4-67 **放射線治療装置のない施設との緩和照射推進活動～放射線治療科と緩和ケアチームでの取り組み～**
児玉 秀治（三重県立総合医療センター 緩和ケアチーム）
- P4-68 **治療および療養の場の意思決定支援に難渋した、高齢独居の多発骨転移を伴う去勢抵抗性前立腺癌の 1 例**
大原 寛之（日本赤十字社長崎原爆病院 緩和ケア内科）
- P4-69 **緩和ケア病棟から在宅療養移行となった声門上癌再発の 1 例－ICT 情報共有ツール利用による有機的連携－**
藤岡 真治（厚生連高岡病院 緩和ケアセンター）
- P4-70 **肺癌患者の看取りにおける療養先決定の要因に関する考察**
太田 志摩（鈴鹿医療科学大学附属 桜の森病院、鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科）
- P4-71 **強心薬とモルヒネ持続投与中の末期心不全患者で、PCA ポンプ 2 台を使用して自宅退院でき、長期療養が可能となっている一事例**
児玉 麻衣子（福井大学医学部附属病院がん診療推進センター、オレンジホームケアクリニック）
- P4-72 **「訪看ファースト」症例における在宅介護サービスの利用について**
三上 道恵（医）協和会 千里中央ケアプランセンター）
- P4-73 **患者・家族の価値観をつなぐ～重層的支援会議のとりくみ～**
福岡 泰弘（公益財団法人筑波メディカルセンター）
- P4-74 **がん拠点病院における転院に関する話し合いの実態：全国多施設調査 中間報告**
濱野 淳（筑波大学 医学医療系 緩和医療学）
- P4-75 **特殊型 PCA ポンプによるオピオイド持続皮下注射で地域を繋ぐ－エイミー[®] でバトンを繋いだ 2 例を踏まえて－**
阪本 光謙（大和高田市立病院 薬剤部）
- P4-76 **緩和治療目的で広域搬送されたが、緩和ケア病棟から社会復帰できた 1 例**
木村 雅代（福井県済生会病院外科）

- P4-77 地域医療連携推進法人米沢ヘルスケアネットの現状について 米沢市立病院と三友堂病院に医療連携についての検討
橋本 敏夫（米沢市立病院外科）
- P4-78 AYA がん患者の在宅看取りに 24 時間医看薬のチーム医療体制で取組んだ事例報告
小鷹 康代（ソフィアメディ訪問看護ステーション香芝）
- P4-79 県外から転居後、予後予測指標から患者・家族に推定予後を共有し、患者・家族の人生の選択に貢献し得た 2 症例
白石 龍人（医療法人社団 彩明会 グリーン在宅クリニック）
- P4-80 官民連携を目指した新病院緩和ケア部門の現状と課題
渡部 芳紀（三友堂病院 地域緩和ケアサポートセンター 看護部）
- P4-81 在宅療養に向けた自己調整鎮痛法導入に関する取り組み
奥山 奈穂子（JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 緩和ケアチーム）
- P4-82 当院における緩和ケア地域連携の現状と課題
武知 浩和（公立学校共済組合 四国中央病院 緩和ケア外科）
- P4-83 緩和ケア外来における MSW としての関わり -地域との連携を要した症例から見えてきた課題-
早矢仕 翔太（独立行政法人 国立病院機構 長良医療センター）
- P4-84 始良霧島曾於緩和ケア連携協議会（AiKISS Net）の現状と展望
柳 正和（霧島市立医師会医療センター呼吸器外科）
- P4-85 ステークホルダーマッピングを用いた地域連携教育の取り組み
橋本 孝太郎（ふくしま在宅緩和ケアクリニック）
- P4-86 連携強化に向けた緩和ケア部門転院システムについて
堀内 祐美子（三友堂病院 地域医療部）
- P4-87 紹介元病院と共同開催したデスカンファレンス 7 件の報告
柳原 恵梨（谷田病院）
- P4-88 院内看取り患者の看看連携としての振り返りを通して気づけた視点
佐藤 真嗣（社会医療法人愛生会 総合上飯田第一病院 看護部）

**小児・若年者の緩和ケア
(P4-89 ~ P4-105)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-89 小児緩和ケアにおけるポケモンカードを用いたアイスブレイクの試み
梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院麻酔科学教室）
- P4-90 小児がんにおける治癒を目指した治療と緩和医療のシームレスな連携：
在宅医との協働によるハイブリッド緩和ケアの実践
古賀 友紀（独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 緩和ケアチーム、
独立行政法人国立病院機構九州がんセンター 小児・思春期腫瘍科）
- P4-91 小児がん性疼痛に対するヒドロモルフォン使用経験
堀木 としみ（医療法人社団ときわ赤羽在宅クリニック）
- P4-92 重症心身障害児の呼吸困難に対してモルヒネ持続静注により安全かつ有効な緩和を得た 1 例
岡部 まどか（東京都立小児総合医療センター 総合診療科）
- P4-93 事例報告：疼痛管理プロトコルを用いてジヌツキシマブを使用した 4 症例
永井 義浩（京都府立医科大学附属病院疼痛・緩和ケア科）
- P4-94 AYA 世代のがん患者の家族における介護者負担感：全国遺族調査
陳 貽悦（東北大学大学院医学系研究科保健学専攻家族支援看護学講座緩和ケア看護学分野）
- P4-95 詳細な病状や予後を告知されていない、終末期にある思春期がん患者 1 症例の病気体験とその思い
～テキストマイニングを用いて～
石徹白 しのぶ（和歌山県立医科大学附属病院緩和ケアセンター）
- P4-96 苦痛緩和に持続鎮静が必要であった AYA 世代がん患者の自宅看取り 2 例
篠 美和（医療法人社団守成会広瀬病院 在宅診療部）
- P4-97 AYA 世代の終末期がん患者の療養の現状について
渡邊 真理子（医療法人愛和会 訪問看護ステーション愛和）
- P4-98 超低出生体重児に生じた呼吸困難に対してフェンタニル、ミダゾラムを用いて有害事象なく症状緩和が得られた
一例
猪狩 智生（東北大学病院緩和医療科）

- P4-99 Experience of Pediatric Neuropalliative Care: ACP to end-of-life care
野崎 章仁 (滋賀県立小児保健医療センター 遺伝科)
- P4-100 小児悪性腫瘍終末期の静脈路確保において midline カテーテルが有用であった 1 例
工藤 隆司 (弘前大学医学部附属病院麻酔科・集中治療科)
- P4-101 造血幹細胞移植後の移植片対宿主病終末期における苦痛緩和を行った小児の一例
山田 真紀子 (群馬大学医学部附属病院 腫瘍センター)
- P4-102 大学病院における小児緩和ケアチームの立ち上げおよび活動報告
前田 久美子 (東邦大学医療センター大森病院 小児緩和ケアチーム、東邦大学医療センター大森病院 看護部)
- P4-103 終末期 AYA 世代のがん患者における意思決定支援の実践報告
柏 彩織 (茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター)
- P4-104 子育て世代がん患者・家族の支援に関する医療者の連携構築と実践力育成を目的とした月例症例検討会の活動報告
木原 歩美 (京都民医連あすかい病院 内科)
- P4-105 小児緩和ケア教育プログラムのアウトカム評価に関するスコーピングレビュー
南部 美智子 (三重大学大学院医学系研究科)

**高齢者の緩和ケア
(P4-106 ~ P4-110)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-106 当院の高齢がん患者に関するワーキンググループの活動報告
長岡 広香 (がん・感染症センター 都立駒込病院 緩和ケア科、
がん・感染症センター都立駒込病院 高齢がん患者ワーキンググループ)
- P4-107 超高齢がん患者を支えることとは
加藤 博美 (公益社団法人鹿児島共済会 南風病院 緩和ケア内科)
- P4-108 がん化学療法中の高齢者における認知症の有無と鎮痛薬・睡眠薬使用状況の関連
小田原 悠紀 (東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター)
- P4-109 緩和ケア内科におけるプレクスピプラゾールの使用経験
近藤 千尋 (KKR 札幌医療センター緩和ケア内科)
- P4-110 緩和ケア病棟における、キワニスドールを用いたケアの活動報告
松原 秀紀 (西濃厚生病院緩和ケアセンター)

**非がん患者の緩和ケア(認知症)
(P4-111 ~ P4-112)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-111 認知機能改善に対するマルチモーダルな非薬理的介入の効果に関する文献検討
松永 紗英 (三重大学医学部看護学科)
- P4-112 A病院障害者病棟における認知症の緩和ケア ~ ELNEC-J を基盤にカンフォータブル・ケアを実践した 1 事例 ~
梶原 陽子 (医療法人徳洲会 札幌南徳洲会病院)

**非がん患者の緩和ケア(呼吸器疾患、心疾患)
(P4-113 ~ P4-124)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-113 急性期における心疾患患者への緩和ケア看護に関する文献レビュー
三上 和海 (三重大学医学部看護学科成人ゼミ)
- P4-114 末期心不全患者の呼吸困難症状に対してオキシドロン持続皮下注を使用し、症状緩和が得られた症例
野木森 智江美 (東京都健康長寿医療センター緩和ケア内科)
- P4-115 当院における非がん性呼吸器疾患患者に対する緩和ケアチームの介入の効果と評価方法についての検討
萩本 聡 (公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科 緩和ケア内科)
- P4-116 慢性血栓塞栓性肺高血圧症患者の意思決定支援に緩和ケアチームが介入した一例
重野 朋子 (筑波大学附属病院緩和ケアセンター)
- P4-117 心移植を目標としていた植込型補助人工心臓装着患者の終末期移行における患者・家族に寄り添う看護支援
森谷 優香 (東北大学病院看護部)
- P4-118 非がん患者の呼吸困難の緩和ケア —在宅での経口オピオイド導入の経験—
谷澤 久美 (医療法人ミナテラス かすがクリニック)

- P4-119 難治性持続性心室頻拍（VT）患者の治療縮小に介入した一症例
田中 成明（信州大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科）
- P4-120 当院の心不全緩和ケアにおける現状と課題の検討
寺尾 律（国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院）
- P4-121 腎機能障害を伴う末期心不全患者の呼吸困難，腹部膨満感に対するブプレノルフィンの有効性
土屋 典子（東北大学病院 緩和医療科）
- P4-122 鎮静を希望した心不全終末期患者に対し，緩和ケアチーム介入により症状緩和し，鎮静することなく最期まで過ごすことができた一症例
近藤 夏貴（埼玉医科大学国際医療センター 緩和ケアチーム）
- P4-123 A 病院における終末期心不全緩和ケアへの取り組み
山城 美香（沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 緩和ケア認定看護師）
- P4-124 “生きる”ことを考えた末期心不全への ACP の関わり ～自宅退院を実現できた事例～
奥田 桜か（市立敦賀病院 緩和ケアチーム、市立敦賀病院 看護部）

非がん患者の緩和ケア(神経疾患)
(P4-125 ~ P4-131)

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P4-125 神経難病専門病院の緩和ケアチームが介入した多系統萎縮症患者への支援の実際
新井 玉南（地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立神経病院緩和ケアチーム、看護部）
- P4-126 筋萎縮性側索硬化症患者のオピオイド導入における主観的苦痛評価の変化
松田 千春（公財）東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター難病ケア看護ユニット）
- P4-127 長期に気管切開を伴う人工呼吸管理を行う ALS 患者へのオピオイド投与
森島 亮（東京都立神経病院 脳神経内科）
- P4-128 気管切開下人工呼吸療法を希望せず、終末期呼吸ケアに難渋しながら在宅看取りを行った ALS 患者の 3 症例
片山 優子（ホームケアクリニックこうべ）
- P4-129 訪問診療で疼痛を訴える筋萎縮性側索硬化症患者において、筋・筋膜性疼痛に対しトリガーポイント注射を行った症例について
阿波 宏子（医療法人大垣在宅クリニック）
- P4-130 脳卒中における死亡退院患者の特徴 ～決定木分析の検討～
石田 ゆず（相澤病院 リハビリテーション科）
- P4-131 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の終末期において、摂食・嚥下障害看護認定看護師として食を通しその人らしさを支える一事例
岩本 美保（国立病院機構 柳井医療センター）

非がん患者の緩和ケア(腎疾患、その他)
(P4-132 ~ P4-134)

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P4-132 当院における下肢虚血、壊死性筋膜炎を中心とした非がん性疼痛への鎮痛薬使用の実態
牧野 綾（市立札幌病院 緩和ケア内科）
- P4-133 包括的高度慢性下肢虚血（CLTI）における緩和ケアニーズ：スコーピングレビュー
大日方 裕紀（北海道大学大学院保健科学研究）
- P4-134 肢端紅痛症に伴う小児難治性疼痛に対し外来・入院を通じて多職種で関わった一例
原 万里子（名古屋大学医学部附属病院）

集中治療での緩和ケア
(P4-135 ~ P4-139)

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P4-135 救急・集中治療における終末期医療の現状 単施設後向きコホート研究
和田 迪子（筑波大学医学部附属病院 内科専門研修 緩和ケアコース、筑波メディカルセンター病院 緩和医療科）
- P4-136 ICU における非がん患者に対する緩和ケアチームの介入の一例
ー ICU 所属の緩和ケアリンクナースとしての活動を振り返るー
岡室 恵子（順天堂大学医学部附属静岡病院 3AICU）

- P4-137 中毒性表皮壊死症 (TEN) に対し、ICU 管理期から緩和ケアチームが介入し発症 104 日目に自宅退院となった 1 例
吉野 主理 (横浜市立大学附属病院緩和医療科)
- P4-138 当院集中治療室 (ICU) で共同意思決定のプロセスを経て緩和目的の抜管を行った一例
吉村 紘希 (東京都立墨東病院集中治療科)
- P4-139 集中治療室スタッフにおける「もしバナゲーム™」を用いた ACP ワークショップの試み
京嶋 太一朗 (香川大学医学部附属病院 麻酔・ペインクリニック科)

**その他の地域・在宅緩和ケアと特定集団に対する緩和ケア
(P4-140 ~ P4-146)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P4-140 がん患者支援団体「NPO 法人あいおぶらす」の活動と今後の課題
～あいおぶらすの家『いっほいっほ』の取り組み～
三堀 いずみ (NPO 法人あいおぶらす、湘南医療大学 保健医療学部看護学科)
- P4-141 NPO 法人あいおぶらすの家『いっほいっほ』の地域における役割
神長 愛 (NPO 法人あいおぶらす、ファミリー・ホスピス株式会社)
- P4-142 重い精神疾患を有するがん患者の臨死期における臨床像についての検討
横須賀 響子 (東京都立病院機構 東京都立松沢病院内科)
- P4-143 地域包括ケア病棟における緩和ケアチーム活動の試み～在宅医療との連携～
柳澤 博 (医療法人社団 焰 やまと診療所)
- P4-144 コンパッションコミュニティ・都市に向けてのプロセスの一環としての、コンパッションに満たされたコミュニティが果たした在宅緩和ケアの一例
田實 武弥 (医療法人 心の郷 穂波の郷クリニック、特定医療法人 新生病院 診療部)
- P4-145 プロボノによる大学を拠点とした「みんなの保健室すずカフェ」
中村 喜美子 (鈴鹿みんなの保健室、鈴鹿医療科学大学 看護学部 看護学科)
- P4-146 悪性脳腫瘍患者の終末期の症状の検討
宇都 加寿子 (宮崎市郡医師会病院 緩和ケア内科)

**予後予測
(P5-1 ~ P5-6)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P5-1 急性期病院の緩和医療初学者が担当したがん患者の予後予測スコアに関する検討
西土 徹 (豊川市民病院 緩和ケアチーム)
- P5-2 PNI (Prognostic Nutritional Index) は原発性肺がん終末期の予後予測においても有用である
林 一喜 (淡海医療センター呼吸器外科)
- P5-3 当院の緩和ケア病棟に介入中に COVID-19 に罹患した患者と非罹患患者の予後比較について傾向スコアマッチングを用いたコホート研究
馬見塚 勝郎 (鹿児島市医師会病院 緩和ケア科)
- P5-4 予後予測スケールを用いた緩和ケアカンファレンス
大野 宏子 (伊那中央病院)
- P5-5 臨死期において、「自分は今日亡くなる」と死期を察知し、実際に速やかに亡くなったがん患者 3 例
吉澤 和夫 (川崎市立井田病院 緩和ケア内科)
- P5-6 当院緩和ケア病棟における予後予測ツール Palliative Prognostic Index (PPI) の妥当性についての検討
青木 佐知子 (JA 愛知厚生連海南病院緩和ケア内科)

**看取りの前後のケア
(P5-7 ~ P5-18)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P5-7 新型コロナ禍におけるがん終末期患者の看取りへの関わり
田中 美穂 (市立甲府病院 看護部)
- P5-8 「生きがい」を持つことで長期にわたり ADL が維持できた末期肺腺がんの一例
—終末期において理学療法士ができる専門的支援に関する考察—
中嶋 由実 (聖隷福祉事業団 袋井市立聖隷袋井市民病院 リハビリテーション室)

- P5-9 死別を迎える二人が共に過ごす最期のかげがえのない時間を創出するための看護師の実践
齋藤 珠美（おうちにかえろう。病院）
- P5-10 看取り期の家族とのエンドオブディスカッションの実態と課題
石川 奈名（ベルランド総合病院 緩和ケア病棟）
- P5-11 看取りが近づいた患者の家族に対する急性期病院緩和ケア病棟看護師の介入の実際
石井 もえ（ベルランド総合病院 緩和ケア病棟）
- P5-12 看護師の湯灌に対する思いや実態を明らかにする
中村 優子（東京都立病院機構多摩南部地域病院）
- P5-13 病状の進行によって本人の意思表出が困難となる中で苦痛緩和の評価について医療者・家族が共同して模索した1例
伊藤 浩明（岐阜県立多治見病院 緩和ケア内科）
- P5-14 終末期における積極的治療の予測因子を探索する単施設後方視的研究
角埜 徹（大阪医科薬科大学病院、化学療法センター、大阪医科薬科大学病院、第二内科）
- P5-15 看護師の看取りケア実践と属性との関連
名越 恵美（岡山県立大学保健福祉学部看護学科）
- P5-16 デスカンファレンスが地域包括ケア病棟看護師のストレスコーピングに繋がった1事例
渡部 里美（公立高島病院）
- P5-17 産婦人科病棟における看取りの振り返りと今後の課題～看取りケア確認シートを使用して～
池田 由紀（長野赤十字病院 B5 病棟）
- P5-18 中間カンファレンスの有用性～自宅で迎える最期のために
梁木 理史（村尾在宅クリニック、東京女子医科大学病院麻酔科学教室）

**苦痛緩和のための鎮静
(P5-19～P5-29)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P5-19 急性期病棟で鎮静を受ける終末期がん患者に関わる看護師の困難感
山崎 充友紀（鹿児島大学病院看護部）
- P5-20 がん患者の治療抵抗性の苦痛緩和のための鎮静におけるフェノバルビタールナトリウム静注製剤の使用に関する後方視的検討
橋本 教正（京都桂病院緩和ケア科）
- P5-21 48日間持続的鎮静を行った1症例の検討
山口 法隆（新横浜リハビリテーション病院）
- P5-22 緩和ケア病棟における苦痛緩和のため鎮静にいたる因子の検討
門田 みどり（医療法人 済衆館 済衆館病院）
- P5-23 医療チーム内で鎮静に対する考え方の相違が生じた一事例
矢間 友美（鳥取大学医学部附属病院 緩和ケアチーム）
- P5-24 当院緩和ケア病棟におけるミダゾラムによる鎮静の実態調査と標準化への取り組み
川床 優子（社会医療法人博愛会相良病院 薬剤部、緩和ケアチーム）
- P5-25 多職種鎮静検討シートの作成と活用状況
安永 浩子（国立病院機構九州がんセンター緩和ケアセンター）
- P5-26 一般病棟における鎮静のカンファレンスの実施の取り組み～がん患者、非がん患者へかかわって～
岡山 幸子（宝塚市立病院 看護部）
- P5-27 緩和ケアチームによる持続鎮静事前カンファレンス開催の提案
敦賀 健吉（北海道大学病院 腫瘍センター 緩和ケアチーム）
- P5-28 総合病院において中咽頭がん患者のスピリチュアルペインに持続的鎮静を行い看取った1例
上野 祐介（香川大学医学部附属病院 精神科神経科）
- P5-29 持続的鎮静プロトコル導入における看護師アンケート結果の検討
小坂 麻利（医療法人 愛和会 愛和病院 看護部）

**ホスピス・緩和ケア病棟
(P5-30 ~ P5-48)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P5-30 深夜待機的死亡診断の条件緩和による普及効果
石川 貴洋子 (NTT 東日本関東病院 緩和ケア科)
- P5-31 緩和ケア病棟におけるウェルカムアイスの効果
相原 菜里 (川崎市立多摩病院 緩和ケア内科、聖マリアンナ医科大学 総合診療内科学講座)
- P5-32 緩和治療病棟再開における緩和ケア認定看護師の活動報告
森 章子 (富山赤十字病院)
- P5-33 終末期がん患者のがん種別における体組成および代謝・栄養学的指標に関する検討
村井 美代 (藤田医科大学医学部外科・緩和医療学講座)
- P5-34 当院緩和ケア病棟での悪性胸膜中皮腫 10 例の経過
河野 真揮枝 (市立芦屋病院、緩和ケア内科)
- P5-35 緩和ケア病棟において反回神経麻痺による嚥下障害と悪性消化管狭窄に対して言語聴覚士によるリハビリテーション介入を実施した一例
平田 敦子 (東京品川病院)
- P5-36 終末期がん患者の嚥下能力と QOL の関連
山本 貴大 (朝日野総合病院 総合リハビリテーションセンター)
- P5-37 緩和ケア病棟ではどのような症例が緩和照射の恩恵を享受できるのか～当院の症例より～
中村 俊彦 (公立学校共済組合 九州中央病院)
- P5-38 緩和ケア病棟で維持透析の継続を可能にしたことによる効果
沼澤 理絵 (社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 麻酔科、同緩和ケア科)
- P5-39 HIV 感染症を合併したがん末期の患者を緩和ケア病棟で受け入れる際の課題
遠藤 美穂 (公益財団法人ライフ・エクステンション研究所附属 永寿総合病院 緩和医療科)
- P5-40 当院の緩和ケア病棟が行っているエンゼルケアについての評価と課題～葬儀社に向けたアンケートから～
山中 洋美 (岐阜県立多治見病院 緩和ケア病棟)
- P5-41 緩和ケア病棟の看護師が終末期がん患者の意思を尊重した看護実践に関するスコーピングレビュー
野尻 清香 (長野県看護大学大学院博士後期課程)
- P5-42 小規模急性期病院における緩和ケア病床運用の工夫と課題
福島 剛 (市立千歳市民病院 外科)
- P5-43 緩和ケア病棟転棟前に看取りとなった急性期病棟入院患者の診断群分類データを含めた検討
金澤 裕信 (一宮西病院緩和ケア内科)
- P5-44 緊急入院は緩和ケア病棟に必要か？
フィンガー 真由美 (医療法人財団慈生会 野村病院 診療部)
- P5-45 緩和ケア提供施設における鍼灸の実態調査 - 北海道の調査報告 -
朝田 ちあき (北海道消化器科病院)
- P5-46 緩和ケア病棟に入院した BSC の患者とがん治療中の患者の看護・介護必要度の比較
川畑 恵 (勤医協中央病院緩和ケア科、勤医協中央病院緩和ケア病棟)
- P5-47 ホスピス型住宅における療養者中心のケアの質の検討
三浦 武 (横浜市立大学 医学部看護学科 老年看護学、
横浜市立大学大学院 データサイエンス研究科 ヘルスデータサイエンス専攻)
- P5-48 緩和ケア病棟看護師の他部署連携強化に向けた取り組み
～一般病棟看護師へ向けた『緩和ケア通信』の発行を行って～
富川 将史 (社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院)

**緩和ケアチーム
(P5-49 ~ P5-80)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P5-49 くも膜下出血に対するコイリング塞栓術後の頭痛に対する緩和ケアチームと多職種との取り組みについて
吉沼 裕美 (亀田総合病院麻酔科)
- P5-50 一般病棟でがん患者のデスカンファレンスを開催することの意義
藤原 美由紀 (兵庫県立丹波医療センター)

- P5-51 **緩和ケアチーム活動を充実させるための取り組み**
鈴木 三栄子 (JA とりで総合医療センター 緩和ケアチーム)
- P5-52 **地域医療を担う病院での緩和ケアチーム活動状況と今後の課題**
赤澤 智之 (健和会病院外科、健和会病院緩和ケアチーム)
- P5-53 **当院緩和ケアチームへの非がん患者の介入依頼の現状と今後の活動の課題**
早川 晶 (淀川キリスト教病院緩和医療内科、淀川キリスト教病院緩和ケアセンター)
- P5-54 **呼吸器科から緩和ケアチームへコンサルトした症例の検討**
杉山 智英 (栃木県立がんセンター呼吸器内科)
- P5-55 **緩和ケア病棟をもたない病院での緩和ケアチームの役割について**
立石 さち (済生会西条病院 看護部)
- P5-56 **がん疼痛の神経ブロック療法に対する院内外連携の役割**
鳥井 理那 (大阪医科薬科大学麻酔科学教室)
- P5-57 **RELIEF プログラム：緩和的リハビリテーション提供体制再構築に向けた取り組み**
小磯 寛 (東京都立病院機構東京都立荏原病院緩和ケアチーム、東京都立病院機構東京都立荏原病院リハビリテーション科)
- P5-58 **オピオイド鎮痛剤使用患者における術後疼痛管理への緩和ケアチームの関わりと今後の課題について**
春日 真由美 (国立病院機構 埼玉病院)
- P5-59 **骨転移症例の治療方針決定における緩和ケアチーム介入事例の報告**
田口 泰郎 (半田市立半田病院 外科、半田市立半田病院 緩和ケアチーム)
- P5-60 **演題取り下げ**
- P5-61 **当院 PCT 看護師のコンサルテーションから見えた役割と今後の課題**
中安 千佳子 (函館五稜郭病院 緩和ケアチーム、函館五稜郭病院 緩和ケア看護室)
- P5-62 **緩和ケアチームの支援により抗がん剤治療中の患者が海外渡航可能となった症例**
古畑 真有 (兵庫医科大学 麻酔科学講座)
- P5-63 **緩和ケアチームに所属する外来看護師と病棟看護師が横断的に協働して緩和ケアを提供できた症例～緩和ケア病棟を有しない当院の取り組み～**
三橋 真美 (青森厚生病院緩和ケアチーム)
- P5-64 **緩和ケアチーム連絡用 PHS を医師が持つことについての検討**
藤田 建 (岐阜県立多治見病院 緩和ケア内科)
- P5-65 **過剰適応的な性格のため症状表出困難な患者の副作用評価を行い多職種で疼痛と嘔気の緩和と化学療法を両立した乳癌事例 -泣くほどつらいと笑顔で申告する患者への介入-**
鈴木 麻由香 (NTT 東日本関東病院緩和ケアチーム、同病院薬剤部)
- P5-66 **外来化学療法室における苦痛のスクリーニング導入にむけてー緩和ケア兼任看護師の活動報告ー**
富澤 恵樹 (前橋赤十字病院)
- P5-67 **緩和ケアチーム介入、緩和ケア外来受診の効果について、苦痛のスクリーニング (ESAS-r-J) の数値変化による検討**
仁熊 敬枝 (香川県立中央病院 緩和ケア内科)
- P5-68 **集中治療を要する急性疾患併発後も、重症患者メディエーターを兼務する緩和ケアチームにより継続介入が行えた1例**
白木 照夫 (国立病院機構岩国医療センター緩和ケアチーム)
- P5-69 **リンクナース育成を通じた緩和ケアの質向上への取り組み**
白石 裕実 (市立貝塚市民病院)
- P5-70 **傾聴とセルフマッサージの効果**
山村 二三江 (独立行政法人国立病院機構 函館医療センター 緩和ケアチーム)
- P5-71 **短期間での良好な疼痛コントロールが退院後の苦悶軽減につながった一症例**
高仲 雅子 (日本医科大学多摩永山病院 緩和ケアチーム)
- P5-72 **当院の緩和ケアチームにおけるリハビリテーション専門職の課題と支援の可能性～アンケートによる実態調査からの考察～**
松原 三香子 (公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 リハビリテーション室、公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 緩和ケアチーム)

- P5-73 管理栄養士が鍵となり緩和ケア委員会が介入できた事例
大久保 美那子（西日本病院 栄養部）
- P5-74 PCT 回診チームに属するリハビリ技師が担当した症例～リハビリは患者と医療者の架け橋になれる～
池田 実咲（愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院）
- P5-75 オンラインによる緩和ケアチームピアレビュー活動報告（兵庫県がん診療連携協議会緩和ケア部会）
堀 謙輔（関西ろうさい病院緩和ケアセンター）
- P5-76 臨床心理士が加入した緩和ケアチームの活動 ～協働して介入したケースを振り返って～
米村 智子（松江市立病院 看護局）
- P5-77 当院の心不全緩和ケアカンファレンスの概要
今井 伸也（済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科）
- P5-78 緩和ケアチームは病院の診療活動を反映するかもしれない
～当院における 7 年間の緩和ケアチーム活動 3852 件の背景調査より～
嶋田 和貴（京都大学医学部附属病院 緩和ケアセンター、京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻）
- P5-79 血液腫瘍内科患者における緩和領域での PICC 留置の当院の現状
田中 美紀（柏厚生総合病院 看護部）
- P5-80 演題取り下げ

**緩和ケア外来
(P5-81 ～ P5-87)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P5-81 当院におけるオピオイド導入外来の試み
早川 史広（岡崎市民病院 緩和ケア内科）
- P5-82 緩和ケア外来における心理士同席の試みとその成果
山岸 正明（滋賀県立総合病院 緩和ケア科）
- P5-83 がん患者の ADL 曲線を用いた意思決定支援に基づいた終末期後期の療養についての検討
-2021 年度と 2023 年 死亡症例からの比較 -
則行 敏生（尾道総合病院 緩和ケアセンター）
- P5-84 地域がん診療連携拠点病院における緩和ケア内科の充実に向けた取り組み
中洞 純子（高山赤十字病院 緩和ケアチーム）
- P5-85 緩和ケア科におけるオンライン診療の現状と課題
井関 千裕（社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院）
- P5-86 外来診療における管理栄養士の介入について
三浦 香奈子（埼玉医科大学病院栄養部）
- P5-87 緩和ケア外来における漢方の役割
粕田 晴之（栃木県立がんセンター）

**苦痛スクリーニング
(P5-88 ～ P5-95)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P5-88 「痛みやつらさに関する質問票」活用による看護実践への繋がりを目指した取り組み
ー緩和ケアリンクナースの活動支援を通してー
宮 友美（公立大学法人福島県立医科大学附属病院 看護部、臨床腫瘍センター 緩和ケアセンター）
- P5-89 進行卵巣がん患者の苦痛の実態と看護支援の検討：IPOS を用いた包括的評価
松岡 晃子（社会医療法人生長会 ベルランド総合病院 外来）
- P5-90 放射線治療室に勤務する緩和ケア認定看護師の活動と課題
藺田 智代（鹿児島市立病院検査治療外来）
- P5-91 腹水を伴うがん患者の PRO（Patient Reported Outcome）による症状評価
吉田 園美（伊那中央病院）
- P5-92 IPOS 導入後の緩和ケア病棟で働く看護師の思い
須藤 祐子（北見赤十字病院緩和ケア病棟）

- P5-93 当院のがん患者スクリーニングから見える緩和ケアチーム介入の問題点
—誰一人取り残さないがん対策のために—
岡本 亜紀 (南和広域医療企業団 南奈良総合医療センター 看護部)
- P5-94 悪性腫瘍で外来通院している患者に対して外来看護師が果たす役割
瀬戸 ひとみ (伊勢原協同病院)
- P5-95 急性期病院における苦痛スクリーニングを用いた緩和ケアカンファレンス対象患者選定拡大への取り組み
砂川 華 (琉球大学病院 看護部 緩和ケアセンター)

**早期からの緩和ケア
(P5-96 ~ P5-101)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P5-96 頭頸部悪性腫瘍患者に対する緩和ケアチームの予防的介入がもたらした効果
西本 武史 (函館五稜郭病院 緩和ケアチーム、函館五稜郭病院 精神科リエゾンチーム、
福井大学医学部 腫瘍病態治療学講座)
- P5-97 緩和ケア早期介入における麻酔科医による術前診察の有用性
大竹 知子 (社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 麻酔科)
- P5-98 当院呼吸器診療に携わる医療者のアドバンスケアプランニングに関する知識および態度についての単施設前向き観察研究
間中 博也 (北里大学医学部呼吸器内科学)
- P5-99 診療後早期から多職種が関わることで、自宅での看取りができた終末期胆管細胞がん患者の一例
友寄 景章 (沖縄医療生活協同組合沖縄協同病院 リハビリテーション室)
- P5-100 早期緩和ケアの障壁に対処する、「ケアプラス」の紹介と活動報告
鈴木 尚樹 (山形県立中央病院 緩和医療科)
- P5-101 緩和薬物療法認定薬剤師による外来患者への介入が入院イベントと外来通院期間に与える影響
山田 正実 (大阪府済生会野江病院薬剤科)

**その他の終末期ケア、デリバリー
(P5-102 ~ P5-112)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P5-102 臨床アロマセラピーにおける吸入デバイスの違いによる症状改善効果についてのクロスオーバー比較試験
和田 真奈 (神戸学院大学薬学部)
- P5-103 介護支援を要した終末期がん患者の医療や療養生活に関する全国アンケート調査
—終末期医療に関する希望、社会資源の利用を中心に—
横島 弥栄子 (東京大学医学部附属病院 麻酔科・痛みセンター)
- P5-104 急性期病院である当院における、終末期がん患者に対しモニターを装着しない看取りに関する調査
中村 明穂 (東京慈恵会医科大学附属第三病院 総合診療部)
- P5-105 終末期ケアに携わる看護師が考えるよい死とは
村山 陽彩 (札幌市立大学看護学部看護学科)
- P5-106 造血器瘍患者と固形腫瘍患者の望ましい死の達成度と終末期ケアの質比較：全国遺族調査の結果から
池田 翔平 (竹田総合病院 緩和医療科、福島県立医科大学会津医療センター 血液内科学講座)
- P5-107 地域に質の高い緩和ケアを提供するための療養病床の役割
藤木 啓 (医療法人社団誠和会 藤木病院)
- P5-108 地域包括ケア病棟と緩和ケア病棟がそれぞれの役割を果たすためのリンクナースと緩和ケアチームの働き
齊藤 英一 (新生病院)
- P5-109 父を看取る
新井 由季 (那須赤十字病院緩和ケア)
- P5-110 Best Supportive Care 決定から1ヶ月未満で死亡した4症例の検討
鶴田 淳 (渡辺胃腸科外科病院 在宅医療部、倉敷成人病センター 緩和ケア科)
- P5-111 終末期がん患者の希望が聴取できない際の作業療法士の介入方法に関する予備調査
池知 良昭 (香川県立丸亀病院 作業療法室、東京都立大学大学院人間健康科学研究科作業療法科学域 客員研究員)
- P5-112 当院の Patient-Controlled Analgesia (PCA) ポンプ運用の実際
高橋 智恵子 (大阪医科薬科大学病院 薬剤部、大阪医科薬科大学病院 緩和ケアチーム、
大阪医科薬科大学病院 緩和ケアセンター)

**卒前教育
(P6-1 ~ P6-9)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-1 演題取り下げ
- P6-2 医学部1年生を対象とした early exposure における bad news の伝え方のロールプレイ前後での自己評価の比較
津田 万里 (東海大学医学部専門診療学系緩和医療学)
- P6-3 医学生への緩和ケア実習を選択したプロセスについてのインタビュー調査：質的研究
川島 夏希 (筑波大学附属病院 緩和支援診療科 緩和ケアセンター)
- P6-4 医学生への緩和ケア実習での体験についてのインタビュー調査：質的研究
川島 夏希 (筑波大学附属病院 緩和支援診療科 緩和ケアセンター)
- P6-5 医学部6年生に対する緩和ケア卒前教育：緩和ケア病棟入院患者と医学生の対話を通じた実習の報告
森 一郎 (医療法人 協和会 協立記念病院)
- P6-6 医学生を対象とした看取り教育に対するリパブールケアパスウェイ教育の上乗せ効果に関する探索的検討
田中 幸介 (京都大学 大学院医学研究科 リアルワールドデータ研究開発講座、国際医療福祉大学成田病院 緩和医療科)
- P6-7 大学生におけるがんに関する情報源と食・栄養の関心事
腰本 さおり (東京科学大学大学院歯学総合研究科精神行動医科学分野)
- P6-8 クリニカルクラークシップ前後での緩和ケアに対する意識の検討
友松 裕美 (東海大学医学部専門診療学系緩和医療学)
- P6-9 看護学生から見た望ましい死
山本 理名 (福井県済生会病院)

**教育方法
(P6-10 ~ P6-14)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-10 緩和ケア病棟看護師における「緩和ケア実践 自己評価シート」の改定後の変化
石井 梓 (船橋市立医療センター 緩和ケア病棟)
- P6-11 未成年の子どもがいるがん患者・家族支援研修 (Panda 研修) アドバンス編が支援者に与える影響
飯田 郁実 (国立がん研究センター中央病院看護部)
- P6-12 がんサバイバーシップケア向上に向けた多職種医療者の学習ニーズ調査と教材開発の方向性
久村 和穂 (金沢医科大学医学部公衆衛生学、石川県がん安心生活サポートハウス)
- P6-13 患者の寄り添い方に対するスタッフ教育
乾 輪子 (神戸赤十字病院 5階西病棟)
- P6-14 デスカンファレンスの環境が看護師のターミナルケアに対する思考態度に与えた影響
-Frommelt のターミナルケア態度尺度日本語版を用いた検討-
佐々木 淳裕 (社会医療法人 健和会 健和会病院 看護部)

**卒後教育
(P6-15 ~ P6-16)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-15 当院における ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムの評価とフォローアップ研修の方向性
～研修終了後のアンケートから見える今後の課題～
松川 寿恵 (伊勢原協同病院)
- P6-16 10年にわたる継続的な ELNEC-J 研修開催の原動力と今後への課題
米丸 順子 (さくら訪問看護ステーション)

**施設内教育
(P6-17 ~ P6-29)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-17 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムのフォローアップ研修の有効性の検討
門田 麻里 (高知大学医学部附属病院、緩和ケアセンター)
- P6-18 緩和ケアマニュアル作成の効果についての考察
高辻 都子 (独立行政法人市立東大阪医療センター 緩和ケアセンター)

- P6-19 緩和ケアリンクナースの活動と支援ニーズの調査—自部署からの相談内容を通して—
今井 洋子 (前橋赤十字病院 看護部)
- P6-20 入院患者における麻薬自己管理の院内普及状況と医療者意識の調査
奥田 智子 (神鋼記念病院 診療技術部 薬剤室)
- P6-21 麻薬使用に関する知識向上とインシデント低減の取り組み
関塚 大 (新百合ヶ丘総合病院 緩和ケアチーム、薬剤科)
- P6-22 コロナ前・コロナ後に就職した訪問看護師のがん患者に対する困難感～困難感尺度のアンケートを用いて～
加藤 麻樹子 (訪問看護ステーション・青い空)
- P6-23 介護老人保健施設での看取りにおける今後の課題
桂 あかり (医療法人いちえ会 介護保険施設 せんけい苑 緩和ケアチーム)
- P6-24 A 病院においてリンクナースががん看護専門看護師と同行実践を行うことでの学び
世利 佐知子 (国家公務員共済組合連合会 千早病院 看護部)
- P6-25 12 時間型徐放性オピオイド製剤適正使用に向けた医療者の服薬管理に関する意識調査
近藤 麗子 (国立がん研究センター中央病院 看護部)
- P6-26 ACP (アドバンス・ケア・プランニング) 教育を行うための教育資料の作成
坂本 節子 (九州大学病院 看護部)
- P6-27 当院看護師における臨床倫理の認識と課題
川村 知裕 (大阪南医療センター 緩和ケア内科)
- P6-28 院内看護師による緩和ケア事例集の作成とその成果
桐山 徹 (医療法人社団東光会 戸田中央総合病院)
- P6-29 マニュアルを用いた知識の共有化について
嶺井 渉 (沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 医療情報分析室)

**市民・患者への啓発
(P6-30～P6-37)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-30 ホスピス・緩和ケア週間イベント実施報告～緩和ケア・人生会議への患者・市民の参画をめざして～
重田 宏恵 (香川大学医学部附属病院 緩和ケアセンター)
- P6-31 A 病院のがん患者サロン「とまり木」の現状と課題
今井 裕子 (市立敦賀病院 がん診療センター がん相談ユニット)
- P6-32 明るく・楽しく・自分らしい最期を考える「サイ五郎さんちの人生会議」を用いた ACP の普及啓発活動
田辺 靖晶 (市立敦賀病院 医療支援部 入退院支援室、市立敦賀病院 緩和ケアチーム、チーム大津京)
- P6-33 生老病死を日常生活の中で「自分ごと」として考えるための異業種協働 `縁起でもないつどい、第 1 回活動報告
佐野 智美 (一般社団法人 福岡県社会保険医療協会 社会保険田川病院 緩和ケア内科)
- P6-34 「とにかく明るい ACP」在宅緩和ケアネットワークにおける地域住民への普及啓発活動
升田 志保 (広島市立北部医療センター安佐市民病院 通院治療センター緩和ケア内科)
- P6-35 チーム活動の一環として、院内がん登録情報を地域住民と共有することでみえてきたもの
和田 由美子 (市立大町総合病院)
- P6-36 中学校におけるがん教育外部講師活動：オンライン授業の試み
大久保 悠 (JA 長野厚生連 佐久総合病院 佐久医療センター 放射線治療科)
- P6-37 医療者が実施するがん教育の効果と課題
原口 哲子 (いまきいれ総合病院 緩和ケア内科、いまきいれ総合病院 緩和ケアチーム)

**コミュニケーション
(P6-38～P6-40)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-38 がん看護に携わる看護師に対する哲学対話研修プログラムの試み
近藤 めぐみ (大阪歯科大学大学院 看護学研究科 (仮称) 開設準備室)
- P6-39 看護師のためのコミュニケーションスキルトレーニング研修会の 研修効果に関するアンケート調査
羽鳥 裕美子 (国立病院機構高崎総合医療センター)

- P6-40 小児在宅医療における、患者・家族とのコミュニケーションツールとしてのLINE®の有用性について
森 尚子（医療法人社団ときわ 赤羽在宅クリニック、東京都立小児総合医療センター 緩和ケア科、
東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科）

**アドバンス・ケア・プランニング、意思決定
(P6-41 ~ P6-87)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-41 アドバンス・ケア・プランニングに関するA病院看護師の認識
金井 紀子（医療法人社団愛友会 伊奈病院）
- P6-42 淡路島におけるACP（アドバンスケアプランニング）普及状況と課題
川 二美（医療法人社団 いちえ会 洲本伊月病院 緩和ケアチーム）
- P6-43 中国人高齢患者においてアドバンス・ケア・プランニングを実践する上で、文化的背景の違いが障壁となった一例
丹波 和奈（京都岡本記念病院 緩和ケア科）
- P6-44 A病院看護師のアドバンスケアプランニングにおける困難感と看護師の年齢、経験年数、学歴、学習経験、個人としての経験、支援経験の有無との関連の検証
石野 麻貴（東京都立病院機構多摩総合医療センター）
- P6-45 意思決定支援に関するアンケート調査結果から得た今後の取り組み
吉田 佳織（医療法人社団協友会船橋総合病院）
- P6-46 大学病院における意思決定支援の現状について
今野 麻衣子（秋田大学医学部附属病院緩和ケアセンター）
- P6-47 「最期は入院」と意思決定したが、最期まで「まだ時期ではない」と訴えた患者との関わり
平野 美穂（函館五稜郭病院 緩和ケアチーム、函館五稜郭病院 緩和ケア看護室）
- P6-48 再発食道がんの一例～緩和ケア外来やチームでのアドバンス・ケア・プランニング～
中右 礼子（松江市立病院 緩和ケア・ペインクリニック科）
- P6-49 アドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の意識調査
尾崎 正吾（独立行政法人 国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター）
- P6-50 造血管腫瘍の治療期にある認知症高齢者の意思決定を支援する病棟看護師の困難感
寺澤 友（JA 北海道厚生連札幌厚生病院）
- P6-51 医療療養病棟における高齢透析患者の意思決定支援について
生田 美紀（医療法人財団聖十字会 西日本病院 看護部）
- P6-52 ACP 支援を広げるためのがん診療 PDCA ワーキンググループ活動報告
豊田 賀子（豊川市民病院看護師）
- P6-53 当院の乳がん診療に携わる医療従事者へのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の実態調査
河手 敬彦（東京医科大学病院 乳腺科）
- P6-54 当院における緩和ケア病棟に移行した造血管悪性腫瘍症例のアドバンスケアプランニング（ACP）についての後方視的検討
長町 康弘（札幌清田病院 血液内科）
- P6-55 「最期は病院で」と意思表明していた在宅療養患者が自宅での看取りとなった経緯を振り返って
藤本 恭子（よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 よどきり訪問看護ステーション）
- P6-56 訪問看護師がACP（アドバンス・ケア・プランニング）を実践し、話し合った内容を実現することが、家族の後悔にどのように関連しているかについて
平山 司樹（医療法人葛西医院 訪問看護ステーションかつさい）
- P6-57 世帯構成および意思決定支援者が療養の場所の選択におよぼす影響～2013年と2023年の比較～
山崎 裕（市立函館病院緩和ケア科、市立函館病院緩和ケアチーム）
- P6-58 統合失調症を併発したがん患者の意思決定支援
島田 いづみ（社会医療法人近森会近森病院）
- P6-59 びまん性橋脚腫の患者と家族への支援に関する実態調査（第2報）—意思決定支援の実態—
坂本 結聖（国立成育医療研究センター 看護部）
- P6-60 植込型LVAD患者の終末期に直面した事前指示書の課題～ACPの本質を問い直す～
塩田 修玄（東京科学大学病院集中治療部）

- P6-61 高齢者急性骨髄性白血病の予後延長に伴う、受容過程の変化や ACP 設定見直しの必要性について
藤岡 功（柏厚生総合病院 内科・血液内科）
- P6-62 当院緩和ケア病棟におけるその人らしさアンケートの結果と考察
原 理紗子（聖路加国際病院 緩和ケア病棟）
- P6-63 緩和ケアチームが携わる仲間づくり～患者・家族中心の意思決定支援に向けて～
松山 純子（健和会大手町病院）
- P6-64 もしばなゲームを活用した院内職員の ACP 啓もう活動の取り組みとその効果
志賀 健一郎（原三信病院 緩和ケアチーム）
- P6-65 がん看護外来におけるアドバンスケアプランニングの支援に関する活動報告
前田 美和（佐賀大学医学部附属病院 看護部）
- P6-66 A 大学病院看護師の意思決定支援に影響を与える要因の検討
高野 智早（福井大学医学部附属病院 看護部）
- P6-67 化学療法継続ではなく自宅療養を優先し、乳癌患者の希望を叶えた 1 例
西川 さや香（豊川市民病院 乳腺外科、豊川市民病院 緩和ケアチーム）
- P6-68 急性期病院における DNAR と ACP
三浦 康誠（菊名記念病院外科）
- P6-69 ACP（アドバンス・ケア・プランニング）に関する医療者の認識
～5 年間のもしバナカードを用いた ACP 研修のアンケート調査より～
吹田 智子（箕面市立病院 患者支援センター 相談支援室）
- P6-70 演題取り下げ
- P6-71 アドバンス・ケア・プランニングの実践に対する看護師の困難感低減に関する教育的要因
松尾 恵子（日本赤十字社和歌山医療センター看護部）
- P6-72 岡山県のがん患者におけるアドバンスケアプランニング意識の認知率と話し合いの希望に影響を与える社会的要因
片山 英樹（岡山大学病院緩和支援医療科）
- P6-73 「世界で初めて」のその前に～本質的な意思決定支援と緩和ケアのあり方～
吉田 輝々（埼玉医科大学総合医療センター緩和医療科）
- P6-74 当院でのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）実践への取り組みと医療従事者の意識調査
池田 翼（総合病院 落合病院 麻酔科）
- P6-75 急性期病院から継続するアドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning : ACP）における一考察
本田 輝子（独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター）
- P6-76 当院の意思決定支援についての現状と課題
田原 由季（公立学校共済組合 中国中央病院 緩和ケアチーム）
- P6-77 意思確認困難患者における意思決定支援のチームアプローチ～代諾者がいない患者背景においてできること～
小林 亜樹（甲府城南病院 循環器内科、甲府城南病院 心不全緩和ケアチーム）
- P6-78 多職種カンファレンスを活用した意思決定支援の取り組み
穴見 里奈（九州大学病院南棟 6 階 2 病棟）
- P6-79 ACP に関する急性期病院職員の意識調査
江島 やよい（福岡大学筑紫病院 看護部）
- P6-80 地域密着型の中小病院における ACP の取り組み
向 一美（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）
- P6-81 筋萎縮性側索硬化症患者の意思決定支援に、多施設多職種で関わり支援した一例
宇田 真記（医療法人清友会 清水医院）
- P6-82 急性期病院において全ての入院患者に人生の最終段階と意思表明の可否をスクリーニングする試み
會津 恵司（春日井市民病院 外科 がん相談支援センター）
- P6-83 つなぐ ACP サマリーの構築
道岸 奈緒美（国家公務員共済組合連合会 北陸病院）
- P6-84 臨床倫理検討委員会の設立とその役割：病院内での倫理的課題への取り組み
吉澤 聖道（松本市立病院）

- P6-85 **精神障害があり代理意思決定者がいない造血器腫瘍患者の意思決定支援に関する一事例**
豊田 賀子（豊川市民病院看護師）
- P6-86 **わたしの生き方ノートの実態調査**
新川 恵美（聖峰会 田主丸中央病院 TQM 部）
- P6-87 **アドバンス・ケア・プランニングに関する山梨大学医学部附属病院初期研修医の意識調査**
秋田 一樹（山梨大学医学部附属病院麻酔科学講座）

**多職種協働・チーム医療
(P6-88～P6-121)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)

7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)

ポスター会場

- P6-88 **緩和ケア病棟での多職種協働によるリハビリテーションの工夫**
遠藤 彩加（三友堂病院 リハビリテーション部）
- P6-89 **外部歯科衛生士と協働した口腔ケアチームの活動報告～口腔管理体制構築に向けた取り組み～**
溝上 千代美（一般社団法人 朝倉医師会 朝倉医師会病院 緩和ケア病棟）
- P6-90 **当院乳癌外科における薬剤師診察前外来の取り組み ～患者の気になることや不安に多職種で寄り添う～**
阿部 美佐緒（地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院 薬剤部）
- P6-91 **緩和ケアチームと病棟担当管理栄養士との協働による患者支援**
内田 理恵（静岡済生会総合病院 栄養管理科）
- P6-92 **精神科医や公認心理師の緩和ケアチーム回診同行による依頼状況の変化**
齋藤 百代（市立函館病院）
- P6-93 **医療用麻薬を拒む患者に対し症状体験からケアを検討した一例**
小山 智美（北海道公立大学法人 札幌医科大学附属病院）
- P6-94 **仰臥位時の疼痛により放射線照射が困難であった患者に対し、non-operating room anesthesia(NORA) によって治療を完遂した事例**
菊地 真由（亀田総合病院 疼痛・緩和ケア科）
- P6-95 **盲ろう者末期がん患者に対して多職種チームで緩和ケアを実践した一例**
布間 寛章（川崎市立井田病院緩和ケア内科）
- P6-96 **放射線科と協働で取り組む、より良く生きるための積極的な症状緩和**
森山 久美（川崎市立多摩病院 緩和ケア内科、聖マリアンナ医科大学 緩和医療学）
- P6-97 **がん患者の自殺予防リスクマネジメント研修を受けた職員が考えた対応方法から見た課題**
重廣 奈緒子（JA 尾道総合病院 緩和ケアチーム）
- P6-98 **自院で運用しやすい自殺予防マニュアル作成に向けた取り組み**
小田原 めぐみ（JA 尾道総合病院 緩和ケアチーム、JA 尾道総合病院 看護科）
- P6-99 **ケミカルコーピングの背景に自閉スペクトラム症の影響が考慮された隣がん患者の一例**
高橋 彩子（昭和大学医学部内科学講座緩和医療学部門）
- P6-100 **精神障害を抱えた母娘の看取りに向けた多職種支援 ～娘の自立を見据えた関わりを通して～**
阿部 香織（一般財団法人やまとコミュニティホスピタル光ヶ丘スペルマン病院緩和ケア病棟）
- P6-101 **肺がんに罹患した夫と軽度認知症を抱える妻を専門職チームで支えた 1 事例の報告**
真上 美千子（南風病院 看護部）
- P6-102 **自宅の 2 階の部屋に帰りたい ～予後を伝えることで本人の希望が実現できた 1 例～**
仲間 有希（市立敦賀病院 緩和ケアチーム、市立敦賀病院 看護部）
- P6-103 **「地方都市における高齢者がん患者を支える多職種協働体制プログラム」
～共に支え、心を紡ぐ、コンパッション・シティ“あらお”を～**
濱口 裕光（荒尾市立有明医療センター）
- P6-104 **「虐待」と認定され分離となった患者・家族が同居に至るまでの関わりを振り返る**
金城 ユカリ（社会医療法人敬愛会 中頭病院 外来）
- P6-105 **施設で暮らすがん終末期患者・家族を取り巻く多職種連携：文献検討**
穴沢 みう（医療法人一歩会 緩和ケア診療所いっぽ、群馬大学大学院保健学研究科博士前期課程）
- P6-106 **外来化学療法室看護師と訪問看護師との連携により患者が希望する通院治療を支援した一例**
牧野 路子（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター、福井大学医学部附属病院 看護部）

- P6-107 **乳がん専門病院における地域連携型骨転移カンサーボードの構築**
太良 哲彦 (社会医療法人博愛会 相良病院 緩和ケア内科、社会医療法人博愛会 相良病院 腫瘍内科)
- P6-108 **びまん性橋脚腫の患者と家族への介入に関する実態調査 (第1報) —多職種連携の実態—**
矢括 葉南子 (国立成育医療研究センター看護部)
- P6-109 **高齢者機能評価に基づいて緩和ケアチームが入院前から介入する体制の効果**
平野 勇太 (国立がん研究センター東病院 看護部)
- P6-110 **複数の多職種チーム間での迅速な情報共有と方針検討が在宅療養生活の質向上につながったと思われる重症心不全の1例**
齋藤 義之 (医療法人立川メディカルセンター 立川総合病院 緩和治療内科)
- P6-111 **STAS-Jを活用した多職種カンファレンス**
石川 美奈 (松江市立病院 緩和ケア病棟)
- P6-112 **地域がん診療拠点病院としての専門性緩和医療の支援と課題 ~同一医療圏の中核病院への支援活動を通じて~**
今井 奨 (高山赤十字病院 がん緩和ケアセンター)
- P6-113 **緩和ケアチーム専従看護師として活動する認定看護師が感じている困難**
小泉 はるか (日本医科大学千葉北総病院 看護部、元国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所 がん看護 CNS コース)
- P6-114 **外来がん患者カンファレンスの一考察**
大西 真理 (独立行政法人市立東大阪医療センター 看護局)
- P6-115 **緩和的放射線治療普及にむけた日本放射線腫瘍学会の取り組み**
角田 貴代美 (大阪市立総合医療センター 緩和ケア内科兼放射線治療科)
- P6-116 **専門的緩和ケアを担う医療者に求められる Interprofessional Work に必要なコンピテンシー原案の作成**
高坂 美紗子 (京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻)
- P6-117 **在宅緩和ケア充実診療所である当院における、新規患者問診シートの運用実績**
山田 恵利華 (村尾在宅クリニック)
- P6-118 **発達障害がある若年婦人科がん患者の特性に合わせた意思決定および治療期の支援**
寺島 智子 (恩賜財団済生会横浜市東部病院がん相談支援センター)
- P6-119 **危機的状況で搬送された進行がん患者に対する救急科入院下での意思決定支援**
渡辺 温子 (帝京大学医学部緩和医療学講座、帝京大学医学部附属病院緩和ケアセンター・緩和ケアチーム)
- P6-120 **化学療法を受けている患者が看護師に求めていること 統一した看護提供をめざしたアンケート調査を行って**
田原 雪乃 (社会医療法人敬愛会中頭病院 血液腫瘍内科・消化器内科病棟)
- P6-121 **職員による患者・家族に対するハンドベル演奏が職員自身に与えた影響について**
杉 真恵 (川崎市立井田病院緩和ケア内科)

**医療者のストレス・燃え尽き症候群
(P6-122 ~ P6-123)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-122 **A病院の緩和ケア病棟および一般病棟看護師の終末期がん患者に対する緩和ケアに関する困難感の実態**
佐藤 恵 (みやぎ県南中核病院 緩和ケア病棟)
- P6-123 **がん終末期患者と家族のケアに携わる一般病棟看護師の思い**
中村 陽子 (山梨大学医学部附属病院看護部)

**倫理的問題
(P6-124 ~ P6-129)**

7月4日(金)16:30 ~ 17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00 ~ 15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-124 **重症低血糖症の治療を拒否した終末期転移性肝腫瘍患者を巡る「比較類型論」的臨床倫理分析の試み**
中村 健児 (相澤病院)
- P6-125 **胃癌に対する画像下治療 (IVR) について、倫理的ジレンマを多職種で共有し意思決定支援を行なった一例**
大塚 友貴 (飯塚病院連携医療・緩和ケア科)
- P6-126 **演題取り下げ**
- P6-127 **一般病院における DNAR 同意書・ガイドライン作成と運用**
吉野 和穂 (小田原市立病院)

- P6-128 苦痛緩和を望まないがん終末期の利用者にとって最善の選択肢とは ～看護・介護者が向き合った倫理的課題とは～
長谷川 記三子 (訪問看護ステーション Style)
- P6-129 BSC の方針となり転院してきた患者の治療継続を多職種で支えた一例～倫理カンファレンスの実践を振り返る～
小松 真由子 (日本赤十字社 福島赤十字病院)

**制度設計・政策・費用対効果
(P6-130～P6-132)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-130 行政と病院が協働し行う緩和ケア医育成事業『横浜市緩和医療専門医育成プログラム』
日下部 明彦 (横浜市立大学医学部医学科総合診療医学、横浜市立大学附属病院緩和ケアセンター)
- P6-131 コンパッションコミュニティへの小さな一歩
齊藤 英一 (新生病院)
- P6-132 地域がん診療連携拠点病院における緩和医療領域の施設基準管理に関する一考察
影山 雪子 (公立大学法人横浜市立大学附属病院 医学・病院統括部 医事課)

**評価尺度
(P6-133～P6-135)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-133 日本で使用可能ながん患者の介護者の負担の程度を測定するスケールに関する文献レビュー
富永 奈央 (三重大学医学部看護学科)
- P6-134 遺族からみた臨終期患者のケアの質の評価：
中国語版 International Care Of the Dying Evaluation (i-CODE) の信頼性・妥当性の検討
鄭 雪嬌 (東北大学医学系研究科緩和ケア看護学研究室)
- P6-135 在宅緩和ケアにおけるケアの質の総合評価と医療者の自己評価測定の可能性
石井 洋介 (医療法人社団おうちの診療所 中野、医療法人社団おうちの診療所 目黒)

**その他の教育・啓発・研究
(P6-136～P6-156)**

7月4日(金)16:30～17:00(偶数番号)
7月5日(土)15:00～15:30(奇数番号)
ポスター会場

- P6-136 予後月単位と週単位の終末期がん患者のせん妄の発症予防に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
菅野 雄介 (東京科学大学)
- P6-137 予後月単位と週単位の終末期がん患者の呼吸困難に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
角甲 純 (三重大学大学院)
- P6-138 予後月単位と週単位の終末期がん患者の悪心・嘔吐に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
小林 成光 (聖路加国際大学)
- P6-139 予後月単位と週単位の終末期がん患者の家族介護者の介護負担に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
梶原 弘平 (日本赤十字九州国際看護大学看護学部)
- P6-140 予後月単位と週単位の終末期がん患者の便秘に対する看護支援の実態調査：多施設横断調査
中野 貴美子 (三重大学医学部附属病院)
- P6-141 学校におけるがん教育において主体的な深い学びや自己理解を促進するための心理社会的支援についての一考察
西内 俊朗 (川口短期大学こども学科)
- P6-142 認知症高齢者を在宅介護する家族介護者の介護負担感とウェアラブルデバイスを用いた脈拍変化の関連
梶原 弘平 (日本赤十字九州国際看護大学看護学部)
- P6-143 地域貢献活動としての研修評価と課題 ～専門性の高い看護におけるパッケージ見学研修を開催して～
團塚 恵子 (札幌医科大学附属病院)
- P6-144 がん関連倦怠感に対するアロマセラピーの影響に関するスコーピングレビュー
田中 乃愛 (三重大学医学部看護学科)
- P6-145 A 病院緩和ケア病棟における身体拘束に関する意識調査
餅原 香奈子 (潤和会記念病院 S6F 病棟勤務)
- P6-146 がん患者に対するアロマセラピーによる QOL への影響に関するスコーピングレビュー
浅井 ほの (三重大学医学部看護学科)
- P6-147 がん疼痛に対するアロマセラピーの影響に関するスコーピングレビュー
青木 理碧 (三重大学医学部看護学科)

- P6-148 **がんに伴う不安・抑うつに対するアロマセラピーの影響に関するスコopingレビュー**
大西 那弥 (三重大学医学部看護学科)
- P6-149 **放射線治療医の積極的介入による緩和的放射線治療件数の検討**
石丸 英三郎 (多根総合病院 緩和医療科)
- P6-150 **人工知能を用いた心不全緩和ケアコミュニケーショントレーニングモデルの開発**
岸川 理紗 (東京大学医学部附属病院循環器内科)
- P6-151 **一般病棟における看護師の緩和ケアの認識と実践の変化**
倉内 梨樺 (熊本大学病院 東病棟 7 階 婦人科、乳腺内分泌外科)
- P6-152 **一般病棟の看護師における終末期がん患者に対するケアリング行動の関連要因**
打田 絵里世 (島根大学医学部附属病院)
- P6-153 **香川大学医学部における全インド医科大学を対象とした JICA 委託事業緩和ケア研修 3 年目の活動報告
～がん相談支援センターの活動紹介を含む経験～**
村上 あきつ (香川大学医学部附属病院がんセンター、香川大学医学部臨床腫瘍学講座)
- P6-154 **看護師のアロマセラピーへの関心・効果の期待・活用方法・導入希望に関する実態調査**
佐久間 麻美 (東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻緩和ケア看護学分野、仙台市医療センター 仙台オープン病院)
- P6-155 **一般病棟における終末期がん患者の看護に対する看護師の困難感 ～ KJ 法を用いての調査結果～**
仲島 英里 (沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 5 階病棟)
- P6-156 **COVID-19 流行が入院緩和ケアに与えた影響 - 神奈川県国民健康保険レセプトデータを用いた時系列解析**
江頭 勇紀 (神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科)

PAL ポスター

PAL ポスター A

7月4日(金) 15:00～15:30
第9会場

座長：尾阪 咲弥花 (聖路加国際病院 緩和ケア科)
轟 浩美 (認定 NPO 法人希望の会)

- PAL-P1 **企業内がん経験者コミュニティの活動と他疾病・他事情との両立との連携について**
村本 高史 (Can Stars)
- PAL-P2 **がん経験者 FP として関わる "自分らしさ" の選択支援～緩和ケア期の暮らしと制度をめぐって～**
辻本 由香 (治療と仕事の両立支援～はべすと～、つじもと FP 事務所)
- PAL-P3 **地域で広がるがん患者・家族・遺族へのピアサポートの実践と望～コンパッション・シティ実現の可能性～**
吉川 愛子 (I FOR YOU Japan)

PAL ポスター B

7月5日(土) 15:00～15:30
第9会場

座長：下山 理史 (愛知県がんセンター 緩和ケア部)
松本 陽子 (NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会)

- PAL-P4 **「生きる」を応援するアドバンスケアプランニング**
桜井 なおみ (一般社団法人 CSR プロジェクト)
- PAL-P5 **膵臓がん患者・家族と遺族で異なる主治医との相談しやすさと緩和ケアとのつながり
～膵臓がん患者・遺族会による活動報告より～**
梅尾 勲子 (膵臓がん患者夫婦の会)
- PAL-P6 **ホスピス見学会が患者の認識に与える影響 - 意識の変化と課題 -**
前田 留里 (NPO 法人京都ワーキング・サバイバー)